

千葉県外来種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|-----|-------------|---------------------------------|---------------|-------------------------------|--|---|--|------------------|---------------------|-----------------------------|-----------------------|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 哺乳類 | アカゲザル | <i>Macaca mulatta</i> | 哺乳綱霊長目オナガザル科 | インド、中国、東南アジアなど | 千葉県 | 館山市・白浜町・千倉町 | 生息数・分布が増加拡大中。2004年度の調査で、3〜5群、200頭以上が生息と推定。 | 観光施設orペットの放逐・逸出 | 観光施設orペットの放逐・逸出 | 1990年代以前(おそらく太平洋戦争以降) | 1990年代以前(おそらく太平洋戦争以降) |
| 哺乳類 | アライグマ | <i>Procyon lotor</i> | 食肉目アライグマ科 | 北アメリカ | 日本各地 | 夷隅地域、君津市、印西市を中心に、県内各地 | 生息数・分布が増加拡大中。 | ペットの放逐・逸出 | ペットの放逐・逸出 | 1960年代 | 1990年代 |
| 哺乳類 | イヌ | <i>Canis familiaris</i> | 哺乳綱食肉目イヌ科 | 家畜種 | 日本各地 | 県内各地 | 不明 | ペット・狩猟犬の放逐・逸出 | ペット・狩猟犬の放逐・逸出 | 不明 | 不明 |
| 哺乳類 | イノシシ | <i>Sus scrofa</i> | 哺乳綱偶蹄目イノシシ科 | 北アフリカの一部からユーラシア | 日本各地(国内移入) | 房総丘陵を中心とした地域、および下総町・成田市 | 生息数・分布が増加拡大中。2001年度の調査で、518km ² に生息と推定。 | 狩猟目的の放逐、飼育個体の逸出。 | 狩猟目的の放逐。一部に飼育個体の逸出。 | 不明 | おそらく1980年代以降 |
| 哺乳類 | オグロプレーリードッグ | <i>Cynomys ludovicianus</i> | 哺乳綱齧歯目リス科 | 北アメリカ | なし | 繁殖・定着は未確認 | 2000〜2001年の約1年間、野田市にあるゴルフ場に1頭が生息していた。 | ペットの放逐・逸出 | ペットの放逐・逸出 | 繁殖・定着は未確認 | 繁殖・定着は未確認 |
| 哺乳類 | カイウサギ | <i>Oryctolagus cuniculus</i> | 哺乳綱兎目ウサギ科 | ヨーロッパアナウサギの家畜種 | 日本各地(主に島嶼) | 鋸南町浮島 | 不明 | 飼育個体の放逐・逸出 | 飼育個体の放逐 | 19世紀ころ | 1980年代 |
| 哺乳類 | キョン | <i>Muntiacus reevesi</i> | 哺乳綱偶蹄目シカ科 | 中国南東部、台湾 | 千葉県、東京都伊豆大島 | 房総丘陵を中心とした地域 | 生息数・分布が増加拡大中。2001年度の調査で、507km ² に約400頭が生息していると推定。 | 観光施設からの逸出 | 観光施設からの逸出 | 1937〜1980年代の間 | 1960〜1980年代の間 |
| 哺乳類 | クマネズミ | <i>Rattus rattus</i> | 哺乳綱齧歯目ネズミ科 | 東南アジア(推定) | 日本各地 | 全域 | 不明 | まぎれこみ | 不明 | 史前(歴史時代という説もある。) | 不明 |
| 哺乳類 | ドブネズミ | <i>Rattus norvegicus</i> | 哺乳綱齧歯目ネズミ科 | 中央アジア(推定) | 日本各地 | 全域 | 不明 | まぎれこみ | 不明 | 史前(江戸時代という説もある。在来種という説もある。) | 不明 |
| 哺乳類 | ネコ | <i>Felis catus</i> | 哺乳綱食肉目ネコ科 | 家畜種 | 日本各地 | 県内各地 | 不明 | ペットの放逐・逸出 | ペットの放逐・逸出 | 不明 | 不明 |
| 哺乳類 | ハクビシン | <i>Paguma larvata</i> | 哺乳綱食肉目ジャコウネコ科 | 中国南東部、台湾、東南アジアなど | 日本各地 | ほぼ全域 | 生息数・分布が増加拡大中。 | 毛皮用養殖個体の放逐・逸出 | 茨城県から分布拡大した可能性が高い。 | 太平洋戦争終戦前後ころ | 1980年代 |
| 哺乳類 | ハツカネズミ | <i>Mus musculus</i> | 哺乳綱齧歯目ネズミ科 | 不明 | 日本各地 | 全域 | 不明 | まぎれこみ | 不明 | 史前(歴史時代という説もある。) | 不明 |
| 哺乳類 | フェレット | <i>Mustela putorius furo</i> | 哺乳綱食肉目イタチ科 | ヨーロッパケナガイタチの家畜種 | なし | 繁殖・定着は未確認 | 1990年代前半に千葉支庁管内で1頭が捕獲されたが、その後は生息情報なし。 | ペットの放逐・逸出 | ペットの放逐・逸出 | 繁殖・定着は未確認 | 繁殖・定着は未確認 |
| 哺乳類 | マスカラット | <i>Ondatra zibethicus</i> | 哺乳綱齧歯目ネズミ科 | 北アメリカ | 千葉県、東京都、埼玉県 | 千葉県行徳野鳥観察舎(市川市)周辺 | 不明 | 毛皮用養殖個体の放逐・逸出 | 毛皮用養殖個体の放逐・逸出 | 太平洋戦争終戦前後ころ | 太平洋戦争終戦前後ころ |
| 哺乳類 | ワラビー類 | <i>Macropodidae sp.</i> | 哺乳綱有袋目カンガルー科 | オーストラリア | なし | 繁殖・定着は未確認 | 1990年代に、天津小湊町、大多喜町、君津市にて、複数の目撃情報あり。 | ペットの放逐・逸出 | ペットの放逐・逸出 | 繁殖・定着は未確認 | 繁殖・定着は未確認 |
| 鳥類 | アヒル | | カモ目カモ科 | | 全国各地 | 県内各地 | 池や河川等で見られる | 飼育個体の逸出 | 飼育個体の逸出 | 不明 | 不明 |
| 鳥類 | コウライキジ | <i>Phasianus colchicus karp</i> | キジ目キジ科 | 朝鮮半島 | 北海道・対馬に放鳥されたほか、本州でも記録がある | 不明 | 不明 | 狩猟のため放逐 | 狩猟のため放逐 | 不明 | 不明 |
| 鳥類 | コジュケイ | <i>Bambusicola thoracica th</i> | キジ目キジ科 | 中国南部 | 本州以南に分布 | 県内各地 | 樹林等で繁殖する | 狩猟のため放逐 | 狩猟のため放逐 | 1918年 | 不明 |
| 鳥類 | コブハクチョウ | <i>Cygnus olor</i> | カモ目カモ科 | ユーラシア大陸北部で繁殖中国東部、朝鮮半島等で越冬 | 北海道ウトナイ湖で繁殖、霞ヶ浦等で越冬するほか、各地で観察例がある。 | 県北部等で観察例がある | 佐原市外浪逆浦では巣を作って繁殖するものもあり | ペットの放逐・逸出 | ペットの放逐・逸出 | 1975年 | 不明 |
| 鳥類 | シジュウカラガン | <i>Branta canadensis</i> | カモ目カモ科 | 北アメリカ? | 山中湖、河口湖等で繁殖 | 手賀沼等で観察例がある | 繁殖は確認されていない | ペットの放逐・逸出 | ペットの放逐・逸出 | 不明 | 2000年以降と思われる |
| 鳥類 | ドバト | <i>Columba livia</i> | ハト目ハト科 | ユーラシア大陸中西部、北アフリカ | 全国各地 | 県内各地 | 市街地で普通に見られる | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 |
| 鳥類 | ワカケホンセイインコ | <i>Psittacula krameri manil</i> | インコ目インコ科 | 南アジア、アフリカ | 本州各地で繁殖例がある | 千葉市 | ねぐらが確認されている | ペットの放逐・逸出 | ペットの放逐・逸出? | 1969年 | 不明 |
| 爬虫類 | カミツキガメ | <i>Chelydra serpentina</i> | カメ目カミツキガメ科 | カナダ南部からアメリカ合衆国、中部アメリカを経てエクアドル | 日本では1970年頃にはペットとして流通し、日本各地の野外から放逐もしくは逃出したとみられる個体が発見されるようになり社会問題のひとつとして注目されるようになった。また、印旛沼以外では神奈川県大磯丘陵でまとまった数が捕獲されたほか、2003年には武蔵野市の保育園(産経新聞03.11.7)、2004年には都内の公園で孵化個体が確認(佐藤 私信)された。 | 印旛沼周辺では1978年9月に高崎川で捕獲された記録(NHKニュース)が最も古く、鹿島川からも1986年に報告されている(産経新聞1986.6.12)。また、1990年代中頃からは、印旛沼の定置網で混獲されるようになった(千葉日報1998.9.12)。佐倉市の自然環境調査によれば1998年から1999年にかけて35個体が鹿島川、および高崎川で捕獲もしくは確認された(小林他2000)。 | 2002年には印旛沼周辺において野外での繁殖(産卵、孵化、交尾行動)が確認された(小林未発表) | ペット用 | ペット用 | 1970年代? | 1978年の報告が最も古い記録 |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|-----|-------------|---|-------------------|--|----------------------------|-------------|-----------------------------|--|----------------------------------|--|---------------------|---------------------------------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 哺乳類 | アカゲザル | 体重5-8kg 頭胴長47-64cm 尾長19-30cm | 陸域：森林 | メンバーの決まった数10頭-100頭以上の群れで森林内を遊動する。 | 森林 | 不明 | 1産1子 | 主に植物の実や葉 | ニホンザルとの交雑 | 農作物被害 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 哺乳類 | アライグマ | 体重4-10数kg 頭胴長41-60cm 尾長20-41cm | 陸域（森林、農村地域、住宅地など） | 木登りが得意。水辺を好む。 | 樹洞、人家の屋根裏など | 春 | 3-6頭ほどの子を出産 | 雑食性（昆虫類、小型の脊椎動物、果実など） | 採食の影響、在来の中型雑食獣との競合、フクロウ類の繁殖樹洞の占拠 | 農作物被害 | 天井裏の糞尿・騒音、飼育魚の捕食 | 現在のところ、なし（アライグマ回虫の危険性が指摘されている） |
| 哺乳類 | イヌ | 体重- 頭胴長- 尾長- | 陸域 | 単独で暮らす場合もあるが、数頭で群れをつくることが多い。 | 森林、農村地域、住宅地 | 季節を問わず？ | 数頭の子を出産 | 雑食性 | 不明 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 咬傷被害の可能性あり |
| 哺乳類 | イノシシ | 体重50-150kg 頭胴長120-150cm 尾長14-23cm | 陸域：森林、農村地域 | 単独ないし母系的小集団で暮らす。 | 森林 | 春-秋 | 2-8頭（平均4-5頭）の子を出産 | 雑食性（植物の根茎や堅果、ミミズなど） | 採食の影響、タカサゴキラマダニの増加 | 農作物・タケノコ被害 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 哺乳類 | オグロプレーリードッグ | 体重0.9-1.5kg 頭胴長28-35cm 尾長8-11cm | 陸域：草地 | 草地に巣穴を掘り、社会的集団で暮らす。 | 草地 | 不明 | 不明 | 植食性（主に草） | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし（腺ペスト等の伝播の危険性が指摘されている） |
| 哺乳類 | カイウサギ | 体重1.4-2.3kg 頭胴長38-50cm 尾長4-7cm | 陸域：森林、草地 | 森林や草地に生息する。 | 森林、草地 | 年に数回 | 地面に穴を掘って、4-6頭ほどの子を出産 | 植食性（植物の葉、枝、樹皮など） | 採食の影響 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 哺乳類 | キョン | 体重10kg 頭胴長70cm 程度尾長7-11cm | 陸域：森林 | ほとんど単独で行動する。犬の吠え声のような大きな警戒声を発する。 | 森林 | 特定の出産期はないよう | 1産1子 | 植食性（木の葉や実、草） | 採食の影響 | 農作物被害 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 哺乳類 | クマネズミ | 体重150-200g 頭胴長15-24cm 尾長15-26cm | 陸域：都市部 | ビルや天井裏など比較的乾燥した高所に生活する。木登りが得意。 | 人家・ビル内 | 年に数回 | 2-10頭（平均5-6頭）の子を出産 | 雑食性（種実類が多い） | 採食の影響 | 現在のところ、なし | 食品の食害、様々なものを齧る、糞尿被害 | 病気の伝播（広東住血線虫などの主要宿主） |
| 哺乳類 | ドブネズミ | 体重150-500g 頭胴長18-26cm 尾長15-22cm | 陸域：下水道、地下街 | 下水管や地下街など比較的湿った場所を好む。 | 土中（植え込みなど）、建築物内 | 年に数回 | 1-18頭（平均8-9頭）の子を出産 | 雑食性（動物質が多い） | 採食の影響 | 現在のところ、なし | 食品の食害、様々なものを齧る、糞尿被害 | 現在のところ、なし |
| 哺乳類 | ネコ | 体重2-6kg 頭胴長- 尾長- | 陸域 | 生ゴミに依存することが多い。小動物を活発に捕食する。 | 森林、農村地域、住宅地 | 季節を問わず？ | 数頭の子を出産 | 雑食性 | 採食の影響（コアジサシのヒナなど） | 現在のところ、なし | 庭での脱糞 | 現在のところ、なし |
| 哺乳類 | ハクビシン | 体重3-5kg 頭胴長48-60cm 尾長38-43cm | 陸域：森林、農村地域、住宅地など | 木登りが得意。 | 樹洞、人家（屋根裏） | 春-秋 | 2-4頭の子を出産 | 雑食性（昆虫類、陸生貝類、小型の脊椎動物、果実など） | 採食の影響、中型雑食獣との競合 | 農作物被害 樹上の果実を食害する。 (安房郡のミカン生産農家、ビワ生産農家) | 天井裏の糞尿被害・騒音 | 現在のところ、なし |
| 哺乳類 | ハツカネズミ | 体重9-23g 頭胴長57-91mm 尾長42-80mm | 陸域：家屋、農耕地、草地 | 家屋、農耕地、草地などに生息する。 | 人家内、草地など | 年に数回 | 平均5-6頭の子を出産 | 雑食性（種実類が多い） | 採食の影響 | 現在のところ、なし | 食品の食害、様々なものを齧る、糞尿被害 | 現在のところ、なし |
| 哺乳類 | フェレット | 体重0.9-1.1kg 頭胴長30-36cm 尾長13-15cm | 陸域：森林、農村地域 | | 森林、農村地域 | 不明 | 不明 | 雑食性 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 哺乳類 | マスカラット | 体重0.5-1.5kg 頭胴長23-32cm 尾長18-29cm | 陸域：湖沼、湿地 | 湖沼や湿地に生息する。 | 湖沼・湿地 | 年に数回 | 4-8頭ほどの子を出産 | 主に水生植物 | 採食の影響 | 不明（かつてはハスの食害） | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 哺乳類 | ワラビー類 | 体重- 頭胴長- 尾長- | 陸域 | 原産地では疎林に生息する種が多い。 | 森林 | 不明 | 不明 | 植食性 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 鳥類 | アヒル | 全長59cm | 淡水域 | 湿地に生息する | 湿地 | 春~夏 | | 植食性 | カルガモ、マガモとの交雑 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 鳥類 | コウライキジ | 全長♂80cm, ♀60cm | 陸域 | | | 春~夏 | | 雑食性 | 自然繁殖個体群（キジ）との交雑 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 鳥類 | コジュケイ | 全長27cm | 陸域 | | | | | 雑食性 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 鳥類 | コブハクチョウ | 全長152cm | 淡水域 | 湿地に生息する | 湿地 | 春~夏 | | 主に水生植物 | 野生種との交雑 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 鳥類 | シジュウカラガン | 全長67cm? | 淡水域 | 湿地に生息する | 湿地 | 春~夏 | | 主に水生植物 | 野生種との交雑 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 鳥類 | ドバト | 全長32cm | 陸域 | 社寺や公園等に多い | 社寺や橋脚等 | ほぼ通年 | 2卵を産む | 植食性 | 不明 | 農作物被害 | 建物等への糞被害 | 感染症の媒介が懸念されるが、現在のところ、なし |
| 鳥類 | ワカケホンセイインコ | 全長40cm | 陸域 | | 樹洞 | | 3-4卵を産む | 植食性 | 樹洞営巣種への圧迫 | 不明 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし |
| 爬虫類 | カミツキガメ | 甲長45cm以上、体重30kg以上 | 淡水域 | 極めて長寿命で飢餓耐性が強いので、一旦定着すると影響が長期化する恐れが高い。産卵数も多く、原産地におけるアライグマのような捕食者が存在しない場合には、個体群の増殖率が原産地よりも高くなる可能性がある。 | 生息地の河川堤防や周囲の水田畔で産卵が確認されている | 6月 | 卵生、メス1個体が1回の産卵で20-50個の卵を産む。 | 基本的に水生動物を捕食する肉食性であるが、胃の内容物から水生植物が確認されることもある。 | 在来の水生生物への捕食圧 | 農作業中に咬傷被害が発生する可能性がある | 不明 | 水辺で遊ぶ子供達が、咬傷被害を受ける可能性がある |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 |
|-----|-------------|---------------|--------|---|--------------------|---|--|---|---------------|--|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | |
| 哺乳類 | アカゲザル | A | A | ニホンザルとの間で交雑がすでに確認されており、危機的状況にある。 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | 実態調査・全頭捕獲・食害の技術的防除 | なし | 房総のサル調査会編(1999)、萩原・川本(2001)、萩原ほか(2003)、川本ほか(2004) | | |
| 哺乳類 | アライグマ | B | A | 北海道や神奈川県から今後、農作物被害や生態系への影響が増大するものと予測される。繁殖・定着が確認されているのは県内3地域であり、定着初期における早急な対策が望まれる。 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | 実態調査・食害の技術的防除・捕獲駆除 | 外來種ハンドブック(日本生態学会 2002)、鈴木(2005) | 落合ほか(2002) | | 尾に数本の黒い縞模様がある。 |
| 哺乳類 | イヌ | 情報不足 | B | 通報等に応じて、行政による駆除が実施されている。生態系への影響は不明である。 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | 必要に応じた捕獲駆除 | なし | なし | | |
| 哺乳類 | イノシシ | B | A | 近年、県内における農林作物被害金額が1億円を超えており、総合的な対策が必要である。 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | 実態調査・捕獲駆除・食害の技術的防除 | 外來種ハンドブック(日本生態学会 2002) | 浅田ほか(2001)、房総のシカ調査会編(2001、2002) | | 国内外來種。イノブタを含む。在来個体群は昭和40年代ころに絶滅した可能性が高い。 |
| 哺乳類 | オグロブレイリードッグ | 情報不足 | C | これまで1頭の生息が確認されただけであり、繁殖・定着情報は得られていない。 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | — | なし | 東京新聞(2001年5月2日付け特報ちば) | | 繁殖・定着は未確認 |
| 哺乳類 | カイウサギ | 情報不足 | C | 浮島における調査は実施されておらず、自然植生等に対する影響は不明である。 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | 実態調査 | 外來種ハンドブック(日本生態学会 2002) | 仲真(2002) | | |
| 哺乳類 | キョン | C | B | 農作物被害が生じているが、今のところ顕著ではない。生態系への影響は、ほとんど分かっていない。 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | 実態調査・捕獲駆除・食害の技術的防除 | 外來種ハンドブック(日本生態学会 2002) | 浅田ほか(2000)、房総のシカ調査会編(2001、2002) | | 勝浦市にあった観光施設が移入源と考えられる。 |
| 哺乳類 | クマネズミ | C | B | 生活被害に応じて、駆除業者等による駆除が実施されている。 | とくになし | 必要に応じた捕獲駆除 | 宇田川(1974)、矢部(1988)、外來種ハンドブック(日本生態学会 2002) | なし | | |
| 哺乳類 | ドブネズミ | C | B | 生活被害に応じて、駆除業者等による駆除が実施されている。 | とくになし | 必要に応じた捕獲駆除 | 宇田川(1974)、矢部(1988) | なし | | |
| 哺乳類 | ネコ | C&情報不足 | C | 千葉市内で、希少種であるコアジサシのヒナが捕食されている。状況に応じて、地域的な捕獲が必要かもしれない。その他の地域における生態系への影響は不明である。 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | 必要に応じた捕獲駆除 | 外來種ハンドブック(日本生態学会 2002) | なし | | |
| 哺乳類 | ハクビシン | B | B | すでに全県的に生息し、果樹等の食害が増大している。地域的に生息を抑制するなどの対策が望まれる。 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | 実態調査・捕獲駆除・食害の技術的防除 電柵による果樹の囲い込み(効果あり) ワナによる捕殺(効果あり) | 外來種ハンドブック(日本生態学会 2002) | 落合(1998)、落合・浅田(2002) | | 顔の中央の白線が目立つ。 |
| 哺乳類 | ハツカネズミ | C | B | 生活被害に応じて、駆除業者等による駆除が実施されている。 | とくになし | 必要に応じた捕獲駆除 | 宇田川(1974)、矢部(1988) | なし | | |
| 哺乳類 | フェレット | 情報不足 | C | これまで1頭が捕獲されただけであり、繁殖・定着情報は得られていない。 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | — | なし | なし | | ヨーロッパではウサギを巣穴から追い出すために飼育されてきた。繁殖・定着は未確認 |
| 哺乳類 | マスカラット | 情報不足 | C | かつては栽培ハスに対する食害が生じていたが、ハス田の消失とともに被害報告はなくなった。調査は実施されておらず、自然植生等に対する影響は不明である。 | 外來種問題の普及啓発 | 実態調査 | なし | 五十嵐(2002) | | |
| 哺乳類 | ワラビー類 | 情報不足 | C | 複数の目撃情報が得られているが、繁殖・定着情報は得られていない。 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | — | なし | なし | | 繁殖・定着は未確認 |
| 鳥類 | アヒル | B | B | | 飼育管理の強化 | | | 特になし | | |
| 鳥類 | コウライキジ | D | B | | 捕獲駆除 | 特になし | | 特になし | | |
| 鳥類 | コジュケイ | D | C | | 飼育管理の強化 | 特になし | | 特になし | | |
| 鳥類 | コブハクチョウ | D | C | 不明 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | 特になし | 環境庁、1976-。ガンカモ科鳥類の生息調査。 | 特になし | | |
| 鳥類 | シジュウカラガン | D | C | 不明 | 飼育管理の強化・外來種問題の普及啓発 | 特になし | 環境庁、1976-。ガンカモ科鳥類の生息調査。 | 特になし | | 亜種は未確定。カナダガンとも呼ばれる |
| 鳥類 | ドバト | C | B | 生活被害に応じて、駆除業者等による駆除が実施されている。 | 外來種問題の普及啓発 | ネットによる進入防止、捕獲駆除、給餌の規制 | | 特になし | | |
| 鳥類 | ワカケホンセイインコ | D | C | | 外來種問題の普及啓発 | 特になし | | 齋藤映樹・戸辺進・鴫田真紀子・桑原和之、2005。ワカケホンセイインコ・千葉市に増。みみずく鳥獣救護ボランティア通信38:3-5。 | | ホンセイインコの一亜種(ワカケホンセイインコは亜種名) |
| 爬虫類 | カミツキガメ | A | A | 定着個体群の総個体数および分布範囲に限られているうちに駆除を実施することが必要。時期が遅くなればなるほど、駆除は困難になる | 飼育固体の遺棄防止 | 野生化した集団の生態に関する基礎的研究と、駆除方法の検討を旨とした試験的駆除の実施 | 日本生態学会編・村上興正・鷺谷いずみ・監修(2002) 外來種ハンドブック。 地人書館。 | | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|-----|-------------|---|---------------|--|---|--|--|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 爬虫類 | グリーンアノール | <i>Anolis carolinensis</i> | トカゲ目イグアナ科 | 北アメリカの南東部 | 小笠原諸島、沖縄本島、神奈川県 | 定着は未確認 | 未記録 | 貨物に紛れたか愛玩動物として | 未記録 | 1960年代 | 未記録 |
| 爬虫類 | ミシシッピアカミミガメ | <i>Trachemys scripta elegans</i> | カメ目ヌマガメ科 | 北アメリカ東部 | 沖縄から北海道まで全国に定着 | 都市近郊の河川や調節池 | 定着し、繁殖していることはほぼ確実であるが、詳細な研究による実証はまだ行われていない。 | ペット用 | ペット用 | | 不明 |
| 爬虫類 | ミナミイシガメ | <i>Mauremys muticamutica</i> | カメ目バタグループカメ科 | 台湾、中国東部、インドシナ半島北部、ベトナムに基亜種が生息し、八重山諸島には亜種、ヤエヤマイシガメが生息する | ミナミイシガメの日本国内に | 千葉県印旛沼周辺において、淡水性カメ類の分布調査を行った結果、この地域で新たにまとまった数のミナミイシガメが捕獲された。ミナミイシガメがこの地域で定着している可能性が高いと判断された | 高崎川中流域では2000年から2004年までの5年間に、ミナミイシガメが29個体捕獲された。この地域では1998年と1999年の調査でも5個体が捕獲されており(小林他、2000)、また、幼体が確認されたこと、産卵が確認されたことから、本種が定着している可能性は極めて高い。 | ペット用? | ペット用? | 昭和初期 | 1990年代? |
| 両生類 | アフリカツメガエル | <i>Xenopus laevis</i> | 無尾目ヒバ科 | アフリカ大陸南部 | 関東地方で確認されているが、定着については不明 | 利根川・印旛沼水系で記録有り(大利根博物館) | 利根川下流域では1998年頃から本種の記録が報告されるようになった。複数の個体が複数年に渡って捕獲されていることから、定着している可能性がある。繁殖しているかどうかは不明。 | 実験動物として | 不明 | 1954年に実験動物として輸入された。野外への逸出年代は不明 | 1990年代 |
| 両生類 | ウシガエル | <i>Rana (Aquarana) catesbeiana</i> | 無尾目アカガエル科 | 北アメリカのロッキー山脈以東 | 北海道、本州、四国、九州、小笠原諸島、南西諸島 | 全域 | 県内ほぼ全域の池、ため池、湖沼、流のゆるい河川に生息している。 | 食用として導入 | 農家の副業として養殖を奨励するため、国家事業として日本各地に配布された。 | 1918年に日本に導入された | 昭和の初期 |
| 両生類 | トノサマガエル | <i>Rana (Pelophylax) nigromaculata</i> | 無尾目アカガエル科 | 本州、四国、九州 | 北海道にも移入され、定着している | 一箇所のみで生息が確認されている | 谷津干潟のビジターセンター内の池に定着 | 国内移入種 | 不明 | 国内移入種 | 1990年代 |
| 両生類 | ヌマガエル | <i>Rana (Limnodynastes) limnocharis</i> | 無尾目アカガエル科 | 四国、九州、南西諸島(先島諸島を除く)、本州中部地方以西 | 近年、関東地方各地での分布拡大が報告され、本州内での分布が北東部へ広がりつつある。 | 鋸南町、富山町など東京湾に面した一帯に定着している。2004年までに分布域の大幅な拡大は見られていない。一方、利根川流域では栃木県、群馬県境の渡瀬遊水池周辺から下流域に向かって分布を広げ、2004年夏には印旛沼に注ぐ高崎川流域の一部でも発見された。 | 左記、地域で繁殖し世代を繰り返していることは確実であり、生息域が拡大するおそれが大きい。 | 国内で自然分布拡大なのか、人為的な移動によるものなのか不明 | 不明 | 不明 | 1998年に確認された |
| 魚類 | アオウオ | <i>Mylopharyngodon piceus</i> | コイ目コイ科 | 中国大陸 | 利根川水系。他に湖沼・溜池などへの放流・生息が推測される。 | 利根川下流部で定着 | 数は少ない | ソウギョなどとともに移入 | ソウギョなどとともに移入 | 1942年 | 1942年 |
| 魚類 | オオクチバス | <i>Micropterus salmoides</i> | スズキ目サンフィッシュ科 | 北米大陸南東部 | 全国の河川緩流域、湖沼、ダム湖、溜池など | 県内各地の湖沼、溜池、ダム湖、河川緩流域など | 溜池など孤立した止水域や河川館流域などに広く生息している。 | 神奈川県芦ノ湖への釣目的の放流が初。その後複数回の移植放流の可能性はある | 不明であるが、釣り対象魚としての放流が主と推測される | 1925年が初。 | 1965年頃に手賀沼で記録 1983年に印旛沼で記録 |
| 魚類 | カダヤシ | <i>Gambusia affinis</i> | カダヤシ目カダヤシ科 | 北米ニュージャージー州からメキシコ湾岸を経てメキシコ中部まで | 本州から琉球列島 | 印旛沼・手賀沼をはじめ、県西部の都市部の河川、小櫃川まで | 都市部の河川下流域などに多く、メダカのすむような土水路には少ない | ボウフラ退治のために台湾から移入 | 不明 | 1916年 | 不明 |
| 魚類 | カムルチー | <i>Channa argus</i> | スズキ目タイワンドジョウ科 | アムール川から長江までの中国北・中部、朝鮮半島 | 北海道を除く各地 | 利根川水系下流域、印旛沼、手賀沼、栗山川、夷隅川など県内各地に散在 | 手賀沼で1945年に異常繁殖の記録。現在は各地にいるが多くはない様である | 朝鮮半島から奈良県に移入されたのがはじめ。 | 不明 | 1923~24年 | 不明 |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|-----|--------------|----------------------|--|---|-----------------------------------|-----------|---|---|--|----------------------------|----------------------------|------------------------------------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 爬虫類 | グリーンアノール | 最大の頭胴長75mm | 陸域 | オスはメスよりも大型になり、繁殖縄張りを構える。メスは孵化した翌年には性成熟し、産卵を始める。 | 日当たりのよい林縁部 | 4月～9月 | メスは1回に1個の卵を1から2週間に1回産む | 昆虫類 | 稀少昆虫類への高い捕食圧 | 不明 | 不明 | 不明 |
| 爬虫類 | ミシシippアカミミガメ | 雄、甲長20cm 雌、甲長28cm | 淡水域 | オスよりもメスの方が大型になり、メスは背甲長が28cm、体重2.5kgに達する。 | 生息地の池や沼、河川周辺の地面に穴を掘って産卵する | 6～7月 | 繁殖能力が高く、1回に20個以上の卵を年に数回産卵する。 | 雑食性 | 雑食性で、水草の他、魚類、両生類、甲殻類、貝類、水生昆虫などを広く摂食する、在来種の亀類とは、食物や日光浴場所、産卵場所、越冬場所が類似し、競合する | 不明 | 不明 | 成長した大型個体に噛みつかれた場合、咬傷被害が発生する恐れが大きい。 |
| 爬虫類 | ミナミイシガメ | 雄雌とも、甲長15-18cm | 淡水域 | オスはメスよりも若干大きくなる。生活史の特性は、在来の淡水性カメ類とほぼ同じと考えられる。 | 生息地の池や沼、河川周辺の地面に穴を掘って産卵する | 6～7月? | 2000年7月下旬に捕獲されたメス個体が、保管期間中に6個の卵を産卵した。 | 雑食性 | 在来種と食性や生活場所が大きく重なることから、競合の可能性があるが、定着した個体数がまだ少ないため、影響は顕在化していない。 | 不明 | 不明 | 不明 |
| 両生類 | アフリカツメガエル | 体長 50-130mm | 淡水域 | 変態後もほとんど水中で生活し、河川、湖沼から塩性湿地 | 河川、湖沼から塩性湿地 | 不明 | 卵生 | 在来のカエル類など水生生物を好んで捕食する性質を示す(飼育下での実験データ)。 | 皮膚に寄生するツボカビが在来種の病原微生物として猛威をふるったおそれが指摘されている | 不明 | 不明 | 不明 |
| 両生類 | ウシガエル | 体長110-185mm | 淡水域：沼、用水路、河川 | 6月以降に産卵されたものはオタマジャクシで越冬し、翌年の6月に変態、秋に変態するオタマジャクシは体長が7cm幼カエルが3.3cm、春に変態するものはオタマジャクシ11～12cm幼カエルが4.5cm 10月下旬～11月上旬に冬眠に入る | 湖沼、池、河川の下流など、広い水面を持ち、かつ水深のある静水域 | 5月～9月 | 卵は一週間で孵化しておたまじゃくしとなる。普通はそのまま越冬し、翌年の5～10月にかけて変態し、体長40mmの子ガエルになる。 | 幼少は植物を中心とした雑食。変態後は動物植に変わる。 | 幼体はゴイサギなどの鳥類やナマズに捕食されるほか、水生昆虫のマツモムシに体液を吸われることもある。 | 不明 | 住宅地周辺の沼地で騒音被害の届けが出されることがある | 不明 |
| 両生類 | トノサマガエル | 体長40-90mm | 淡水域 | 主に水田と用水路に生息する | 水田、池 | 4-6月 | | 昆虫類に加え、小型の両生類も捕食する | 在来水生生物への捕食 | 苗代の稚苗が踏み倒される場合がある | 不明 | 不明 |
| 両生類 | ヌマガエル | 体長 25-55mm | 淡水域 | 水田や一時的な水たまりなどの浅い止水に産卵し、幼生は夏期の高水温にも耐え、比較的短期間で変態する。圃場整備が行われた乾田にも高密度で生息し、在来種の生息個体数が激減した環境に侵入し繁栄しているものと考えられる。 | 水田 | 4～7月 | 卵生 | 昆虫などの無脊椎動物に加えて、他種のカエル幼体を捕食する傾向が見られる。 | 地域生態系への影響は未知数。 | 不明 | 不明 | 不明 |
| 魚類 | アオウオ | 全長60～100cm | 大河川下流緩流域、平野部の湖沼、掘割などの淡水域 | 大河川下流部やそれに連なる水域のやや深いところの生息。 | 大河川の緩流域 | 6～7月 | 流下卵を産卵し、流下中に淡水域で孵化できたものだけが生存。そのため、大河川以外繁殖できない。 | 主にタニシなどの貝類や底生動物。 | 不明 | 報告されていない | なし | なし |
| 魚類 | オオクチバス | 全長50cm | 淡水域。汽水域の可能性もあり。止水域や河川緩流域を好む。 | 春から秋は止水域や緩流域の浅所に生息。初夏に押すが営巣し、繁殖。冬季に深場に移り、集団で越冬。寿命は10数年～20年。稚魚期まではオスが保護するが、5cm位で単独生活に入る。メスは4～5年、オスは3～4年で成熟する。 | 湖沼等の止水域・緩流域の岸辺の水深1.5mくらいまでの砂底や砂礫底 | 5月上旬～7月上旬 | オスが岸辺の水深1.5m位までの水底に、楕円形の巣を作り、メスを次々に誘って産卵させ、孵化後体長5cmになるまで保護する。 | 体長5cmくらいまでは動物プランクトン、その後魚食性が強まり、多くの魚類を中心にさまざまな動物を食べる | 魚類を中心に、様々な動物を捕食することから、生物組成に与える影響が強いといわれ、特に溜池や小規模水域においてこの影響は強いと考えられている。 | 強度の捕食による在来の漁業対象種の減少があるとされる | なし | なし |
| 魚類 | カダヤシ | メス全長5cm、オス全長3cm | 淡水域から汽水域。水質汚染や高塩分に強く、市街地を流れる都市河川や、溜池から河口汽水域まで生息している。 | 一年中、同じ水域で生息。成熟は早く、5月に産まれたものは同年内に成熟する。 | 生息場所に同じ | 晩春～初秋 | 体内受精による卵胎生魚で、全長9mm位の仔魚を産む | 雑食性で、落下昆虫や動物プランクトン、糸状藻類などを食べる | メダカとの競合を問題にする意見がある | なし | なし | なし |
| 魚類 | カムルチー | 全長1m | 淡水域。平野部の湖沼や比較的大きな河川の緩流域。 | 流れの緩やかな場所や止水域の、水草の繁茂するような場所に、単独で生活する。冬季には泥の中などに潜り込み、ほぼ冬眠状態で過ごす。春の水温の上昇とともに活発になり、口に入る動物を追う。上総器官と呼ばれる空気呼吸器官があり、酸素の少ない場所でも生活できる。 | 生活場所と同じ水草の茂るような場所 | 5月～8月 | 雌雄が共同で浮き巣を作り、産卵し、雌雄で卵・稚魚を保護する。 | エビ類、魚類、カエル類など、ある程度の大きさのある動物食 | 動物食のため、異常繁殖があると他の生物の資源量に影響を与える可能性が指摘されている | 現状では報告なし | なし | なし |

千葉県外来種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 |
|-----|--------------|---------------|--------|---|----------------------------------|----------------|---|--|---------------|---|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | |
| 爬虫類 | グリーンアノール | 情報不足 | B | 存在を広報し、目撃情報が得られ次第、徹底的な捕獲・駆除を実施する。 | 餌として生きた個体の売買禁止 | なし | 日本生態学会編・村上興正・鷺谷いずみ・監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 | | | 神奈川県のある地域に小集団が定着し、すでに数年が経過しているという情報がある(神奈川県立生命の星地球博物館)。 |
| 爬虫類 | ミシシippアカミミガメ | A | B | 生息範囲の把握と駆除方法の確立が先決。 | 飼育用の販売を禁止する | なし | 日本生態学会編・村上興正・鷺谷いずみ・監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 | | | |
| 爬虫類 | ミナミイシガメ | 情報不足 | B | 生息範囲の把握と駆除方法の確立が先決。 | 飼育用の販売を禁止する | なし | 日本生態学会編・村上興正・鷺谷いずみ・監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 安川雄一郎 1995. ミナミイシガメ. P443-448. 日本の稀少な野生水生生物に関する基礎資料 (II). 日本水産資源保護協会、東京。 | 小林頼太・長谷川雅美(2005)千葉県印旛沼流域における外来種ミナミイシガメの定着について. 爬虫両生類学会報2005(2):150-154. | | |
| 両生類 | アフリカツメガエル | A | A | 繁殖力が高く、定着個体が長生きすることから、発見されしだい駆除を実施すべき。 | 効果的な捕獲方法の検索・開発による駆除、野外放逐の禁止 | なし | 日本生態学会編・村上興正・鷺谷いずみ・監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 | 小林頼太・長谷川雅美(2005)関東平野におけるアフリカツメガエルの確認記録と定着可能性. 爬虫両生類学会報2005(2):169-172. | | 養殖業者が野外に放逐しようとして現場で差し止められた事件あり(千葉県立中央博物館、尾崎主任研究員のメモがある)。野外での越冬が可能など耐寒性を備えている(千葉大学構内の池での越冬記録あり)。 |
| 両生類 | ウシガエル | A | B | 個体群制御の手段として、商業的な利用を促進させる。 | 野生個体を実験材料、科学的研究の材料として利用し、制御のつなげる | なし | 日本生態学会編・村上興正・鷺谷いずみ・監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 | | | 国内移入種 |
| 両生類 | トノサマガエル | 情報不足 | A | 小規模な集団であるので、早急に駆除を実現すべきである | 現在定着している地域からの根絶 | なし | | | | 国内移入種 |
| 両生類 | ヌマガエル | B | B | 駆除は不可能。新たな地域への侵入を防ぐ手だてを確立させる。 | 個体の移動を禁止する | 分布域の把握 | 日本生態学会編・村上興正・鷺谷いずみ・監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 | 小賀野大一、福土融、木村孝康(2005)印旛沼水系に侵入したヌマガエルの分布範囲と生息状況. 千葉生物誌55(1):長谷川雅美・小賀野大一(1998)房総半島南部で発見されたヌマガエル、その分布範囲と生息状況. 爬虫両生類学会報2000(1):193-194. | | |
| 魚類 | アオウオ | Dまたは情報不足 | C | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | |
| 魚類 | オオクチバス | AまたはB、時にC | AまたはB | 在来魚種や多くの水生生物への捕食圧による漁業資源減少や生態系悪化のため緊急に防除が必要とされる | 特定外来生物への指定。県条例で移植放流禁止 | なし | 環境省編(2004)ブラックバス・ブルーギルが在来生物群集及び生態系に与える影響と対策、(財)自然環境研究センター。川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。日本生態学会編、村上興正・鷺谷いずみ監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | 本種と同様の問題があるとされるブルーギルと一緒にいる場合、両種の競合関係があるのではないかと指摘あり |
| 魚類 | カダヤシ | CまたはD、または情報不足 | C | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。日本生態学会編、村上興正・鷺谷いずみ監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | |
| 魚類 | カムルチー | Dまたは情報不足 | C | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。日本生態学会編、村上興正・鷺谷いずみ監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | 食用となるが、顎口虫という寄生虫がいるので注意が必要。大物釣りの対象魚として好まれる。 |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 1 / 3

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|----|----------------------------|--|---------------|--|--|----------------------------|--------------------------|--------------------------|--|---------------------------------|--------------------|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 魚類 | カワヒガイ | <i>Sarcocheilichthys variegatus variegatus</i> | コイ目コイ科 | 濃尾平野、琵琶湖流入河川、京都盆地、山口県を除く山陽地方、九州北西部、長崎県壱岐 | 濃尾平野、琵琶湖流入河川、京都盆地、山口県を除く山陽地方、九州北西部、長崎県壱岐 | 亀成川 | 他に記録なく、未定着と考えられる | — | 不明 | — | 不明 |
| 魚類 | グッピー | <i>Poecilia reticulata</i> | カダヤシ目カダヤシ科 | ベネズエラからガイアナ | 本州から琉球列島 | 都川、支川都川、葦川 | 都市部河川の一部でスポット的に生息している | 観賞魚として移入されたものを野外に逸出、放流した | 観賞魚として移入されたものを野外に逸出、放流した | 不明であるが、顕著な広がりは1960年代以降 | 不明 |
| 魚類 | ゲンゴロウブナ・ヘラブナ(ゲンゴロウブナの人工品種) | <i>Carassius cuvieri</i> | コイ目コイ科 | 琵琶湖・淀川水系 | 日本各地 | 県内のほぼ全域の河川、湖沼、溜池など | 釣り目的で県内各地で継続的に放流されている | 放流 | 放流 | | |
| 魚類 | コウタイ | <i>Channa asiatica</i> | スズキ目タイワンドジョウ科 | 長江以南の中国、台湾、海南島 | 石垣島、大阪府に移植 | 利根川 | 大根博物館収蔵史料として記録されている | 日本の記録は全て移入によると考えられる | 何らかの移入による一時的出現と推測される | 不明 | 1980年代前半? |
| 魚類 | コクチバス | <i>Micropterus dolomieu</i> | スズキ目サンフィッシュ科 | 北米大陸 | 近年日本各地の河川やダム湖に釣(遊漁)目的で放流・定着例が出来てきている。 | 利根川(確認は数例のみ) | 千葉県では未定着と推定される | | | 1925年に芦ノ湖へ放流の記録。1990年代以降の放流が激増。 | |
| 魚類 | コクレン | <i>Aristichthys nobilis</i> | コイ目コイ科 | アジア大陸東部 | 霞ガ浦、北浦、利根川下流域、江戸川。淀川にも放流により生息。 | 利根川とその付属水域 | | ハクレンとともに中国から食料増強の目的で移入 | | 明治時代～1943年に、複数回 | |
| 魚類 | シロヒレタビラ | <i>Acheilognathus tabira tabira</i> | コイ目コイ科 | 濃尾平野、琵琶湖淀川水系、山陽地方、四国北部 | 濃尾平野、琵琶湖淀川水系、山陽地方、四国北部 | 戸神川 | 後述文献調査で記録された。未定着。 | | ゲンゴロウブナの放流が行われており、またキンギョが同時に記録されていることから、これら放流による一時的出現と推測される。 | | 1998年に記録 |
| 魚類 | スゴモロコ | <i>Squalidus chankaensis biwae</i> | コイ目コイ科 | 琵琶湖固有亜種 | 琵琶湖。関東地方に移植されている。 | 利根川、八間川、大須賀川、栗山川水系、一宮川、夷隅川 | 県内の河川に広く生息し、定着している可能性が高い | 関東平野への移植が行われた | 琵琶湖からの移植またはそれからの拡大と推定される | 不明 | 不明 |
| 魚類 | ストライプトバス | <i>Morone saxatilis</i> | スズキ目 | 北米大陸 | 江戸川(写真確認)、東京湾・霞ヶ浦(聞き取り) | 江戸川(写真確認)、東京湾(聞き取り) | 定着している可能性は小さい | 不明 | 不明 | 1990年代後半? | 1990年代後半? |
| 魚類 | ズナガニゴイ | <i>Hemibarbus longirostris</i> | コイ目コイ科 | 近畿以西の本州、朝鮮半島、中国遼河 | 近畿以西の本州、静岡県豊科川、山陰の一部の川 | 白狐川で記録 | 未定着と推測される | | 一時的移入と推測される | | 1980年代前半? |
| 魚類 | ゼゼラ | <i>Biwia zezera</i> | コイ目コイ科 | 濃尾平野、琵琶湖・淀川水系、山陽地方、九州西部 | 濃尾平野、琵琶湖・淀川水系、山陽地方、九州北西部、関東平野 | 利根川、江戸川、印旛沼、高崎川 | 利根川水系を中心に定着していると推定される | 関東地方へは移植 | 千葉県は関東地方への移植によると推定される | | |
| 魚類 | ソウギョ | <i>Ctenopharyngodon idellus</i> | コイ目コイ科 | アムール川からベトナム北部までのアジア大陸東部 | 繁殖は利根川水系。ほかに除草目的で全国各地で放流された。 | 利根川、江戸川、印旛沼、栗山川など。 | 種分布域は利根川水系 | 食糧増産などの目的で移入・放流 | 利根川水系放流がもと | 1943～45年に利根川水系に放流。 | 1943～45年に利根川水系に放流。 |
| 魚類 | タイリクスズキ | <i>Lateolabrax sp.</i> | スズキ目スズキ科 | 黄海、渤海、中国沿岸 | 西日本から関東地方沿岸域 | 東京湾、外房海域 | 外房海域では釣りにより比較的容易に捕獲されている | 養殖用に輸入、生養殖中のものが逸出 | 養殖中のものが逸出したか、西日本からの拡大 | 1980年代後半以降 | 1990年代には確認されている |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|----|-----------------------------|--------------------------------------|---|---|-----------------------------|----------------|---|--------------------------|--|-----------|------|----------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 魚類 | カワヒガイ | 体長12cm | 河川中・下流の緩流域とそれに続く用水などの砂礫底 | 水深1~3m程度の砂礫底で生息し、石や沈性植物の隙間などに潜む。 | 生息場所のイシガイ科二枚貝類の外套腔内に産み付けられる | 5月~8月7月 | イシガイ科二枚貝類の外套腔内に、入水間から産卵する。孵化後直に貝から泳ぎだし、摂餌を始める。 | 小型水生昆虫、巻貝、付着藻類などを食べる雑食性 | 情報不足 | なし | なし | なし |
| 魚類 | グッピー | メス体長5cm、オス体長3cm | 平野部の緩流域、池沼、水田など。汚染や塩分に対する耐性が強く、都市の下水溝や汽水域などでも生息できるが、低音には比較的弱い | 止水域や緩流域に生息している | 生息域に同じ | 水温25℃以上であれば一年中 | 卵胎生。オスの臀鰭が交尾器になり、体内受精をし、全長9mm位の稚魚を数尾から100尾程度産む。 | 藻類、デトライタス、小型水生動物など | メダカとの競争関係が議論されているが、両種の関係以上に両種の生息環境の悪化が激しく、千葉県内での競合関係は報告されていない | なし | なし | なし |
| 魚類 | ゲンゴロウブナ・ヘラブナ (ゲンゴロウブナの人工品種) | 体長約40cm | 河川下流域の緩流域、池沼、湖、ダム湖等の表・中層 | 植物プランクトン食のため、本来中層遊泳魚であるが、改良されたため表・中層を遊泳する | 水草や浮遊物に付着卵を産み付ける | 4月~6月 | 集団で岸辺近くの水草などに浮遊物に、粘着性のある付着卵を産み付ける | 微小な植物プランクトンを鰓耙で濾して食べる | 県内各地でもかなり古くから溜池などでの釣り目的の放流が継続的に行われてきたが、その影響についてはほとんど調べられていないと不明である | なし | なし | なし |
| 魚類 | コウタイ | 全長30cm | 山間の流水域、水田地帯 | 上鰓器官による空気呼吸が出来る。夜行性で、昼間は水草の間などに潜む。 | 生息域に同じ | 原産地では4月~6月 | 営巣はせず、水草に粘着卵を産み付け、親魚が卵・稚魚を保護する習性がある | 魚類やカエル類などの動物食 | 県内未定着により現在まで影響報告ない | なし | なし | なし |
| 魚類 | コクチバス | 1年15cm、2年22cmを超えて成魚となる。 | 河川上・中流域の淡水域。バラックバス(オオクチバス)より冷水性で、流れのあるところに生息する。 | | | 5~7月 | オスがすり鉢状の巣をつくり、メスに産卵させ、卵から稚魚までを保護する。 | 肉食性で、魚類や甲殻類が主食 | 食害による在来生物群集に対する影響 | 有用魚種の食害 | なし | なし |
| 魚類 | コクレン | 体長1m | 大河川下流緩流域、平野部の湖沼、池などの淡水域 | 流れの緩やかな場所や止水域に生息。中・上層を群泳。 | 大河川下流緩流域 | 6~7月 | 流下卵を産み、卵は流下しながら発生を続け、淡水中で孵化する。このため利根川以外では繁殖が確認されていない。 | 動物プランクトン | 不明 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | シロヒレタビラ | 全長8cm | 河川下流の緩流域や付属の用水、平野部の湖沼や溜池などの砂底や砂泥底、湖岸の岩礁地帯や護岸石垣の間など。 | 湖岸の砂泥底や岩礁域に生息するが、タナゴ類の中では最も深いところまで生息し、琵琶湖では水深30~40m付近まで採集される。 | 生息域の同じ | 4月~7月 | ドブガイやマツカサガイなどのイシガイ科二枚貝類の鰓葉内に産卵する習性がある。 | 主に付着藻類 | 情報不足 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | スゴモロコ | 全長12cm | 琵琶湖では水深10m前後の砂礫底 | 琵琶湖の水深10m付近の砂泥底から砂底の水底近くを群泳する。冬は深みに移動する。満1~2年で成熟する。 | 生息域に同じ | 5月~6月 | 卵は弱い粘性を持つ沈性卵で、直接水底にばら撒かれると考えられている | 水生昆虫、ヨコエビ、小型巻貝、浮遊動物 | 情報不足 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ストライプトバス | 江戸川で捕獲された写真個体は体長約50cmメスで発達した卵巣を持っていた | 沿岸域~汽水域、産卵時淡水域に入る | | 河川淡水域 | | | 魚食性 | 不明 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ズナガニゴイ | 全長20cm | 河川中流の緩流部 | 緩流部の水底付近に生息し、砂にもぐる習性がある。日中、水面近くに浮上していることもある。満2年で全長10~13cmに成長し、成熟する。 | 生息域に同じ | 5月~6月 | 沈性粘着卵を産む。 | 主に止水性カゲロウ類などの水生昆虫を食べる | 情報不足 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ゼゼラ | 全長8cm | 河川下流域、平野部の浅い湖沼、用水、河川敷内のワンド。 | 底生性で、流れのほとんどない淀みの泥底や砂泥底を好む。満1年で成熟する。 | 生息域周辺のアシやマコモの根元 | 4月~7月 | アシやマコモの沈性粘着卵を産みつけ、オスが保護する | 付着藻類、デトライタスを主食にする雑食性 | 情報不足 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ソウギョ | 体長1m | 大河川下流緩流域、平野部の湖沼、掘割などの淡水域 | 流れに緩やかな場所や止水域のやや深いところで生活する。 | 大河川下流緩流域 | 6~7月 | 流下卵を産み、卵は流下しながら発生を続け、淡水中で孵化する。このため利根川以外では繁殖が確認されていない。 | 岸に生えるマコモ、アシ、浮草、水草など水生植物食 | 不明 | なし | なし | なし |
| 魚類 | タイリクスズキ | 全長70cmを超える | 沿岸域、河口汽水域 | 沿岸域に住む。河口内でもよくつれる。生活史の詳細は不明。 | | | | 動物食性と推測される | 不明 | 不明 | なし | なし |

千葉県外来種整理表
(全動物種原案)

表 3 / 3

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 |
|----|----------------------------|------------------|--------|--------------------|------|----------------------------|---|--|--|---|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | |
| 魚類 | カワヒガイ | 情報不足 | C | なし | | | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と渓谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 環境管理センター(1998)千葉県北部地区亀成川他生態系調査報告書、亀成川。 | | 近縁のビロヒガイがある程度広く生息しているが、この種の誤同定の可能性も否定できないが、両種の分布が重なることから、カワヒガイの生息の可能性も館2年には否定できない |
| 魚類 | グッピー | 情報不足 | C | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と渓谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | |
| 魚類 | ゲンゴロウブナ・ヘラブナ(ゲンゴロウブナの人工品種) | 情報不足 | | 防除の必要性について社会的検討が必要 | なし | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と渓谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | 県内で見られるのは少なくともその大部分が飼育品種のヘラブナであると推定される |
| 魚類 | コウタイ | 情報不足 | C | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と渓谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 原産地では食用および漢方薬原料とされる |
| 魚類 | コクチバス | 千葉県での扱いについては情報不足 | | 千葉県での扱いについては情報不足 | | 内水面漁業調整規則第32条の2(外来魚の移植の制限) | | 日本生態学会編、村上興正・鷺谷いずみ監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館 | | 千葉県には生息に適した環境が少ないと思われ、また情報が少なく、判断する十分な情報がない。 |
| 魚類 | コクレン | Dまたは情報不足 | C | なし | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と渓谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 霞ヶ浦などでは漁業対象になっている。 |
| 魚類 | シロヒレタビラ | 情報不足 | C | | | 啓蒙による移動や飼育個体の放流の防止 | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と渓谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 環境管理センター(1998)千葉県北部地区亀成川他生態系調査報告書、戸神川。 | |
| 魚類 | スゴモロコ | 情報不足 | 情報不足 | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と渓谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。関東農政局両総農業水利事業所・農村環境整備センター(2001)平成12年度両総農業水利事業大須賀排水路環境整備検討委託事業。ほか | | 琵琶湖ではホンモロコの代用として漁業対象種になっている。 |
| 魚類 | ストライプトバス | 情報不足 | 不明 | 不明 | | なし | | | | 写真確認・聞き取り：望月東京湾ではまれに捕獲されるところの情報あり |
| 魚類 | ズナガニゴイ | 情報不足 | 情報不足 | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と渓谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 千葉県での確認には精査が必要との指摘あり。漁獲対象魚で、雑魚として、てんぷらや唐揚げにされる。 |
| 魚類 | ゼゼラ | 情報不足 | 情報不足 | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と渓谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 漁獲されると雑魚として扱われる |
| 魚類 | ソウギョ | Dまたは情報不足 | C | なし | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と渓谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。日本生態学会編、村上興正・鷺谷いずみ監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | |
| 魚類 | タイリクスズキ | 情報不足 | 情報不足 | | | なし | 日本生態学会編、村上興正・鷺谷いずみ監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 | | | |

千葉県外来種整理表
(全動物種原案)

表 1 / 3

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|----|------------------------|--|---------------|--|---|---------------------------------------|---|--|--|---|-----------------|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 魚類 | タイリクバラタナゴ | <i>Rhodeus ocellatus ocellatus</i> | コイ目コイ科 | アジア大陸東部、台湾 | 日本全国 | 南部の一部を除き県内各地 | 河川改修、捕縄整備などに伴う水域環境の変化により、本種およびイシガイ科二枚貝類の生息可能な環境が減少、本種も急激に減少中である | ハクレンやソウギョの移入に伴い入ったと推測されている | ハクレンやソウギョの移入に伴い入ったり、それが拡大したと推測されている | 1940年代 | 1940年代、あるいはそれ以降 |
| 魚類 | タイワンドジョウ | <i>Channa maculata</i> | スズキ目タイワンドジョウ科 | 中国南部、ベトナム、台湾、海南島、フィリピン | 石垣島、和歌山県、兵庫県、香川県などの各地で定着 | 手賀沼で記録がある | 一時的記録で未定着と推測される | 1906年に台湾から大阪府堺への移入が最初 | 不明 | 不明 | 不明 |
| 魚類 | タモロコ | <i>Gnathopogon elongatus elongatus</i> | コイ目コイ科 | 東海地方、長野県諏訪湖地方、濃尾平野、福井県から紀ノ川まで、山陽地方、四国瀬戸内側と四万十川水系。しかし、関東平野のものが移植と思われていたが、自然分布の可能性も否定できない。 | 東海地方、長野県諏訪湖地方、濃尾平野、福井県から紀ノ川まで、山陽地方、四国瀬戸内側と四万十川水系。東北地方、九州の一部へ移植。関東平野のものが移植とされてきたが、自然分布の可能性も否定できない。 | 県内のほぼ全域の河川、湖沼、溜池、池など。 | 県内ほぼ全域に定着 | 関東平野へは1939年と41年に移植されたとされていたが、それ以前に生息していたことが確認され、関東が自然分布の可能性も考えられる。 | 不明 | | |
| 魚類 | チャカ属の一種 | <i>Chaca sp.</i> | ナマズ目科 | 東南アジア～インド | 江戸川(写真確認) | 未定着と考えられる | 観賞魚の放流? | 不明 | 不明 | 1990年代後半? | 1990年代後半? |
| 魚類 | チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマズ) | <i>Ictalurus punctatus</i> | ナマズ目アメリカナマズ科 | 北米 | 少なくとも、利根川下流域、霞ヶ浦、北浦などを中心に優先種となっている | 利根川、江戸川、栗山川、 | 北部の利根川水系やその付随水域を中心に生息している | 養殖対象魚として導入? | 30年ほど前に関東地方や東北南部で養殖対象種として輸入された時期がある。このときの逸出や放棄による拡散などの可能性があるが、詳細は不明。 | 1975年頃?霞ヶ浦では1990年代半ばから稚魚がまとまって入網し、漁獲量が増加してきていることから、この頃から安定した定着が推定される。 | |
| 魚類 | チョウセンブナ | <i>Macrophodus chinensis</i> | スズキ目ゴクラクギョ科 | 中国中央部から朝鮮半島 | 移入後に関東平野、濃尾平野、岡山平野など、広く定着したが、現在では激減し、新潟県、愛知県、岡山県などの一部に残存しているだけ。 | 旧葛飾郡、手賀沼、印旛沼などで記録されている | 近年の出現記録はなく、現在生息しているかどうか不明 | 朝鮮半島からの移植 | 朝鮮半島からの移入後の分布の拡大か? | 1914年頃 | |
| 魚類 | ツチフキ | <i>Abbottina rivularis</i> | コイ目コイ科 | 濃尾平野、近畿地方、山陽地方、九州西部、朝鮮半島、中国東部 | 濃尾平野、近畿地方、山陽地方、九州西部、関東平野、宮城県 | 利根川、江戸川、印旛沼、香西川、高崎川、栗山川、多古橋川、一宮川 | 北部を中心に、比較的広く分布していると考えられる | 関東平野と宮城県の生息は、国内からの移植 | 関東平野移植に伴うものと推定される | | |
| 魚類 | ナイルテラピア(チカダイ) | <i>Oreochromis niloticus</i> | スズキ目カワスズメ科 | アフリカニジェール川水系を中心としたアフリカ大陸西部、タンガニイカ湖北のナイル川水系、イスラエルのヤルコン川 | 南日本の温泉場、湧水のある鹿児島県池田湖など | 高崎川で記録がある | 未定着。何らかの理由で放たれたものが記録されたと推測される。 | アラブ連邦から移入 | 不明 | 1962年 | 不明 |
| 魚類 | ニジマス | <i>Oncorhynchus mykiss</i> | サケ目サケ科 | カムチャツカ半島 アラスカからバハカリフォルニアに至る太平洋側 | 北海道や本州の一部で自然繁殖が確認されている。養殖が容易なため、全国各地で養殖され、また河川の遊漁釣場用に放たれている。 | 高滝ダム、亀山ダム | 放流による生息。定着はしていないと推定。 | 1877年以降にアメリカから導入、国内で養殖技術が確立された | 高滝ダム、亀山ダムにつり用に放流されている。 | 1877年以降複数回の放流 | |
| 魚類 | ハクレン | <i>Hypophthalmichthys molitrix</i> | コイ目コイ科 | アジア大陸東部 | 利根川水系に定着。他に湖沼・溜池などへの放流・生息(一部繁殖)が推測される。 | 利根川水系で繁殖・定着。ほかにもダム湖や一部河川での放流による生息がある。 | 繁殖・定着は利根川水系のみ。放流されたダム湖等で高密度で生息する例もあるが、繁殖はしていない。 | 食糧増産を目的に他の大型コイ科魚類とともに複数回移入された。 | 食糧増産を目的に他の大型コイ科魚類とともに複数回移入されたが、最終は1944年頃。 | 最終は1943年 | 最終は1943年 |
| 魚類 | ハス | <i>Opsariichthys uncirostris uncirostris</i> | コイ目コイ科 | 琵琶湖淀川水系、福井県三方湖 | 北海道を除く全国各地で記録されるが、定着は餌が確保できる比較的大きな水系に限られると推測される | 利根川、江戸川、八間川、五駄沼、印旛沼、手賀沼、師戸川、一宮川、夷隅川 | 餌の確保できる比較的大きな水域には広く生息・定着していると考えられる | 琵琶湖産アユの放流に伴う混入 | 琵琶湖産アユの放流に伴う混入で全国に広がっているが、現在でも継続している | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|----|------------------------|---------|--|--|---------------------------------------|----------------------|--|--|--|--|------|----------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 魚類 | タイリクバラタナゴ | 全長8cm | 平野部の池沼、細流、溜池、小河川、灌漑用水路など | 流れの弱い場所や止水域などで生息。寿命は1~2年。 | 流れの弱い場所や止水域などで、産卵床となるイシガイ科二枚貝類が生息する場所 | 地域によって4月~10月 | イシガイ科二枚貝類の鰓葉内に産卵、卵は貝の鰓葉内で孵化。発生し、稚魚として浮出。単独生活を始める。 | 稚魚期は動物プランクトン食、その後付着藻類を中心にした植物食 | 同一種内の別亜種であるニッポンバラタナゴとの交雑が報告されている。また、千葉県ではミヤコタナゴとの競争関係による駆逐が知られている。 | なし | なし | なし |
| 魚類 | タイワンドジョウ | 全長50cm | 平野部の池沼 | 水草の多いところを好む。他はカムルチーと同じ。 | 生活場所と同じ水草の茂るような場所 | 5月~8月 | 雌雄が共同で浮き巣を作り、産卵し、雌雄で卵・稚魚を保護する。 | エビ類、魚類、カエル類など、ある程度の大きさのある動物食 | 動物食のため、異常繁殖があると他の生物の資源量に影響を与える可能性が考えられる | 現状では報告なし | なし | なし |
| 魚類 | タモロコ | 全長10cm | 河川中・下流部、水田に付属する細流や溜池、湖沼、池など | 流れの緩やかな、あるいはない淡水域の中・低層で生活。雌雄とも、満1年で成熟する。 | 細流、灌漑用水路、水田など | 4月~7月 | 水草や抽水植物などに沈性粘着卵を産みつける。 | ユスリカ幼虫、イトミミズ、ヨシノボリ類の幼魚、動物プランクトン、水草など、動物食主体の雑食性 | 不明 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | チャカ属の一種 | 全長約10cm | 淡水域 | | | | | | 不明 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマズ) | | 平野部の規模の大きい池沼や河川下流域、それに連なる水路など | 降雨時には陸上を移動する | | | | | 情報不足 | ウナギはえなわ漁や刺網漁業での混獲が顕著であり、漁獲効率の低下や漁獲物の取り外しにおける作業上の支障が生じる場合がある。 | なし | なし |
| 魚類 | チョウセンブナ | 全長7cm | 平野部の浅い池沼、用水路、水田などの水の流れのほとんどないところ。冬は深みで越冬。 | 水草の多い、流れのほとんどない浅い淡水域で生活し、深みで越冬する。酸素欠乏に強い。 | 生息地に同じ | 6月~7月 | オスが水面に直径5~8cmの泡の浮き巣を作り、メスを誘い産卵させ、オスが卵・稚魚を守る習性がある。この時期は、オスが近づく魚を激しく攻撃する習性がある。 | 水生昆虫、底生動物 | 情報不足。一旦定着したものが近年激減していることについては、一般的に生息環境不適合、近年の環境変化などによる生息環境悪化、捕食・競争種の出現、えさ生物の減少などが考えられるが、実態は不明。 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ツチフキ | 全長10cm | 平野部の浅い池沼、用水路などの水の流れのほとんどないところ。 | 泥っぽい砂泥底を好む。満2年で成熟する。メスよりオスが大きくなる。 | 生息地に同じ | 4月~6月 | 楕円状の巣に、沈性粘着卵を産み、オスが保護する。 | ユスリカ幼虫、イトミミズ、デトライタス、浮遊動物、付着藻類などを食べる雑食性 | 情報不足 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ナイルテラピア(チカダイ) | 全長50cm | 河川や湖沼など、環境の適応範囲は広く、適水温24~30℃に対して10~45℃に耐え、また淡水から海水まで飼育可能である。 | 河川や湖沼などの広い水系で生活。池田湖では10~15cmで成熟。熱帯域での寿命は6~7年である。 | オスが水底に楕円状の巣を作り、メスが卵・稚魚を口腔内で保育する。 | 適水温は24~32℃で産卵する | メスの口腔内保育 | 成魚は植物プランクトンやバクテリアを食べる。全長5cmくらいまでの幼魚は動物プランクトンや水生昆虫も食べる。 | 不明 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ニジマス | 全長40cm | 淡水域：一般に河川上・中流域に生息し、流れのあるところを好むが、湖やダム等でも水が清澄な場合生息が可能 | | 河川上・中流域や水の清澄な湖沼など | 本州で11~3月 北海道で1~5月 | 番を作り、オスが河床に産卵床を掘り、同時に産卵・放精する。卵は1ヶ月~一ヶ月半で浮出する。 | 主な餌は陸生・水生の昆虫類など、利用可能な動物性の餌生物は何でも食べる | 競争、捕食による他生物の衰退 | なし | なし | なし |
| 魚類 | ハクレン | 全長1m | 大河川下流緩流域やそれに連なる水路、平野部の湖沼・ダム湖などの淡水域 | 水面近くを遊泳し、時々ジャンプする姿が見られる。4、5歳くらいで成熟。 | 大河川の中流域まで遡上し産卵 | 6月~7月 | 中流域で10数尾が集団で産卵。卵は流下しながら発生を進め、淡水域で孵化。海に達したものは死滅。 | 植物プランクトン食で、アオコなども食するため、ダム湖などで対策のため放流される例がある | 不明 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ハス | 全長30cm | 大河川下流緩流域、平野部の湖沼 | 口がへの字型に曲がり、魚を追って捕食する。行動は活発で、遊泳力は大きい。 | 湖岸や河川の流れの緩やかな所の砂底または砂礫底で産卵する。 | 6月~8月 | | コイ科魚類中唯一の魚食性。仔稚魚期は動物プランクトン食。体長7cm位から魚食性が出てきて、若魚では大部分を魚類が占めるようになる | 情報不足 | 報告なし | なし | なし |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 |
|----|------------------------|---|----------|---|--|----------------------------|--|---|---------------|---|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | |
| 魚類 | タイリクバラタナゴ | 条件によりA～D | 条件によりA～C | 比較的規模の大きい水系ではタイリクバラタナゴとミヤコタナゴが共存しているが、ミヤコタナゴが生息する止水域あるいは緩流域などに侵入した場合は短期間でタイリクバラタナゴに置き換わった例が知られている | 啓蒙による移動や飼育個体の放流の防止 | ミヤコタナゴ生息域での駆除の試みがなされた例がある。 | 日本生態学会編・村上興正・鷲谷いずみ・監修(2002)外来種ハンドブック。地人書館。 1) 環境省野生生物保護対策検討会移入種問題分科会(移入種検討会)(2002)移入種(外来種)への対応方針 2) 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海編・監修(2001)日本の淡水魚・改訂版。山と溪谷社。 3) 中坊徹次編(2000)日本産魚類検索—全種の同定 第二版(I, II)。東海大学出版会。 4) 奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸宏・水野信彦・矢島稔・山岸哲・監修(1996)川の生物。〇〇。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | |
| 魚類 | タイワンドジョウ | Dまたは情報不足 | C | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 大物釣りの対象魚。原産地では食用として生きて売られている |
| 魚類 | タモロコ | 情報不足 | 不明 | 不明 | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | 食用になるが千葉県では利用していない |
| 魚類 | チャカ属の一種 | 情報不足 | | | 啓蒙による移動や飼育個体の放流の防止 | なし | | | | 写真確認：望月 |
| 魚類 | チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマス) | 情報不足であるが、生態的地位が高いと推定され、資源量が大きくなった場合、生態系への何らかの影響があることは容易に予測されるが、調査資料がなく詳細は不明である。 | 情報不足 | | | なし | 日本生態学会編・村上興正・鷲谷いずみ・監修(2002)外来種ハンドブック。地人書館。 1) 環境省野生生物保護対策検討会移入種問題分科会(移入種検討会)(2002)移入種(外来種)への対応方針 | 尾崎真澄(2003):2003年度日本魚類学会講演要旨集 平成15年度移入種管理方策検討委託事業報告書 | | |
| 魚類 | チョウセンブナ | 情報不足 | C | | 啓蒙による移動や飼育個体の放流の防止 | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | |
| 魚類 | ツチフキ | 情報不足 | C | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 漁獲された場合、雑魚として扱われる |
| 魚類 | ナイルテラピア(チカダイ) | 情報不足 | 情報不足 | なし | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 谷城(千葉県動物誌)では、原典のテラピアを本種であるとしてチカダイの和名で同書中に記録している。美味であり、刺身で供されることが多い。温泉水や温排水を利用した養殖対象種。チカダイは別名。 |
| 魚類 | ニジマス | D | C | | | なし | 日本生態学会編・村上興正・鷲谷いずみ・監修(2002)外来種ハンドブック。地人書館。川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 放流地では漁業権魚種 |
| 魚類 | ハクレン | Dまたは情報不足 | C | | | | | | | 漁業権魚種 |
| 魚類 | ハス | 情報不足 | 不明 | なし | 琵琶湖産アユ種苗の放流に伴う拡大であり、種苗法流のあり方から見直さないと各地での継続的移入が続くことから、この点からの再検討が不可欠 | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | |

千葉県外来種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|-----|---------------------|---|---------------|---|--|---|--|---|----------------|---|----------------------------|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 魚類 | ヒメダカ(野生メダカの人工品種の総称) | <i>Oryzias latipes</i> | ダツ目メダカ科 | 本州以南の日本各地、朝鮮半島、中国、台湾(メダカの分布) | メダカ野生個体は北海道を除く各地。ヒメダカについては、ほとんど情報がない。 | 野生個体は県内各地。ヒメダカは、県内各地で散発的に生息情報がある | 散発的に発見されるが、安定した生息地は出現していないようである | 飼育人工品種個体の放流 | 飼育人工品種個体の放流 | 散発的に行われている模様 | 散発的に行われている模様 |
| 魚類 | ピワヒガイ | <i>Sarcocheilichthys variegatus microoculus</i> | コイ目コイ科 | 琵琶湖、瀬田川 | 自然分布地の琵琶湖、瀬田川以外に、移植により東北地方、関東平野、北陸地方、諏訪湖、高知県など | 利根川、江戸川、古利根沼、大須賀川、八間川、手賀沼、印旛沼、鹿島川、高崎川、夷隅川 | 利根川水系を中心に定着していると推定される | | | | |
| 魚類 | ブルーギル | <i>Lepomis macrochirus</i> | スズキ目サンフィッシュ科 | カナダセントローレンス川水系と五大湖以南、ミシシッピ川を中心とする北米大陸中央平原 | 北海道函館周辺以南、ほぼ全国 | 県内のほぼ全域の河川、湖沼、溜池など | 釣り目的の放流と考えられ、大河川や湖沼から、孤立した溜池や部分的にしか生息可能箇所のない小河川などまで、広く生息している | ミシシッピ川の採集個体を伊豆半島の一碧湖に放流 | 主に釣り目的の放流? | 1960年 | 1970年代? |
| 魚類 | ペヘレイ | <i>Odonthestes bonariensis</i> | スズキ目トウゴロウイワシ科 | 南アメリカ | 霞ヶ浦、利根川下流部 | 印旛沼で記録がある | 未定着であるが、県内では利根川下流での出現の可能性があるとと思われる | 1966年に神奈川県淡水増殖試験場がアルゼンチンから導入し、その後各県で養殖や放流の試験が続けられた。 | | 1966年に神奈川県淡水増殖試験場がアルゼンチンから導入が初。その後各県で、増殖試験と放流が行われた。 | |
| 魚類 | ホンモロコ | <i>Gnathopogon elongatus</i> | コイ目コイ科 | 琵琶湖固有種 | 琵琶湖のほか、東京都奥多摩湖、山梨県山中湖・河口湖、岡山県湯原湖などに移植 | 印旛沼、手賀沼で記録あり | 移入による一時的生息と推測される | 琵琶湖からの移植で各地に広がった | 琵琶湖からの移植で記録された | | |
| 魚類 | ムギツク | <i>Pungtungia herzi</i> | コイ目コイ科 | 福井、岐阜、三重の各県以西の本州、四国北東部、九州北部、朝鮮半島 | 福井、岐阜、三重の各県以西の本州、四国北東部、九州北部 | 白狐川で記録がある | 未定着と思われる | | | | |
| 魚類 | ワカサギ | <i>Hypomesus transpacificus nipponensis</i> | サケ目キュウリウオ科 | 利根川および島根県以北、北海道まで | 沖縄を除く全国各地の湖や人工湖に放流されている | 利根川水系下流部、印旛沼、手賀沼、亀山ダム、山倉ダム | 県内でも放流事業が継続されている | 発眼卵の放流 | 発眼卵の放流 | | |
| 魚類 | ワタカ | <i>Ischikauia steenackeri</i> | コイ目コイ科 | 琵琶湖淀川水系 | 琵琶湖淀川水系のほか、関東平野、北陸地方、奈良県、岡山平野、宍道湖、山口県、福岡県遠賀川などに移植され、定着。 | 利根川流域下流部、江戸川、八間川、大須賀川、印旛沼、手賀沼、一宮川 | 各地で定着していると考えられる | 琵琶湖産アユの放流に伴う混入 | 琵琶湖産アユの放流に伴う混入 | | |
| 魚類 | 養殖コイ、ヒゴイ | <i>Cyprinus Carpio</i> | コイ目コイ科 | コイの野生種はユーラシア大陸 | 現在の本種の分布は日本各地であるが、古来より移植が行われ、さらに養殖個体の放流が行われてきたため、野生種の国内自然分布は不明 | 県内各地であるが、県内産の個体の大部分は養殖個体の放流によるものと考えられ、野生種の本来の自然分布は不明 | 県内のほとんどの水域に生息するが、大部分が放流個体であると推測される | 養殖個体等の放流 | 養殖個体等の放流 | 不明であるが以前から継続的に行われてきた可能性が高い | 不明であるが以前から継続的に行われてきた可能性が高い |
| 昆虫類 | アオマツムシ | <i>Calyptotrypus hibinonis</i> | バッタ目マツムシ科 | 中国原産 | 1970~1980代に分布拡大。1986年には福島県以西の28都道府県に分布するが南西諸島や九州南部には見られない。その後現在に至るまで分布範囲はあまり広がっていない。 | 柏市、流山市、我孫子市(根戸・船戸他各地)、松戸市千駄堀、船橋市習志野、佐倉市、佐倉市宮内、市原市山倉、茂原市柴名、君津市宿原 | | 1898年(明治31)に東京赤坂のエノキで発見された。 | | 1898年 | |
| 昆虫類 | アカウキクサゾウムシ | <i>Stenopelmus rufinasus</i> | コウチュウ目ゾウムシ科 | | 全国 | 一宮町軍荼利山 | | | | | |
| 昆虫類 | アカクビホシカムシ | <i>Necrobia ruficollis</i> | コウチュウ目カッコウムシ科 | | | 夷隅地区 | | | | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|-----|---------------------|-----------------------|---|--|--|--------------------|--|--|---|--|------|----------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 魚類 | ヒメダカ(野生メダカの人工品種の総称) | 全長4cm | 淡水域 | 小河川、谷津の細流、水田やそれに付随する水路、溜池、池沼などの止水域、緩流域の浅所の表層に、群れや群がりを作って生息。 | 同左 | 主に6月～9月 | 求愛行動の後、雌雄が寄り添って放卵・受精、メスが腹部の受精卵を水草などに絡みつかせる | 雑食性で、動植物プランクトンや小さな昆虫類などを食べる | 野生個体の生息域にヒメダカが入った場合は、野生メダカ集団の遺伝的かく乱が起ると推測される | なし | なし | なし |
| 魚類 | ビワヒガイ | 全長20cm | 河川下流緩流域、湖沼など | 砂底や砂礫底の中・低層に住む。潮汐の影響を受ける感潮域にも住む。雌雄とも、満2年で成熟する。 | 岸近くの沈性植物が粗生しゆるやかな流れのある場所で、イシガイ、ドブガイ、カラスガイなどのイシガイ科二枚貝類が生息している場所 | 4月～7月 | 前期のイシガイ科二枚貝類の外套腔内に産卵する。 | 水生昆虫の幼虫、小型巻貝類、動物プランクトン、付着藻類など | 情報不足 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ブルーギル | 全長20cm | 湖沼などの止水域、河川中・下流域の流れの穏やかな場所、小河川の溜りなどで、水草のある場所を好む | 流れの緩やかな場所か止水域で、通常は水底近くで索餌行動をとっていることが多い。水草帯を好み、隙間のある人口護岸や漁礁などにもよく集まる。全長25mmくらいまでは水草帯の中で群れ行動をとっているが、その後は自由行動に移行する。 | 岸近くの浅所砂泥底や砂礫底 | 主に6月～7月 | オスが水底に播鉢状の産卵床をつくり、メスを呼び入れ産卵させ、仔魚期まで保護する。巣は近接して多数作られ、コロニー状になる。 | 昆虫類、植物、エビ類、魚類、動物プランクトンなど幅広い雑食性 | 本種の捕食により在来魚などに大きな影響を与えるとされているが、県内の例で見ると場所の条件で影響の出方が異なるようである。より詳細な調査が必要であろう | 捕食による在来種への影響が指摘されている。また、網漁具への入網による作業効率の低下なども考えられる。 | なし | なし |
| 魚類 | ペヘレイ | 全長50cm | 国内では霞ヶ浦、神奈川県丹沢湖など、湖沼やダム湖の放流されている例が多いようである。 | 通常、群れをつくり、表層を遊泳している。 | 湖岸の水生植物の生えるような場所 | 3月～6月、秋にも産卵することがある | 浅場の水生植物などに付着糸で卵を産みつける | 浮遊動物主に、昆虫類や江ビルなども食べる | 何らかの影響は予測されるが、現状は情報不足。霞ヶ浦では、1988年以来混獲されるようになり、1999年には優先主になり、その後減少したが混獲は続いている。 | 漁業により捕獲されるが、十分な販路がなく、漁業上も課題を残している。 | なし | なし |
| 魚類 | ホンモロコ | 全長14cm | 湖沼 | 完全な湖沼淡水型で、琵琶湖では沖合いの水深5m以深を群泳している。 | 湖岸のマコモ帯、内湖、灌漑用水路など | 3月～7月 | 1尾のメスを数尾のオスが追い、沈性粘着卵を産みつける。 | 動物プランクトン食性 | | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ムギツク | 全長15cm | 河川中流域の淵や淀み。 | 流れの緩い淵や淀みで中・低層に住み、岩盤、コンクリートブロック、沈水植物の隙間などに潜む。 | 生息場所に同じ | 5月～6月 | 大きな石の下面、岩盤の割れ目、水草、水面の浮遊木などに産みつける | 水生昆虫を中心にした雑食性 | 不明 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ワカサギ | 10cm前後 | 内湾、湖沼、人工湖とそれらにつながる河川下流域 | 沿岸汽水域から淡水域までの広い塩分濃度に適応し、また水温にたいしても広い適応性を示す。孵化仔魚は内湾や湖に流下し、沿岸で生活する。満1年で成熟し、多くは死亡するが、北海道では2年以上の個体も珍しくない。 | 湖沼や河川の岸辺や水底の枯木、水草、水没した植物片などに産み付けられる | 1月～5月 | 産卵郡が湖岸などを遊泳し、日没後産卵場に至り、産卵する | 動物プランクトン | 在来の地方群がいるところで、形質の異なる他産地個体を放流したため形質の変化が起きた事例が知られている | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | ワタカ | 全長30cm | 琵琶湖では、沿岸や内湖のアシ場。河川下流域のわんどや流れのほとんどない水路に生息。 | 流れのほとんどないアシ場などで生活。満一年で全長10cm近く、満2年で15～20cmになり成熟する。 | 水草など | 6月～8月 | 水温の高い夏場の主に降雨後の夜間に、沈性粘着卵を産む | 水草を主とした雑食性であるが、幼魚はミジンコ類、水生昆虫、付着藻類も食べる | 不明 | 報告なし | なし | なし |
| 魚類 | 養殖コイ、ヒゴイ | 全長1mに達するが、通常は60cm程度まで | 河川の中・下流域の淡水・汽水域、湖沼、溜池、水田からの水路など。県内では時に源流近くや本来生息しないような小河川などにも生息している。 | 流れの緩やかな淵や落ち込みの低層部が主な生息場所である。冬季は深みで越冬する。 | 生息域の水草などに産み付ける | 4月末～7月 | 1尾のメスを数尾のオスが追尾し、1回に20万～50万粒の沈性粘着卵を水草などに産み付ける。1産卵期中に2～3回産卵する。普通オスは2年、雌は3年で成熟する。 | 巻貝類、シジミ、ユスリカ、ミミズ類、付着藻類、水草類など底生動物を中心に何でも食べる雑食性で、条件によっては生態系に影響を与える可能性がある | 情報不足であるが、養殖個体や人工品種などの、遺伝的に本来の種と異なる個体が優占し、あるいは本来の野生個体がいなくなっている状況であり、種内の遺伝的かく乱を議論する段階は過ぎていると考えられる。他の生物に対する影響は、底生動物に対する食害の可能性が考えられる。 | 報告なし | なし | なし |
| 昆虫類 | アオマツムシ | 体長23～24mm | 陸域 | 翌春孵化した幼虫は8～9齢を経過して8月下旬から9月下旬にかけて羽化する。発育ゼロ点は10℃、有効積算温度は1300日℃である。 | 年1回の発生。小枝の組織内に産まれた卵で越冬。 | | 産卵は10月下旬まで。 | | | | | |
| 昆虫類 | アカウキクサゾウムシ | | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | アカクビホシカムシ | 体長4～6mm | 陸域 | | | | | 干魚など乾燥動物質 | | 農林水産業などへの影響 | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 |
|-----|---------------------|-----------------|-----------------|------------------|--------------------|----------------|---|---|---------------|---|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | |
| 魚類 | ヒメダカ(野生メダカの人工品種の総称) | C | 不明 | | 啓蒙による移動や飼育個体の放流の防止 | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | | | ヒメダカはメダカの人工品種。野生のメダカには遺伝子組成の異なる複数の地方群があり、各地でその土地のものと異なる地方群のものが放流されている例が知られている(千葉県では未確認)。この場合、ヒメダカの放流と同質の問題が起きると推測される。 |
| 魚類 | ビワヒガイ | 情報不足 | 不明 | なし | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 漁業対象種で、琵琶湖では延縄、刺網、魴、釜などで漁獲される。未は白身で、塩焼、照焼、唐揚、南蛮漬、辛子味噌和などで食される。旬は3月～4月。 |
| 魚類 | ブルーギル | AまたはB、時にC(情報不足) | AまたはB、時にC(情報不足) | 影響について水域ごとの調査が必用 | 県条例で移植放流禁止 | | 環境省編(2004)ブラックバス・ブルーギルが在来生物群集及び生態系に与える影響と対策、(財)自然環境研究センター。川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。日本生態学会編、村上興正・鷺谷いづみ監修(2002)外来種ハンドブック、地人書館。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | |
| 魚類 | ペヘレイ | 情報不足 | 不明 | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 原産地では高級魚。各地の水産試験研究機関で増殖・放流仕官が行われているが、現状では販路の問題が残っている。 |
| 魚類 | ホンモロコ | 情報不足 | C | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 琵琶湖では高級食用魚で、魴、地曳網、底曳網、刺網等で漁獲され、塩焼きや甘露煮で食される。 |
| 魚類 | ムギツク | 情報不足 | 不明 | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。 | | 雑魚として取り扱われ、食用になる。 |
| 魚類 | ワカサギ | 情報不足 | 不明 | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | |
| 魚類 | ワタカ | 情報不足 | 不明 | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | |
| 魚類 | 養殖コイ、ヒゴイ | 不明 | 不明 | | | なし | 川那部浩哉・水野信彦編・監修(1989)日本の淡水魚、山と溪谷社。中坊徹次編(1993)日本産魚類検索、東海大学出版会。 | 千葉県生物学会編(1999)千葉県動物誌、文一総合出版。千葉県史料研究財団編(2002)千葉県の自然誌、本編6、千葉県の動物1千葉県。 | | 水域によっては漁業対象種 |
| 昆虫類 | アオマツムシ | D | C | | | | | 確認文献：1, 2 西村正賢(1999)千葉県のバッタ目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p253千葉動物誌 | | |
| 昆虫類 | アカウキクサゾウムシ | 情報不足 | C | | | | | 確認文献：1 森本桂・山崎秀雄(1999)千葉県のゾウムシ上科、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p747千葉動物誌 | | |
| 昆虫類 | アカクビホシカムシ | C | C | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑、保育社、大阪府 p.159 林長閑(1984)家屋・食品に見られる鞘翅目(甲虫目)の形態と生態、家屋害虫：24-47。 | 確認文献：1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p674千葉動物誌 | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 1 / 3

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|-----|--------------|----------------------------------|--------------------------|------------|-----------|--|---------------------------------------|--|---|-------------------------------|-----|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 昆虫類 | アカマダラカツオブシムシ | <i>Trogoderma varium</i> | コウチュウ目カツオブシムシ科 | | 本州以南 | 千葉県内 | | | | | |
| 昆虫類 | アズキマメゾウムシ | <i>Callosobruchus chinensis</i> | コウチュウ目ハムシ科 | | 本州以南 | 全域 | 野外では発見しにくい | 中国からアズキに混入 | | 3~8世紀 | |
| 昆虫類 | アトグロホソアリモドキ | <i>Anthicus floralis</i> | コウチュウ目アリモドキ科 | | | 我孫子市, 市川市, 沼南町手賀沼, 富津市上総湊 | | | | | |
| 昆虫類 | アメリカジガバチ | <i>Sceliphron caementarium</i> | ハチ目アナバチ科 | 北米 | 東京周辺 | 松戸市栗山, 市川市八幡, 船橋市習志野台・宮本, 佐倉市佐倉城址・岩戸・大蛇/白井成田市三里塚御料牧場, 山武郡芝山町長生郡一宮町 | | | | 1945年 | |
| 昆虫類 | アメリカシロヒトリ | <i>Hyphantria cunea</i> | チョウ目ヒトリガ科 | 北米 | 本州以南 | 市川市, 松戸市, 千葉市花園町, 清澄山 | | 1946年8月の東京が最初で, 1947年には都心部と横浜に分布. | 千葉県には1949年に入った. 1955年市川市, 松戸市. 初期には県西北部に分布. 1974年秋には, 銚子~八日市場~横芝~土気~高滝まで分布. その後東南部に広がっているという情報. | | |
| 昆虫類 | アメリカミズアブ | <i>Hermetia illucens</i> | ハエ目ミズアブ科 | | 本州以南 | 清澄山 | | | | 1950年頃 | |
| 昆虫類 | アルファルフアコゾウムシ | <i>Hypera postica</i> | コウチュウ目ゾウムシ科 | ヨーロッパ原産 | 九州, 琉球 | 我孫子市 | 現在岐阜県以西の26府県と東京都に発生している. | 成虫が輸入貨物の隙間などに潜り込んで侵入したと考えられ, 国内でもこのような習性や, 新成虫の飛翔によって分布を拡大したようである. | | 1982年に福岡県と沖縄県. | |
| 昆虫類 | イセリアカイガラムシ | <i>Icerya purchasi</i> | ワラジカイガラムシ科 | オーストラリア | | | 市街地の公園などの天敵の少ない人工的な環境下やトベラなどにしばしば多発する | 柑橘系に付着して侵入 | | 明治時代 | |
| 昆虫類 | イネミズゾウムシ | <i>Lissorhoptrus oryzophilus</i> | コウチュウ目オサゾウムシ科 | アメリカ南東部 | 本州~九州 | 全域 | | 本種は輸入乾牧草に混入してカリフォルニアから侵入. | | 1976年に愛知県で確認. 1986年には全国. | |
| 昆虫類 | イラガセイボウ | <i>Chrysis shanghaiensis</i> | ハチ目セイボウ科 | 中国原産? | 全国 | 船橋 | | | | 大正? | |
| 昆虫類 | ウスバキスイ | <i>Cyrtophagus cellaris</i> | コウチュウ目キスイムシ科 | | 本州, 九州 | 市川市, 習志野市, 音信山, 長柄町(権現山・秋元牧場), 鋸山, 御殿山, 清澄山 | | | | | |
| 昆虫類 | オオタコゾウムシ | <i>Hypera punctatus</i> | コウチュウ目ゾウムシ科 | ヨーロッパ原産 | 本州 | 我孫子市, 市川市江戸川河川敷, 船橋市松が丘 | | 貼り芝の移動に伴って拡散? | | 1978年横浜植物防疫所が初記録. | |
| 昆虫類 | オオタバコガ | | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | オナジショウジョウバエ | <i>Drosophila simulans</i> | ハエ目ショウジョウバエ科シマショウジョウバエ亜科 | | 1972年以降全国 | 全域 | | | | 1936年小笠原で発見. 1972年以降全国的に見られる. | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|-----|---------------|---------------|------------------------|--|-----------------------|----|--|---|---|---|------|----------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 昆虫類 | アカマダラカツオブシムシ | 体長2.6~4.0mm | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | アズキマメゾウムシ | 2~3mm | 陸域：畑地及び室内 成熟マメのみで育つ屋内型 | 貯蔵中の豆に来て産卵、年に数回発生、温度25℃、湿度75%で約1ヶ月で1世代 | 貯蔵中の豆類に直接産卵して世代を繰り返す。 | | | アズキ、ササゲ、ダイズ、エンドウ、ソラマメ | | 貯蔵アズキ、ササゲの大害虫 | | |
| 昆虫類 | アトグロホソアリモドキ | 体長3.0~3.5mm | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | アメリカジガバチ | 体長20~25mm | 陸域 | | | | | | 本種との競合により在来種キゴシジガバチが絶滅の危機にある。 | | | |
| 昆虫類 | アメリカシロヒトリ | | 陸域：蛹で越冬 | | | | 年間の発生は2回、成虫が5月下旬頃と8月中旬頃。 | 1雌当たりの産卵数平均900~1000個。 | ブラタナスとサクラ、カキの被害が著しい。ほかにクワ、ヤナギ類、ニワウルシなど。 | | | |
| 昆虫類 | アメリカミズアブ | 体長10~20mmほど | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | アルファルファタコゾウムシ | 体長4.8~5.5mmほど | 陸域 | 成虫は産卵数が多く(600~800卵)、しかも土着の有用天敵が存在しない。4月頃に高密度、高湿度等により疫病が流行し減少することもある。鹿児島県で1998年4月に疫病が流行し減少した。 | | | 11月頃からレンゲ、ウマゴヤシ、カラスノエンドウなどのマメ科植物に飛来し、1、2月を中心に12月から5月上旬まで産卵を続ける。4月中~下旬に幼虫密度がピークに達し、5月上旬頃から新成虫が羽化し始める。 | 成虫は5月中旬頃から周辺の樹皮下や建物の隙間、石の下などに移動し、集団で夏眠。 | | レンゲの被害、多発生地ではキュウリ、メロンなどの農作物を食害した事例も報告されている。 | | |
| 昆虫類 | イセリアカイガラムシ | 体長4~6mm | 陸域 | 年2~3回、時期不定、成虫越冬 | | | | | | | | |
| 昆虫類 | イネミズゾウムシ | 体長3.0~3.3mmほど | 陸域 | 雑木林で越冬した成虫は、春に単子葉の雑草を摂食し飛行可能となる。その後水田に移動して産卵する。孵化した幼虫はイネの根を摂食。幼虫は土中で蛹化。羽化後越冬地に移動。 | | | | | | | | |
| 昆虫類 | イラガセイボウ | 体長10mm | 陸域 | イラガの天敵 | 7~9月 | | | イラガの繭に産卵 | | | | |
| 昆虫類 | ウスバキスイ | 体長2.0~2.7mm | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | オオタコゾウムシ | 体長7.5~8.0mm | 陸域 | | | | | シロツメクサ・アカツメクサなどのマメ科植物 | 在来種との競合・駆逐の可能性 | 農林水産業などへの影響 | | |
| 昆虫類 | オオタバコガ | | | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | オナジショウジョウバエ | | 陸域：人家内には侵入せず | | | | | 腐敗植物食 | 交配による遺伝子攪乱 | 特になし | | |

千葉県外来種整理表
(全動物種原案)

表 3 / 3

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 | |
|-----|---------------|---------------|--------|--------|---|--------------------------|----|--|---|----|--|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | | |
| 昆虫類 | アカマダラカツオブシムシ | D | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.127-128 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.672千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | アズキマメゾウムシ | C | C | | 輸入豆類に対する植物検疫の強化が必要. | | | 林匡夫ほか(1984)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.225 原田豊秋(1984). 家屋内で見受けられる食品害虫について(2), 家屋害虫: 127-137. | | | |
| 昆虫類 | アトグロホソアリモドキ | 情報不足 | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.421 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.710千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | アメリカジガバチ | A | C | | | | | 朝比奈正二郎ほか(1965), 原色昆虫大図鑑・, 北隆館, 東京, p.299 | 確認文献; 1 須田博久(1999)千葉県産有刺類のハチ、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.786千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | アメリカシロヒトリ | C | C | | | | | 井上寛ほか(1982)日本蛾類大図鑑1, 講談社, 東京, p.653 | 確認文献; 1, 2 矢野幸夫・清野元之(1999)千葉県の大蛾類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.386千葉県動物誌 矢野幸夫(1999)千葉県の帰化動物、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.1225千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | アメリカミズアブ | 情報不足 | C | | | | | 朝比奈正二郎ほか(1965), 原色昆虫大図鑑・, 北隆館, 東京, p.195 | 確認文献; 1 篠永哲(1999)千葉県の双翅類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.812千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | アルファルファタコゾウムシ | C | C | | 1988~89年に門司植物貿易所はアメリカから4種の寄生蜂を導入。現在ヨーロッパトビチビアメバチを九州各県に放飼。寄生蜂の定着は北九州と山口県の一部で確認。微生物(Metarhizium, Beauveria属菌)の利用も。遅目の播種が有効。 | | | 確認文献; 末永博(2002)アルファルファタコゾウムシ〜レンゲにとって脅威、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.129 林匡夫ほか(1984)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.285 | | | |
| 昆虫類 | イセリアカイガラムシ | C | C | | | 天敵のベダリアテントウの導入・放飼(制圧に成功) | | 確認文献; 河合省三(2002)温室にすむカイガラムシ〜温室、花卉害虫として侵入、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.143 p.144 河合省三(1980)日本原色カイガラムシ図鑑、(株)全国農村教育協会、東京、p.87 | | | |
| 昆虫類 | イネミズゾウムシ | C | C | | 農産物の自給率を向上させること | | | 林匡夫ほか(1984)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.291 森本進生(2002)イネミズゾウムシ〜分布の拡大と近隣諸国への侵入、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.128 | 確認文献; 1, 2 森本桂・山崎秀雄(1999)千葉県のゾウムシ上科、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.738千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | イラガセイボウ | 情報不足 | C | | | | | | 確認文献; 9 | | |
| 昆虫類 | ウスバキスイ | 情報不足 | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.207 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.681千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | オオタコゾウムシ | C | C | | | | | 林匡夫ほか(1984)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.285 森本桂(1988). 日本へ侵入したゾウムシ類の見分け方と被害、農業研究, 35(1):28-44. 堀繁久(2003). 北海道に侵入したオオタコゾウムシ, jezoensis, 29:71-72. | 確認文献; 1 森本桂・山崎秀雄(1999)千葉県のゾウムシ上科、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.738千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | オオタバコガ | C | C | | 粗皮削り、がんしゅ病病斑中の虫を捕殺。がんしゅ病罹病木の除去、剪定痕の傷に塗布剤。 | | | | | | |
| 昆虫類 | オナジショウジョウバエ | 情報不足 | C | | | なし | | Watabe, H., E. Momma & M. T. Kimura(1980). Changes in drosophilid fauna at the University Botanical Garden in Sapporo, Japan. Drosophila Information Service 55:141-142. | | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 1 / 3

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|-----|--------------|--|--------------------------|----------------|--------------------------------|---|---------------|----------------------------|-------------------|-------------|-----|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 昆虫類 | オンシツコナジラミ | <i>Trialeurodes vaporariorum</i> | ハンシ目 | 北米ないし中南米原産 | 全国 | 全域 | | 1974年広島、福島で確認 | | | |
| 昆虫類 | オンシツツヤコバチ | <i>Encarsia formosa</i> | ハチ目ツヤコバチ科 | | | 全域(但し、ハウス内)野外は未確認 | | | | | |
| 昆虫類 | ガイマイゴミシダマシ | <i>Alphitobius diaperinus</i> | コウチュウ目ゴミシダマシ科 | | 本州以南 | 我孫子市、市川市、印西町木下、印旛村山田橋、音信山、富津市青木、市原市(養老溪谷~大福山)、君津市(東山林道・笹)、清澄山 | | | | | |
| 昆虫類 | カキクダアザミウマ | <i>Ponticlothrips diospyrosi</i> | アザミウマ目アザミウマ科 | | | 富津市梨沢 | | | | | |
| 昆虫類 | カシノシマメイガ | <i>Pyralis farinalis</i> | チョウ目メイガ科 | | | 市川市、千葉市小仲台、清澄山 | | | | | |
| 昆虫類 | カドマルカツオブシムシ | <i>Dermestes haemorrhoidalis</i> | コウチュウ目カツオブシムシ科 | ヨーロッパ原産 | 本州 | 市川市、長南町笠森、銚子市君ヶ浜 | | | | | |
| 昆虫類 | キイロシヨウジョウバエ | <i>Drosophila melanogaster</i> | ハエ目シヨウジョウバエ科シマシヨウジョウバエ亜科 | 全世界 | 全国 | 全土 | | | | | |
| 昆虫類 | キゴシジガバチ | <i>Sceliphron madraspatanum</i> | ハチ目ジガバチ科 | 東アジア | 本州以南 | 千葉県全域 | | | | | |
| 昆虫類 | キョウチクトウアブラムシ | <i>Aphis nerii</i> | ヨコバイ目アブラムシ科 | | | 千葉市青葉町生態園・小食土町、安房郡天津小湊町 | | | | | |
| 昆虫類 | ギラファノコギリクワガタ | <i>Prosopocoilus giraffa borobudur</i> | コウチュウ目クワガタムシ科 | 東南アジア | | 2004年7月印西市の1例のみ | 飼育個体の放逐と思われる。 | | | | |
| 昆虫類 | グラジオラスアザミウマ | <i>Thrips simplex</i> | アザミウマ目アザミウマ科 | | | 全域 | | 1989年岡山、新潟、青森県で確認 | | | |
| 昆虫類 | クリイロデオキスイ | <i>Carpophilus marginellus</i> | コウチュウ目ケシキスイ科 | | 本州以南 | 我孫子市、市川市、佐倉市、千葉市青葉町、長柄町(権現山・秋元牧場)、富津市富津岬 | | | | | |
| 昆虫類 | クリタマバチ | <i>Dryocosmus kuriphilus</i> | ハチ目タマバチ科 | | | 君津市郷台・郷台林道 | | | | | |
| 昆虫類 | クリヤケシキスイ | <i>Carpophilus hemipterus</i> | コウチュウ目ケシキスイ科 | | 屋久島以北 | 市川市、夷隅地区 | | | | | |
| 昆虫類 | クロイワツツク | <i>Meimuna kuroiwae</i> | ヨコバイ亜目セミ科 | | 鹿児島県大隈半島、種子島、屋久島、奄美大島、喜界島、沖縄本島 | 白浜町 | わずかずつ生息域を拡大中 | | サルスベリとソテツの移植に伴う移入 | 1972, 1973年 | |
| 昆虫類 | クロチビエンマムシ | <i>Carcinops pumilio</i> | コウチュウ目エンマムシ科 | | 全国 | 旭市浜海岸 | | | | | |
| 昆虫類 | クロテンオオメシコガ | <i>Opogona sacchari</i> | チョウ目ヒロゾコガ科 | アフリカ、中南米、ヨーロッパ | 本州以南 | 千葉県君津郡内の観葉植物栽培農家数件で発生 | | | | | |
| 昆虫類 | クロトンアザミウマ | <i>Heliothrips haemorrhoidalis</i> | アザミウマ目アザミウマ科 | | | 富津市梨沢、清澄山 | | 小笠原で1937年に記録(1950 Monzen)。 | | | |
| 昆虫類 | ケチビコフキノウムシ | <i>Sitona hispidulus</i> | コウチュウ目ゾウムシ科 | ヨーロッパ原産 | | 我孫子市、市川市江戸川河川敷、佐倉市、栄町須賀新田、館山市見物 | | | | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|-----|--------------|-----------------------------|--|---|-----------------------------|--|-----------------------------|---|---|--|------|----------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 昆虫類 | オンシツコナジラミ | 体長1.2mm | 陸域：施設内、露地。冬期露地では発育を停止し、オオアレチノギクなどの雑草で越冬。 | 小型の吸汁性昆虫で、雑食性。冬期非休眠型で増殖能力が高く、単為生殖が可能？ | | 4～6月が特に多い。温室内では年10回以上発生。露地では年6回。夏期は一時抑制。 | | トマト、花卉、ナス、キュウリ、インゲン | | 成虫・幼虫の吸汁加害とすす病により、作物の生育阻害、収量低下、汚染果が発生。ウイルス病を媒介する。 | | |
| 昆虫類 | オンシツツヤコバチ | 体長0.6mm | 陸域：施設内。 | オンシツコナジラミの内部寄生蜂。天敵として利用。 | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ガイマイゴミムシダマシ | 体長5.5～6.0mm | 陸域 | | | | | 穀類の粉 | | | | |
| 昆虫類 | カキクダアザミウマ | 成虫は体長3ミリ、幼虫は0.5～2ミリ | 陸域 | | | | | カキの新葉 | | 果実に褐色の斑点 | | |
| 昆虫類 | カシノシマメイガ | 体長22～30mm | 陸域 | 年1,2回発生, 幼虫越冬 | 成虫は屋内 | | | 穀類、穀粉類、種子類など。 | | | | |
| 昆虫類 | カドマルカツオブシムシ | 体長6.2～8.2mm | 陸域 | | | | | 干物や動物死体などによく発生する。 | | | | |
| 昆虫類 | キイロシヨウジョウバエ | 体長約2mm | 陸域 | 卵から成虫まで25℃で約10日 | | | | | | | | |
| 昆虫類 | キゴジジガバチ | 体長20～28mm | 陸域：市街地 | | | | | 幼虫の食物としてナカムラオニグモAraneus cornutusの幼生を補食。 | | | | |
| 昆虫類 | キョウチクトウアブラムシ | 体長1.7mm | 陸域 | キョウチクトウ, ガガイモ | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ギラファノコギリクワガタ | 体長50mm～120mm | 陸域 | | | | | | 競合・駆逐などの可能性 | | | |
| 昆虫類 | グラジオラスアザミウマ | | 陸域 | | | | | グラジオラスほかカーネーション、アイリス、フリージア、ユリ、バラ小型の吸汁性昆虫で、雑食性、冬期非休眠型で増殖能力が高く、単為生殖が可能？ | | 花き類に被害 | | |
| 昆虫類 | クリイロデオキスイ | 体長2.4～3.9mm | 陸域 | | | | | | 競合・駆逐の可能性 | | | |
| 昆虫類 | クリタマバチ | | 陸域 | 幼虫は虫房を形成し越冬する。早春被害芽は異常肥大して虫えいとなり、そこで幼虫は蛹化し、初夏に羽化して虫えいを脱出。 | 卵は芽内に卵塊として生み付けられ、約1カ月で孵化する。 | | 年1世代で、単為生殖によって増殖。産卵数は平均50個。 | | クリ属植物に虫えいを作る唯一のタマバチ。クリタマバチの侵入に伴い、コナラ属寄生タマバチ類を攻撃していた寄生蜂が、新たな寄生蜂の増加により影響を受けた可能性がある。 | 果樹園・山林や野性のニホングリに多大な被害が生じた。 | | |
| 昆虫類 | クリヤケシキスイ | 体長2.4～4.0mm | 陸域 | | | | | 貯蔵食品 | | | | |
| 昆虫類 | クロイワツクツク | 体長雄23～37、雌25～34mm、全長37～52mm | 陸域：養鶏場でハエの防除のために利用 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | クロチビエンマムシ | 体長2.2～2.7mm | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | クロテンオオメンコガ | | 陸域 | | | | | | | 観葉植物（アロエ、パキラ）の幹部及び根部に寄生、加害する。食害部は植物組織が朽ちて、著しい場合枯死する。 | | |
| 昆虫類 | クロトンアザミウマ | 体長♀1.3～1.7mmほど | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ケチビコフキゾウムシ | | 陸域：芝地・牧草地などの草原環境 | | | | | シロツメクサなどのマメ科植 | 競合・駆逐の可能性 | 農林水産業などへの影響 | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 3 / 3

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 | |
|-----|--------------|---------------|--------|--------|--|--|--|---|---------------|----|---------------------------|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | | |
| 昆虫類 | オンシツコナジラミ | C | C | | 殺虫剤への耐性も強い？成虫の侵入防止対策としては、紫外線カットフィルムの利用や開口部を遮光資材でふさぐ。 | ・捕虫テープによる成虫の誘引・捕殺。 ・天敵昆虫や天敵微生物の利用。 (オンシツツヤコバチ)・登録薬剤による防除。トマト、ナス、キュウリ：スプラサイド、アブロード、アデイオン。(高密度での防除は困難。発生初期の処置が重要)・近紫外線除去フィルムの使用。 | 確認文献：桐谷圭司(2002)施設への侵入害虫～世界共通化した施設の害虫相,日本生態学会(編)外來種ハンドブック,地人書館,p.141,松井正春(2002)コナジラミ類～施設栽培にまん延し,新しいウイルス病を媒介,日本生態学会(編)外來種ハンドブック,地人書館,p.141 | | | | |
| 昆虫類 | オンシツツヤコバチ | 情報不足 | C | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ガイマイゴミムシダマシ | C | C | | 工場、倉庫の清掃をよくし、こぼれた粉粒などをそのまま放置しない。 | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・,保育社,大阪府 p.316 | 確認文献:1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.694千葉県動物誌 | | | |
| 昆虫類 | カキクダアザミウマ | C | C | | | | | 確認文献:1,2 野中俊文(1999)千葉県のアザミウマ目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.319千葉県動物誌 | | | |
| 昆虫類 | カシノシマメイガ | C | C | | | | 井上寛ほか(1982)日本蛾類大図鑑1,講談社,東京,p.381 | 確認文献:1 矢野幸夫・清野元之(1999)千葉県の蛾類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.352千葉県動物誌 | | | |
| 昆虫類 | カドマルカツオブシムシ | 情報不足 | C | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・,保育社,大阪府 p.126 | 確認文献:1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.671千葉県動物誌 | | | |
| 昆虫類 | キイロシヨウジョウバエ | 情報不足 | C | | | | | | | | 野外での生態に関してはまだ知られていない部分が多い |
| 昆虫類 | キゴシジガバチ | 情報不足 | C | | | | 朝比奈正二郎ほか(1965),原色昆虫大図鑑・,北隆館,東京,p.299 | 確認文献:1 須田博久(1999)千葉県産有刺類のハチ、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.786千葉県動物誌 | | | |
| 昆虫類 | キョウチクトウアブラムシ | C | C | | | 日本原色アブラムシ図鑑(1983),(株)全国農村教育協会,東京,p.401 | 森津孫四郎(1983)日本原色アブラムシ図鑑,zenkoku | 確認文献:1 松本嘉幸(1999)千葉県のアブラムシ類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.290千葉県動物誌 | | | |
| 昆虫類 | ギラファノコギリクワガタ | 情報不足 | C | | ペット昆虫が放逐されないような普及啓蒙活動 | | | 確認文献:5 | | | 定着の可能性は未知 |
| 昆虫類 | グラジオラスアザミウマ | C | C | | 殺虫剤への耐性も強い？オルトラン水和剤に浸漬 | 薬剤防除(効果あり) | 確認文献:桐谷圭司(2002)施設への侵入害虫～世界共通化した施設の害虫相、日本生態学会(編)外來種ハンドブック、地人書館、p.139 | | | | |
| 昆虫類 | クリイロデオキスイ | 情報不足 | C | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・,保育社,大阪府 p.178,179 | 確認文献:1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.676千葉県動物誌 | | | |
| 昆虫類 | クリタマバチ | C | C | | | | | 確認文献:1,2 薄葉重(1999)千葉県の虫えい(ゴール)を作る昆虫、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.830千葉県動物誌 | | | |
| 昆虫類 | クリヤケシキスイ | C | C | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・,保育社,大阪府 p.178,179 | 確認文献:1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.676千葉県動物誌 | | | |
| 昆虫類 | クロイワツクツク | 情報不足 | C | | | | | | | | 国内移入 |
| 昆虫類 | クロチビエンマムシ | 情報不足 | C | | | | 上野俊一ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・,保育社,大阪府 p.224 | 確認文献:1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.645千葉県動物誌 | | | |
| 昆虫類 | クロテンオオメンコガ | C | C | | | 成・幼虫の捕殺及び寄生植物の隔離防虫ネット等による被害拡大防止(根本的な防除になっていないため、徐々に被害が拡大している。冬期でも加温施設内で活動し、定着していると思われる。) | 日本応用動物昆虫学会誌 48(2):135-140(2004.5) クロテンオオメンコガ(新称) Opogona sacchari (Bojer)の日本における発生状況 吉松慎一・宮本泰行・広渡俊哉・安田耕司 | | | | |
| 昆虫類 | クロトンアザミウマ | C | C | | | | 大林隆司(2002)小笠原の外來昆虫～東洋のガラバゴスを脅かす昆虫たち、日本生態学会(編)外來種ハンドブック、地人書館、p.239 | 確認文献:1,2 野中俊文(1999)千葉県のアザミウマ目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.317千葉県動物誌 | | | |
| 昆虫類 | ケチビコフキノウムシ | C | C | | | | 森本桂(1988).日本へ侵入したゾウムシ類の見分け方と被害,農業研究,35(1):28-44. | 確認文献:1 森本桂・山崎秀雄(1999)千葉県のゾウムシ上科、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.747千葉県動物誌 | | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 1 / 3

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|-----|-----------------|---------------------------------|----------------|------------|---------------------------------|--|-----------|-----------------------------|-----|------------------------------|------------------------------|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 昆虫類 | ケブカシバンムシ | <i>Nicobium hirtum</i> | コウチュウ目シバンムシ科 | | 本州, 四国, 九州 | 市川市, 夷隅地区, 富山町 | | | | | |
| 昆虫類 | ココクゾウムシ | <i>Sitophilus oryzae</i> | コウチュウ目オサゾウムシ科 | 熱帯? | 全国 | 我孫子市, 市川市, 船橋市, 印旛村, 木更津市, | | 米の移動に付随? | | | |
| 昆虫類 | コナナガシクイ | <i>Rhizopertha dominica</i> | コウチュウ目ナガシクイムシ科 | | 本州, 四国, 九州, 種子島 | 館山市神余 | | | | 明治期に記載(佐々木, 1900) . | |
| 昆虫類 | コメノゴミムシダマシ | <i>Tenebrio obscurus</i> | コウチュウ目ゴミムシダマシ科 | | 四国以外 | 市川市, 夷隅地区, 房総南部 | | | | | |
| 昆虫類 | コルリアトキリゴミムシ | <i>Lebia viridis</i> | コウチュウ目オサムシ科 | 北米原産 | 関東地区全都県, 長野県, 静岡県 | 流山市木地, 流山市上貝塚, 我孫子市根戸新田ほか, 市川市国分, 船橋市坪井町, 佐倉市佐倉城址, 成田市宗吾, 芝山町境, 八街町岡田, | | 家畜飼料の乾草への随伴? | | 1989に千葉県佐倉市から初めて報告(中根, 1989) | 1989に千葉県佐倉市から初めて報告(中根, 1989) |
| 昆虫類 | サツマゴキブリ | <i>Opisthoplatia orientalis</i> | ゴキブリ目マダラゴキブリ科 | | 四国足摺岬, 九州南部, 伊豆八丈島, 小笠原諸島, 南西諸島 | 2001年9月鴨川市で採集されている | 定着は不明 | | | | |
| 昆虫類 | サビカクムネチビヒラタムシ | <i>Cryptolestes ferrugineus</i> | コウチュウ目ヒラタムシ科 | | 全国 | 高宕山 | | | | | |
| 昆虫類 | シバオサゾウムシ | <i>Sphenophrus venatus</i> | コウチュウ目オサゾウムシ科 | 北米原産 | 本州, 九州, 琉球 | 我孫子市, 市川市, 船橋市 | | | | | |
| 昆虫類 | シバツトガ | <i>Parapediasia teterrella</i> | チョウ目メイガ科 | | 本州以南 | 全域 | | ティフトン芝に附随 | | 1964年兵庫県でアメリカジョージア州から | |
| 昆虫類 | シルバーリーフコナジラミ | <i>Bemisia argentifolii</i> | カメムシ目コナジラミ科 | 北米 | | 全域(ここ数年県内での発生が確認されていないが、近県でトマト黄化葉巻病(TYLCV)の発生が拡大してきており、媒介虫として、注意が必要である。) | | ポインセチアに寄生し分布地域を拡大したと推定されている | | 1989年に確認された | |
| 昆虫類 | シロイチモンジヨトウ | <i>Spodoptera exigua</i> | チョウ目ヤガ科 | | 全国 | 全域 | | | | | |
| 昆虫類 | シロオビカクコムシ | <i>Tarsostenus unvittatus</i> | コウチュウ目カクコムシ科 | | 本州~奄美 | 市川市, 習志野市, 八日市場市, 夷隅地区 | | | | | |
| 昆虫類 | シロオビマルカツオブシムシ | <i>Anthrenus nipponensis</i> | コウチュウ目カツオブシムシ科 | | 本州~九州 | 夷隅地区, 館山市 | | | | | |
| 昆虫類 | ジンサンシバンムシ | <i>Stegobium paniceum</i> | コウチュウ目シバンムシ科 | | 全国 | 習志野市, 市川市 | | | | 大正期~昭和初期に定着. | |
| 昆虫類 | ジンチョウゲヒゲナガアブラムシ | <i>Acyrtosiphon argus</i> | アブラムシ目アブラムシ科 | | | 鎌ヶ谷市, 市川市. 市原市 | | 1989年につくば市で発見された. | | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|-----|-----------------|---------------|---------------------|--|------------------------|-------|------|--|--|---|------|----------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 昆虫類 | ケブカシバンムシ | 体長3.7~6.0mm | 陸域 | | | | | マツ、ヒノキ、クス、その他 | | | | |
| 昆虫類 | コクゾウムシ | 体長2.0~2.8mm | 陸域：貯蔵穀物のある室内 高温を好む。 | | | | | コメ、コムギなどの穀類 | | 農林水産業などへの影響 | | |
| 昆虫類 | コナナガシクイ | 体長2.1~3.0mm | 陸域 | | | | | 穀類の害虫。粉などの加工品にも | | | | |
| 昆虫類 | コメノゴミムシダマシ | 体長14.0~18.0mm | 陸域 | | | | | 穀類 | 競合・駆逐の可能性 | 農林水産業などへの影響 | | |
| 昆虫類 | コルリアトクリゴミムシ | | 陸域：オープンランド環境 | ハムシ類の幼虫に寄生 タデ類の葉上にカミナリムシ類と共にいることが多く、その幼虫を捕食しているものと思われる。またセイタカアワダチソウの花にも来る。 | | | | ハムシ類の幼虫に寄生 | 上位捕食者としての影響 競合・駆逐の可能性 | | | |
| 昆虫類 | サツマゴキブリ | 体長♂25・♀30~35 | 陸域 | 幼虫で越冬し6月頃成虫に。 | 朽ち木の隙間に数頭ひそむ。幼虫は水中を好む。 | 卵胎生 | | | | | | |
| 昆虫類 | サビカクムネチビヒラタムシ | 体長1.5~2.2mm | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | シバオサゾウムシ | 体長7.9~9.3mm | 陸域：芝の害虫。 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | シバツトガ | | 陸域 | | | | | | | シバに被害 | | |
| 昆虫類 | シルバーリーフコナジラミ | 体長2mm | 陸域 | 冬期非休眠型で増殖能力が高く、単為生殖が可能？ | | | | イチゴ、トマト、小型の吸汁性昆虫で、雑食性。 | トマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV)が九州、東海の一部地域にまん延しつつある。 | トマト、キュウリ、メロンなど極めて多くの作物に寄生する。すす病による葉や果実の汚れや、ウイルス病(トマト黄化葉巻病)を媒介。特異的な被害として、トマト果実の着色異常や、緑色野菜の白化症状がある。 | | |
| 昆虫類 | シロイチモンジヨトウ | 体長10-15mm | 陸域 | 成虫は長距離移動可能。幼虫は耐寒性あり。 | | | | 花卉、ネギなど広範囲。 | | ネギ：葉への食害。 | | |
| 昆虫類 | シロオビカクムシ | 体長4.0~5.0mm | 陸域 | | | | | 捕食性で、ヒラタキクムシなどの食材昆虫を捕食 | | | | |
| 昆虫類 | シロオビマルカツオブシムシ | 体長2.3~4.1mm | 陸域 | | | | | 雑食。花など | | | | |
| 昆虫類 | ジンサンシバンムシ | 体長1.7~3.0mm | 陸域 | | | 年2-3回 | | 多くの乾燥動・植物質を食害する。とりわけ漢方生薬、園芸用油かすなどの肥料、多くの乾燥動・植物質を食害する。とりわけ漢方生薬、園芸用油かすなどの肥料。 | | シバンムシアリガタバチ(刺傷被害を起こす)が寄生する。 | | |
| 昆虫類 | ジンショウゲヒゲナガアブラムシ | | 陸域 | | | | | | | | | |

千葉県外来種整理表
(全動物種原案)

表 3 / 3

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 |
|-----|-----------------|---------------|--------|--------|--|--|---|--|--|------|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | |
| 昆虫類 | ケブカシバンムシ | C | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.141, 142 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.673千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ココゾウムシ | C | C | | 穀物貯蔵施設を低温に保つと、発生をおさえることが可能 | | | 梅谷献二(2002)外来マメゾウムシ類～豆類の交流で広がった子実害虫、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.135 林匡夫ほか(1984)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.348 原田豊秋(1984) . 家屋内で見受けられる食品害虫について(1), 家屋害虫: 118-123. | 確認文献; 1 森本桂・山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.749千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | コナナガシクイ | C | C | | | | | 中北宏(2002)外来貯穀害虫～食料の交易で分布を拡大、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.134 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.135, 136 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.672千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | コメノゴミムシダマシ | C | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.202 林長閑(1984) . 家屋・食品に見られる鞘翅目(甲虫目)の形態と生態、家屋害虫: 24-47. | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.699千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | コルリアトキリゴミムシ | 情報不足 | C | | | | | 中根猛彦(1989) . 移入種と思われるアトキリゴミムシの記録、昆虫と自然、24(8): 33. 松本英明(1997) . 北海道未記録および希少なゴミムシ類5種、層雲峡博物館研究報告、17: 25-26. | 確認文献; 1 笠原須磨生(1999)千葉県の歩行虫、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.537千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | サツマゴキブリ | 情報不足 | C | | | | | 朝比奈正二郎ほか(1965), 原色昆虫大図鑑・, 北隆館, 東京, p.62 | 確認文献; 10 | 国内移入 |
| 昆虫類 | サビカクムネチビヒラタムシ | 情報不足 | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.319 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.678千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | シバオサゾウムシ | C | C | | | | | 林匡夫ほか(1984)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.346 | 確認文献; 1, 2 森本桂・山崎秀雄(1999)千葉県のゾウムシ上科、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.749千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | シバツトガ | C | C | | | | パチルス・チューリングシス(BT)は自然界に広く分布している天敵細菌 薬剤防除(効果高い) | 井上寛ほか(1982)日本蛾類大図鑑1, 講談社, 東京, p.326 | | |
| 昆虫類 | シルバリーーフコナジラミ | C | C | | 防除対策として、有効な殺虫剤、防虫ネット、幼若ホルモン溶剤を塗布した黄色シート、天敵等の防除素材が開発、利用されている。 | 成虫の侵入防止対策としては、紫外線カットフィルムの利用や開口部を遮光資材でふさぐ。捕虫テープによる成虫の誘引・捕殺。天敵昆虫や天敵微生物の利用。登録薬剤による防除。 | | 関東病虫研報, 37, 209-211 (1990) 関東病虫研報, 39, 215-218 (1992) | 確認文献; 桐谷圭司(2002)施設への侵入害虫～世界共通化した施設の害虫相、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.141, 松井正春(2002)コナジラミ類～施設栽培にまん延し、新しいウイルス病を媒介、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.141 | |
| 昆虫類 | シロイチモンジヨトウ | C | C | | | | 薬剤による防除: 3齢になると耐性が高い。孵化直後は効果あり。フェロモンによる防除: 交信かく乱剤(商品名: ヨトウコンーS)が市販。5ha以上が必要。(やや難あり) 誘殺灯を併用する。 | 井上寛ほか(1982)日本蛾類大図鑑1, 講談社, 東京, p.764 | | |
| 昆虫類 | シロオビカッコウムシ | 情報不足 | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.159 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.674千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | シロオビマルカツオブシムシ | 情報不足 | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.129 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.671千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ジンサンシバンムシ | C | C | | | | | 中北宏(2002)外来貯穀害虫～食料の交易で分布を拡大、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.134 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.141 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.672千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ジンチョウゲヒゲナガアブラムシ | 情報不足 | C | | | | | 宮崎昌久(2002)外来アブラムシ類～遠来の客アブラカルト、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.145 | 確認文献; 1 松本嘉幸(1999)千葉県のアブラムシ類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.291千葉県動物誌 | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 1 / 3

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|-----|---------------------|------------------------------------|----------------|------------|--|----------------------------|-------------|--|-----|----------------------------|------------------|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 昆虫類 | スジマダラメイガ | <i>Ephestia cautella</i> | チョウ目メイガ科 | 熱帯～亜熱帯原産 | | 市川市国府台, 清澄山 | | 穀物の移動 | | 大正期～昭和初期に定着. | |
| 昆虫類 | セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ | <i>Uroleucon nigrotuberculatum</i> | アブラムシ目アブラムシ科 | | 本州以南 | 千葉市青葉町生態園 | | | | | 1991年に千葉県で発見された. |
| 昆虫類 | セイヨウオオマルハナバチ | <i>Bombus terrestris</i> | ハチ目ミツバチ科 | ヨーロッパ原産 | 1996年秋に北海道日高地方門別町で自然巣が発見. 2001年には静岡県で記録. | | | 温室トマトの受粉昆虫として1992年頃からベルギーやオランダから輸入されている. | | | |
| 昆虫類 | セイヨウミツバチ | <i>Apis mellifera</i> spp. | ハチ目ミツバチ科 | ヨーロッパ原産 | 全国 | 千葉県全域 | | 1876年に養蜂用に導入された. | | | |
| 昆虫類 | ソラマメゾウムシ | <i>Bruchus rufimanus</i> | コウチュウ目マメゾウムシ科 | 地中海沿岸原産 | 本州以南 | 我孫子市, 市川市, 八日市場市, 小湊, 夷隅地区 | | | | | |
| 昆虫類 | タケノホソクロバ | <i>Artona martini</i> | チョウ目マダラガ科 | | 全国 | 市川市, 千葉市花園町 | | | | 小笠原で1937年に記録(1950 Monzen). | |
| 昆虫類 | タバココナジラミ | <i>Bemisia tabaci</i> | ハンシ目 | | | 全域 | | | | | |
| 昆虫類 | タバコシバンムシ | <i>Lasioderma serricorne</i> | コウチュウ目シバンムシ科 | | 全国 | 千葉県全域 | 日本全域 | | | | |
| 昆虫類 | チャイロコキノコムシ | <i>Typhaea stercorea</i> | コウチュウ目コキノコムシ科 | | 本州, 沖縄 | 一宮町 | | | | | |
| 昆虫類 | チャイロコメノゴミムシダマシ | <i>Tenebrio molitor</i> | コウチュウ目ゴミムシダマシ科 | ヨーロッパ原産 | 本州 | 市川市, 館山市 | | | | | |
| 昆虫類 | チャゴマフカミキリ | <i>Mesosa perplexa</i> | コウチュウ目カミキリムシ科 | | | 館山市 | | | | | |
| 昆虫類 | チュウゴクオナガコバチ | <i>Torymus sinensis</i> | ハチ目オナガコバチ科 | 中国河南省 | 茨城県では放飼後3年後, 熊本県では放飼後17年後に定着したと思われる. | 全域 | | 1979年と1981年にクリタマバチの防除を目的に寄生蜂である本種が導入放飼された. | | | |
| 昆虫類 | チューリップネアブラムシ | <i>Dysaphis tulipae</i> | アブラムシ目アブラムシ科 | | | 安房 | | | | | |
| 昆虫類 | ツヅリガ | <i>Paralipsa gularis</i> | チョウ目メイガ科 | | 全国 | 市川市国府台 | | | | | |
| 昆虫類 | ツマグロカミキリモドキ | <i>Necerdes melanula</i> | コウチュウ目カミキリモドキ科 | | 全国 | 市川市, 銚子市西明浦 | | | | | |
| 昆虫類 | テツイロヒメカミキリ | <i>Ceresium sinicum</i> | コウチュウ目カミキリムシ科 | 台湾, 中国, タイ | 関東以西の本州, 九州 | 我孫子市, 市川市, 船橋市 | 住宅街に限定的に生息. | | | | |
| 昆虫類 | トゲムネデオネスイ | <i>Monotoma spinicollis</i> | コウチュウ目ネスイムシ科 | | 四国 | 安房郡鋸南町浮島 | | | | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 2 / 3

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|-----|---------------------|---------------|------------------------------|------------------------|------|------|------|--|--|--------------------------------|---------------|--|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 昆虫類 | スジマダラメイガ | 開帳8-18mm | 陸域 | 年3-4回発生. 幼虫 越冬倉庫内 | | | | 米, 麦, マメなど. 特に粉状になった状態で多く発生. | | | | |
| 昆虫類 | セイトカアワダチソウヒゲナガアブラムシ | | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | セイヨウオオマルハナバチ | | 陸域 | | | | | | 植生などへの影響 在来近縁種と競合・駆逐の可能性 交雑による遺伝的攪乱 北海道日高地方では広範な野生植物, 栽培植物を利用し, 盗蜜を高頻度で行う. | | | |
| 昆虫類 | セイヨウミツバチ | | 陸域 | | | | | | ニホンミツバチと巣が接近しているとニホンミツバチの巣を攻撃し全滅させる. | | | |
| 昆虫類 | ソラマメゾウムシ | | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | タケノホソクロバ | | 陸域 | 暖地で2-3回. | | | | タケ・ササ | | | | 幼虫の背面の瘤起部に毒針毛を備え, これに触れると激しい痛みと後にかゆみを伴う皮膚炎を起こす. 成虫は無害. |
| 昆虫類 | タバココナジラミ | | 陸域 | | | | | | | トマト・ポインセチア・ウリ類を中心に広範な作物に被害を及ぼす | | |
| 昆虫類 | タバコシバンムシ | 体長1.7~3.1mm | 陸域 | | | 6-8月 | | 貯蔵穀物や穀粉およびパン、ビスケットなどの菓子類。畳、ワラなどの乾燥植物質。 | | | 家屋内で発生することがある | 本種に寄生するタバコシバンムシアリガタバチに刺される被害があり |
| 昆虫類 | チャイロコキノコムシ | 体長2.0~2.5mm | 陸域：山間部, 林 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | チャイロコメノゴミムシダマシ | 体長11.0~15.0mm | 陸域 | 幼虫がミルワーム, 小動物の餌」として利用. | | | | | | | | |
| 昆虫類 | チャゴマフカミキリ | | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | チュウゴクオナガコバチ | | 陸域 | | | | | | | なし | | |
| 昆虫類 | チューリップネアブラムシ | | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ツヅリガ | | 陸域 | 成虫は屋内 | | | | 貯穀 | | | | |
| 昆虫類 | ツマグロカミキリモドキ | 体長9.0~12.0mm | 陸域：海岸付近, 特に都会, 貯木場. 時として大発生. | 成虫は5-6月 | | | | 湿った材木を好んで食べる | | | | 体液にカンタリジンという毒液を持っていて, それが人間の皮膚につくと水ぶくれを引き起こす衛生害虫 |
| 昆虫類 | テツイロヒメカミキリ | 体長9.5~15.5mm | 陸域：大都市周辺にふつう | | | | | 落葉広葉樹 | | | | |
| 昆虫類 | トゲムネデオネスイ | | 陸域 | | | | | | | | | |

千葉県外来種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 | |
|-----|---------------------|---------------|--------|--------|-------------------------------|----------------|----|---|---|----|------------|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | | |
| 昆虫類 | スジマダラメイガ | C | C | | | | | 中北宏(2002)外来貯穀害虫～食料の交易で分布を拡大、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p134 井上寛ほか(1982)日本蛾類大図鑑1、講談社、東京、p.388 梅谷・岡田編(2003). 日本農業害虫大事典、全国農村教育協会。 | 確認文献; 1 矢野幸夫・清野元之(1999)千葉県の大蛾類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p353千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ | 情報不足 | C | | | | | 宮崎昌久(2002)外来アブラムシ類～遠来の客アブラムシ、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p145 井上寛ほか(1982)日本蛾類大図鑑1、講談社、東京、p.388 | 確認文献; 1 松本嘉幸(1999)千葉県のアブラムシ類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p296千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | セイヨウオオマルハナバチ | A | A | | 逸出防除ネットの展張、使用済み巣箱の適正処理の普及を図る。 | | | 確認文献; 11 鷺谷いづみ・松村千鶴(2002)セイヨウオオマルハナバチ～研究者有志による監視活動、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p145 鷺谷いづみ他(1997). マルハナバチ・ハンドブック、文一総合出版。 | | | |
| 昆虫類 | セイヨウミツバチ | C | C | | | | | 桐谷圭治(2002)ウンカとセイヨウミツバチ～ニホンに定着できない外来昆虫、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p162 | 確認文献; 1 須田博久(1999)千葉県産有刺類のハチ、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p811千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | ソラマメゾウムシ | C | C | | | | | 梅谷献二(2002)外来マメゾウムシ類～豆類の交流で広がった子実害虫、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p135 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p712千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | タケノホソクロバ | C | C | | | | | 大林隆司(2002)小笠原の外来昆虫～東洋のガラバゴスを脅かす昆虫たち、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p239 井上寛ほか(1982)日本蛾類大図鑑1、講談社、東京、p.294 | 確認文献; 1 矢野幸夫・清野元之(1999)千葉県の大蛾類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p341千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | タバココナジラミ | C | C | | | 薬剤防除 | | | | | |
| 昆虫類 | タバコシバンムシ | C | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・、保育社、大阪府 p.143 | 確認文献; 6 | | |
| 昆虫類 | チャイロコキノコムシ | 情報不足 | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・、保育社、大阪府 p.288 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p693千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | チャイロコメノゴミムシダマシ | 情報不足 | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・、保育社、大阪府 p.318 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p699千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | チャゴマフカミキリ | D | C | | | | | | 確認文献; 1 伊藤敏仁(1999)千葉県のカミキリムシ類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p623千葉県動物誌 | | 同定間違いの可能性大 |
| 昆虫類 | チュウゴクオナガコバチ | 情報不足 | C | | | | | 確認文献; 村上陽三(2002)クリタマバチ～クリの芽に虫えいを作って大被害、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p147 | | | |
| 昆虫類 | チューリップネアブラムシ | 情報不足 | C | | | | | | 確認文献; 1 松本嘉幸(1999)千葉県のアブラムシ類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p292千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | ツヅリガ | 情報不足 | C | | | | | 井上寛ほか(1982)日本蛾類大図鑑1、講談社、東京、p.376 | 確認文献; 1 矢野幸夫・清野元之(1999)千葉県の大蛾類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p350千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | ツマグロカミキリモドキ | C | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・、保育社、大阪府 p.402 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p707千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | テツイロヒメカミキリ | 情報不足 | C | | | | | 林匡夫ほか(1984)原色日本甲虫図鑑・、保育社、大阪府 p.46 | 確認文献; 1 | | |
| 昆虫類 | トゲムネデオネスイ | 情報不足 | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・、保育社、大阪府 p.170 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p675千葉県動物誌 | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 1 / 3

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|-----|----------------|-----------------------------------|-------------------|-----------------|-----------------------|--|---------------|--------------------------|-----|----------------------------|-------------|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 昆虫類 | トビカツオブシムシ | <i>Dermestes ater</i> | コウチュウ目カツオブシムシ科 | | 全国 | 銚子市君ヶ浜, 館山市 | | | | | |
| 昆虫類 | トマトマメハモグリバエ | <i>Liriomyza sativae</i> | ハモグリバエ科 | 北米南部～南米原産 | 2002年2月現在21都府県で確認された。 | 全域 | | 1990年代にアフリカからアジア各地に侵入した。 | | 1999年京都府のトマトで発見 | |
| 昆虫類 | ナガヒョウホンムシ | <i>Ptinus japonicus</i> | コウチュウ目ヒョウホンムシ科 | | | 市川市, 八日市場市 | | | | | |
| 昆虫類 | ナシアザミウマ | <i>Taeniothrips inoconsequens</i> | アザミウマ目アザミウマ科 | | | 清澄山 | | | | | |
| 昆虫類 | ナシヒメシンクイ | <i>Grapholita molesta</i> | チョウ目ハマキガ科ヒメハマキガ亜科 | | 全国 | 全域 | | | | | |
| 昆虫類 | ネギアザミウマ | <i>Thrips tabaci</i> | アザミウマ目アザミウマ科 | | | 富津市梨沢, 清澄山 | | | | 小笠原で1937年に記録(1950 Monzen)。 | |
| 昆虫類 | ノシメマダラメイガ | <i>Plodia interpunctella</i> | チョウ目メイガ科 | | | 千葉市花園町 | | | | | |
| 昆虫類 | バクガ | <i>Sitotroga cerealella</i> | チョウ目キバガ科 | | | 松戸市八ヶ崎 | | | | 明治期に記載(佐々木, 1900) | |
| 昆虫類 | ハナアザミウマ | <i>Thrips hawaiiensis</i> | アザミウマ目アザミウマ科 | | | 千葉県全域 | | | | | |
| 昆虫類 | ハラジロカツオブシムシ | <i>Dermestes maculatus</i> | コウチュウ目カツオブシムシ科 | | 全国 | 銚子市君ヶ浜, 富津市萩生 | | | | | |
| 昆虫類 | パラワンオオヒラタクワガタ | <i>Dorcus titanus palawanicus</i> | コウチュウ目クワガタムシ科 | フィリピン | | 2004年9月大多喜町の1例のみ。 | 飼育個体の放逐と思われる。 | | | | |
| 昆虫類 | ヒメカツオブシムシ | <i>Attagenus japonicus</i> | コウチュウ目カツオブシムシ科 | | 本州～九州 | 我孫子市, 市川市, 東金市, 長柄町, (権現森・秋元牧場), 夷隅地区 | | | | | |
| 昆虫類 | ヒメフタトゲホソヒラタムシ | <i>Silvans lewisi</i> | コウチュウ目ホソヒラタムシ科 | | 本州～九州 | 市川市, 岬町大東崎, 富山, 清澄山, 石尊山, 鴨川市 | | | | | |
| 昆虫類 | ヒロヘリアオイラガ | <i>Parasa lepida</i> | チョウ目イラガ科 | 中国, インド, セイロンなど | 本州, 九州, 沖縄 | 浦安市, 市川市, 松戸市, 鎌ヶ谷市, 船橋市, 習志野市, 千葉市, 市原市五所 | | | | | |
| 昆虫類 | フタオビツヤゴミムシシダマシ | <i>Alphitophagus bifasciatus</i> | コウチュウ目ゴミムシシダマシ科 | | 本州～九州 | 習志野市 | | | | | |
| 昆虫類 | ブタクサハムシ | <i>Ophraella communa</i> | コウチュウ目ハムシ科 | 北米原産 | 本州, 四国, 九州 | | | | | 1995年までは未確認 | 1996年千葉市で発見 |
| 昆虫類 | フタトゲホソヒラタムシ | <i>Silvans bidentatus</i> | コウチュウ目ホソヒラタムシ科 | | 全国 | 我孫子市, 清澄山 | | | | | |
| 昆虫類 | ブラタナスグンバイ | <i>Corytucha ciliata</i> | セミ目グンバイムシ科 | | | 市川市 | | | | | |
| 昆虫類 | ベダリアテントウ | <i>Rodolia cardinalis</i> | コウチュウ目テントウムシ科 | | 全国 | 我孫子市, 八日市場市, 一宮町一宮町海岸, 富津市大貫海岸, 清澄山 | | | | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|-----|---------------|--------------|--------------------------------------|---|------|---------------------------------|------|---|-------------|-----------|---|----------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 昆虫類 | トビカツオブシムシ | 体長6.2~8.8mm | 陸域 | | | | | 食品ばかりでなく衣服、とくに毛織物を加害する。動物の骨格標本を作るのに利用 | | | 家屋内で発生し毛織物を食害 | |
| 昆虫類 | トマトマメハモグリバエ | 体長2mm | 陸域 | 成虫の飛翔能力が高く、発生源から広範な分散によって分布が拡大したと考えられる。 | | | | | | ウリ科作物に被害 | | |
| 昆虫類 | ナガヒョウホンムシ | 体長2.7~5.0mm | 陸域 | | | | | 衣類、玄米や飼料等の穀物破片を食する。 | | | 家屋内で発生し毛織物などを食害 | |
| 昆虫類 | ナシアザミウマ | | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ナシヒメシンクイ | 開帳10-13mm | 陸域 | | | | | バラ科、ナシ、ビワ、リンゴ、モモなど | | | ナシ等バラ科果樹を加害する。被害は、幼虫の果実への食入食害によるもの、また新梢に食入し芯折れをすることによる。 | |
| 昆虫類 | ネギアザミウマ | 開帳12~15mm | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ノシメマダラメイガ | 開帳11-18mm | 陸域:屋内で普通に見られるガで、台所で発生する害虫の大半はこの種である。 | | | 発生の適温は25℃前後で、最適な条件では約40日で成虫になる。 | | 米、クルミ、豆、乾果、菓子、穀類、穀粉やその製品、チョコレート、菓子、ペット飼料などから発生する。 | | | 家屋内で発生 | |
| 昆虫類 | バクガ | 開帳13-17mm | 陸域: | | | 北海道で年2回、暖地で年4-5回 | | 麦類、米、トウモロコシなど | | | | |
| 昆虫類 | ハナアザミウマ | | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ハラジロカツオブシムシ | 体長5.5~9.5mm | 陸域 | | | | | 干物、飼料、動物死体など | | | | |
| 昆虫類 | バラワンオオヒラタクワガタ | 体長50mm~110mm | 陸域 | | | | | | 競合・駆逐などの可能性 | | | |
| 昆虫類 | ヒメカツオブシムシ | 体長3.2~4.8mm | 陸域 | | | | | 干物、毛皮、毛製品、絹、動物標本、飼料など | | | | |
| 昆虫類 | ヒメフタトゲホソヒラタムシ | 体長2.1~2.5mm | 陸域 | | | | | 穀類の粉 | | | | |
| 昆虫類 | ヒロヘリアオイラガ | | 陸域 | | | 幼虫は6月下旬~8月中旬、9月中旬~11月。繭で越冬。 | | | | | | |
| 昆虫類 | フタオビツヤゴミムシダマシ | 体長2.3~3.0mm | 陸域:製粉工場の床面の変質粉の中に多い。 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ブタクサハムシ | | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | フタトゲホソヒラタムシ | 体長2.5~3.5 | 陸域 | | | | | 食品類から見つかるが、食品以外でもカビなどの生えたところが発生源となっている可能性がある。 | | | | |
| 昆虫類 | ブラタナスグンバイ | 体長3.5 | 陸域 | | | | | ブラタナス | | | | |
| 昆虫類 | ベダリアテントウ | 体長3.3~3.8 | 陸域 | | | | | | | | | |

千葉県外来種整理表
(全動物種原案)

表 3 / 3

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 |
|-----|---------------|---------------|--------|--------|--|--|----|--|--|-----------|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | |
| 昆虫類 | トビカツオブシムシ | C | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.126 | 確認文献; 1 山崎秀雄 (1999) 千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 671 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | トマトマメハモグリバエ | C | C | | 各種薬剤抵抗性が発達。比較的低温に弱く、冬期にハウスの被覆を外して寒気にさらすことにより根絶の可能性。寄生蜂による防除が普及しつつある。 | 薬剤防除(効果あり) | | 小澤朗人 (2002) ハモグリバエ類～施設栽培で猛威をふるう侵入害虫、日本生態学会 (編) 外来種ハンドブック、地人書館、p140 | | |
| 昆虫類 | ナガヒョウホンムシ | C | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.137, 138 | 確認文献; 1 山崎秀雄 (1999) 千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 672 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ナシアザミウマ | C | C | | | | | | 確認文献; 1 野中俊文 (1999) 千葉県のアザミウマ目、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 317 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ナンヒメシンクイ | C | C | | | 粗皮削り等により、越冬量を減少させる。被害結果枝の除去。登録薬剤による防除。性フェロモン剤による防除法が普及してきている。(効果は高い) | | | 第40回研究成果発表会、(2002) 講談社大図鑑: CAT.593 / Plate: 30:10(♂);30:11(♀);287:7(♂交尾器);293:11(♀交尾器) [保育社蛾類図鑑: 247] [北隆館大図鑑: 174:12] | |
| 昆虫類 | ネギアザミウマ | C | C | | | | | 大林隆司 (2002) 小笠原の外来昆虫～東洋のガラパゴスを脅かす昆虫たち、日本生態学会 (編) 外来種ハンドブック、地人書館、p 239 | 確認文献; 1, 2 野中俊文 (1999) 千葉県のアザミウマ目、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 317 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ノシメマダラメイガ | C | C | | | | | 井上寛ほか (1982) 日本蛾類大図鑑1, 講談社, 東京, p.388 | 確認文献; 1 矢野幸夫・清野元之 (1999) 千葉県の蛾類、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 354 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | バクガ | C | C | | | | | 中北宏 (2002) 外来貯穀害虫～食料の交易で分布を拡大、日本生態学会 (編) 外来種ハンドブック、地人書館、p134 井上寛ほか (1982) 日本蛾類大図鑑1, 講談社, 東京, p.283 | 確認文献; 1 川辺 (1999) 千葉県の小蛾類、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 355 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ハナアザミウマ | C | C | | | | | | 確認文献; 1, 2 野中俊文 (1999) 千葉県のアザミウマ目、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 318 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ハラジロカツオブシムシ | C | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.126 | 確認文献; 1 山崎秀雄 (1999) 千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 671 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | バラワンオオヒラタクワガタ | 情報不足 | C | | ペット昆虫が放逐されないような普及啓蒙活動 | | | 確認文献; 4 荒谷邦雄 (2002) 外来カブトムシ・クワガタムシ～人気ペット昆虫の新たな脅威、日本生態学会 (編) 外来種ハンドブック、地人書館、p 158 | 斉藤明子 (2004) 千葉県大葛町でバラワンヒラタクワガタが発見される。房総の昆虫(33): 64. | 定着の可能性は未知 |
| 昆虫類 | ヒメカツオブシムシ | C | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.127 | 確認文献; 1 山崎秀雄 (1999) 千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 671 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ヒメフタトゲホソヒラタムシ | C | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.203 | 確認文献; 1 山崎秀雄 (1999) 千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 681 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ヒロヘリアオイラガ | C | C | | | | | 井上寛ほか (1982) 日本蛾類大図鑑1, 講談社, 東京, p.300 | 確認文献; 1 矢野幸夫・清野元之 (1999) 千葉県の蛾類、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 341 千葉県動物誌 矢野幸夫 (1999) 千葉県の絹動物、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 1226 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | フタオビツヤゴミムシダマシ | C | C | | 工場、倉庫の清掃 | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.311 | 確認文献; 1 山崎秀雄 (1999) 千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 694 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ブタクサハムシ | C | C | | | | | | 確認文献; 3 | |
| 昆虫類 | フタトゲホソヒラタムシ | C | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.203 | 確認文献; 1 山崎秀雄 (1999) 千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 681 千葉県動物誌 | |
| 昆虫類 | ブラタナスグンバイ | C | C | | | | | | 確認文献; 8 | |
| 昆虫類 | ベダリアテントウ | C | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.260 | 確認文献; 1 山崎秀雄 (1999) 千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会 (編) 千葉県動物誌、東京、p 690 千葉県動物誌 | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 1 / 3

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|------|--------------|-----------------------------------|-----------------|---------------|------------------|---|--|---|-----------|---|-------|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 昆虫類 | ホソヒメマキムシ | <i>Dienerella filum</i> | コウチュウ目ヒメマキムシ科 | | 本州 | 沼南町手賀沼 | | | | | |
| 昆虫類 | マデイラコナカイガラムシ | <i>Phenacocus madeirensis</i> | カメムシ目コナカイガラムシ科 | | 中南米原産 | 千葉県鴨川市のキク栽培農家1件にて発生 | | 1987年から1990年代の初めにかけて小笠原と南西諸島で確認。本土にも分布。 | | | |
| 昆虫類 | マメハモグリバエ | <i>Liriomyza trifolii</i> | ハエ目ハモグリバエ科 | | | 印旛管内全域 | | 1994年小笠原で初記録。 | | 1996年 | |
| 昆虫類 | ミカンキイロアザミウマ | <i>Frankliniella occidentalis</i> | アザミウマ目アザミウマ科 | 北米原産 | | 長生郡 | | | | 1990年に侵入。1999年沖縄県で確認。 | |
| 昆虫類 | ミナミキイロアザミウマ | <i>Thrips palmi</i> | アザミウマ目アザミウマ科 | 東南アジア原産 | 1978年に南西日本で確認。 | 千葉県全域 | | | | 1982年小笠原で初記録。 | |
| 昆虫類 | ヤサイゾウムシ | <i>Listroderes costirostris</i> | コウチュウ目ゾウムシ科 | ブラジル原産 | 本州, 四国, 九州, 岩手以南 | 市川市, 印西町, 船橋市, 長柄町(権現森・秋元牧場), 高宕山, 清澄山, 鴨川市江見地区 | | 商船の貨物に付着? | | 1940年岡山県, 1952年関東東南部以西22都府県。その後1960年までに薬剤により減少。 | |
| 昆虫類 | ヤノネカイガラムシ | <i>Unaspis yanonensis</i> | マルカイガラムシ科 | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ヨコヅナサシガメ | <i>Agriosphodrus dohrni</i> | コウチュウ目サシガメ科 | 中国原産 | | 全域に拡大中 | | 積み荷にまぎれて日本にやってきた | | 1928年九州で確認。 | |
| 昆虫類 | ラミーカミキリ | <i>paraglenea frotunei</i> | コウチュウ目カミキリムシ科 | 台湾、中国、ベトナム北部 | 本州以南 | 県下全域 | | | | 江戸時代 | |
| 昆虫類 | リンゴスガ | <i>Yponomeuta malinellus</i> | チョウ目スガ科 | ヨーロッパ? | | 千葉市穴川 | | | | 明治の初め | |
| 昆虫類 | ワタヘリクロノメイガ | <i>Diaphania indica</i> | チョウ目メイガ科 | | 全国 | 全域 | | | | | |
| 昆虫類 | ワタミヒゲナガゾウムシ | <i>Araecerus fasciculatus</i> | コウチュウ目ヒゲナガゾウムシ科 | | 本州以南 | | | | | | |
| 軟体動物 | ?カワアイ | <i>Cerithidea djadjariensis</i> | 腹足綱/フトヘナタリ科 | 有明海/黄海 | ヤマト(関東) | 市川市新浜 | 外来かどうか不確定。東京湾では他に現存個体群なし。個体数は増加傾向 | (国内在来種) | 潮干狩り用アサリ? | (国内在来種) | 平成時代 |
| 軟体動物 | ?ナメクジ | <i>Meghimatium bilineatum</i> | 腹足綱/ナメクジ科 | 中国 | ヤマト | 各地 | 人里に広く生息するが、外来種かどうかは不確定 | 穀類? | 様々な資材 | 史前帰化 | 史前帰化 |
| 軟体動物 | ?ヒメコハクガイ | <i>Hawaii minuscula</i> | 腹足綱/コハクガイ科 | 北アメリカ | 日本全国 | 各地 | 人里に広く生息 | 資材? | 様々な資材 | 明治時代 | 明治時代? |
| 軟体動物 | ?ミドリイガイ | <i>Perna viridis</i> | 二枚貝綱/イガイ科 | 東南アジア | ヤマト | 東京湾と内房 | 東京湾では比較的高密度 | 能動分散/船底付着/バラストタンク水 | 能動分散 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 平成時代 |
| 軟体動物 | ?ヤミヨキセワタ | <i>Aglaja? sp.</i> | 腹足綱/カノコキセワタ科 | ? | ヤマト | 小櫃川河口干潟 | 個体数は少ない | バラストタンク水? | バラストタンク水? | 平成時代 | 平成時代 |
| 軟体動物 | アサリ | <i>Ruditapes philippinarum</i> | 二枚貝綱/マルスダレガイ科 | 有明海/黄海 | ヤマト(関東) | 東京湾 | 確実な繁殖は報告されていないが、繁殖の可能性が高い | 潮干狩り用アサリ | 潮干狩り用アサリ | (国内在来種) | 平成時代 |
| 軟体動物 | アズキガイ | <i>Pupinella rufa</i> | 腹足綱/アズキガイ科 | (国内在来種:主に西日本) | 移入として、関東等 | 千葉市 | 定着は確認されていないが、埋立地地先で打ち上げ殻が確認され、定着していると推測される | (国内在来種) | 植栽等 | (国内在来種) | 平成時代 |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|------|--------------|-------------|-------------------------------------|---------------------------|-------------------|---------------|--|-------------|----------------|---|----------|-----------------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 昆虫類 | ホソヒメマキムシ | 体長1.2~1.6・ | 陸域 | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | マデイラコナカイガラムシ | | 陸域 | | | | | | | 当カイガラムシの寄生による生育抑制等の直接的被害と排泄物にすず病が発生し、茎葉を汚し商品価値が低下する。 | | |
| 昆虫類 | マメハモグリバエ | 体長2・ | 陸域: | | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ミカンキイロアザミウマ | | 陸域: シクラメン | | | | 花卉、数多いが特に瓜類、豆類、キク科 | | | 幼虫、成虫ともに食害痕、生育不良。花卉: カスリ状の退色斑。イチゴ: 花の食害による減収。果実: 白や黄色に退色。キュウリ: 葉の食害。トマト: 果実が白又は黄色に退色。トマト黄化えそウイルス(TSWV)の媒介者。 | | |
| 昆虫類 | ミナミキイロアザミウマ | 体長1.3mm | 陸域: 卵は植物の組織内に産卵。蛹化は土の中。屋外の越冬はまず不可能。 | | | | 寄生する植物は21科79種。主にナス、キュウリ、ピーマン、メロン、スイカなどの果菜類。花き類ではキクが主で、シクラメン、ガーベラ、コスモスなど。 | | | ナス: 果実に線状ののすれ、裂果。キュウリ: 果実にケロイド状痕。不整形果。 | | |
| 昆虫類 | ヤサイゾウムシ | 体長9mm | 陸域: 耐寒温度、卵2.8℃、幼虫6.3℃、蛹6.6℃ 若干の耐凍生 | 短日生・夏眠。幼虫は夜行動。 | | 年1回単為生殖 | | | | | | |
| 昆虫類 | ヤノネカイガラムシ | | 陸域 | | | | | | | カンキツの害虫であり、雌成虫が葉、緑枝、果実に寄生する。増殖力が強く、侵入当初は樹体を枯死させることも多かった。 | | |
| 昆虫類 | ヨコソナサンガメ | 体長16~24mm | 陸域 | サクラ・エノキなどに群集して越冬。5月頃成虫。 | | | | | | | | |
| 昆虫類 | ラミーカミキリ | 体長8~17mm | 陸域 | | | 5月から7月に成虫 | ラミー、ムクゲ、ヤブマオ、カラムシなど | | | | | |
| 昆虫類 | リンゴスガ | 開帳17-24mm | 陸域 | 成虫6-7月。年1世代、一齢幼虫で越冬 | | | バラ科果木 | | | | | |
| 昆虫類 | ワタヘリクロノメイガ | 開帳25mm | 陸域 | 成虫6-7月、9-10月。 | | | ワタ、ウリ、アオイ、ムクゲなど。 | | | ワタ、アオイ、クワ、キュウリ等ウリ科農作物の葉・生長点の加害 | | |
| 昆虫類 | ワタミヒゲナガゾウムシ | 体長2.5~4.0mm | 陸域 | | | | 乾燥芋、乾燥油粕等に加害 | | | | | |
| 軟体動物 | ?カワアイ | 殻高3 cm程度 | 海域: 潮間帯の泥底 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 成体と同じ | 主に夏? | 体内受精(卵紐産出) | 珪藻等 | 不明 | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | ?ナメクジ | 体長6 cm程度 | 陸域 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明 | 体内受精(卵生/直達発生) | 生きた植物体や落葉等 | 植物の食害(他動物の餌) | 農作物やキノコ類の食害 | 家庭菜園での食害 | 広東充血戦中の中間宿主 |
| 軟体動物 | ?ヒメコハクガイ | 殻径0.2 cm程度 | 陸域 | 受精後、多分産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(直達発生) | 主に落葉等 | 不明 | 不明 | 不明 | 広東充血戦中の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | ?ミドリイガイ | 殻長5 cm程度 | 海域: 潮間帯から上部浅海帯の基質に足糸で付着 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体外受精(放卵受精) | 懸濁物食 | 不明(他動物の餌/生息場所) | 多くはないが、漁業関係資材への付着が認められる | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | ?ヤミヨキセワタ | 体長2 cm程度 | 海域: 潮間帯の砂/砂泥底 | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 肉食(貝類や多毛類?) | 不明 | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | アサリ | 殻長3 cm程度 | 海域: 潮間帯から上部浅海帯の砂/砂泥底 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 主に春と秋に産卵 | 体外受精(放卵受精) | 懸濁物食 | 不明(他動物の餌) | 混入による在地個体群の価格の低下等 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | アズキガイ | 殻高1 cm程度 | 陸域: 主に林縁の落葉下 | 交尾後、多分産卵し、孵化後、幼貝から成貝へ成長する | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(雌雄異体) | 落葉等 | 不明(他動物の餌) | 不明 | 不明 | なし? |

千葉県外来種整理表
(全動物種原案)

表 3 / 3

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 | |
|------|--------------|---------------|--------|---|--|-------------------------|--|---|---|----|--|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | | |
| 昆虫類 | ホソヒメマキムシ | 情報不足 | C | | | | | 黒澤良彦ほか(1985)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.275 | 確認文献; 1 山崎秀雄(1999)千葉県の鞘翅目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.692千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | マデイラコナカイガラムシ | C | C | | | | カイガラムシ類の防除薬剤の散布および捕殺(予防的薬剤散布により防除可能) | 平成15年度病害虫発生予察特殊報第1号 高知県病害虫防除所(平成15年4月14日) | 確認文献; 河合省三(2002)温室にすむカイガラムシ類へ温室、花卉害虫として侵入、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.143 | | |
| 昆虫類 | マメハモグリバエ | C | C | | 冬期間のハウス開放、被害株の鋏込み | 薬剤による防除(やや難あり) | | 確認文献; 桐谷圭司(2002)世界共通化した施設の害虫相、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.139 北海道病害虫防除所(1996). 平成7年の発生にかんがみ注意すべき病害虫、北農、63(2):186-193. | | | |
| 昆虫類 | ミカンキイロアザミウマ | C | C | | 発生地域からの苗の持ち込みに注意。圃場周辺の雑草(キク科)の除去。栽培終了後に土壌消毒を行い蛹を死滅させる。沖縄では薬剤散布や寄生植物の除草により2ヶ月で根絶。 | | | | 確認文献; 1, 2 野中俊文(1999)千葉県のアザミウマ目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.316千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | ミナミキイロアザミウマ | C | C | | ハキダメギク、スベリヒユなど雑草の除去。各種の薬剤抵抗性。物理的・耕種的手段。天敵ヒメハナカメムシ。 | | | | 確認文献; 1, 2 野中俊文(1999)千葉県のアザミウマ目、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.317千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | ヤサイゾウムシ | C | C | | | | | 松本義明(2002)ヤサイゾウムシへかかっての害虫スターいまいずこ、日本生態学会(編)外来種ハンドブック、地人書館、p.131 林匡夫ほか(1984)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.282 | 確認文献; 1, 2 森本桂・山崎秀雄(1999)千葉県のゾウムシ上科、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.738千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | ヤノネカイガラムシ | C | C | | | | ・登録薬剤による防除。・天敵昆虫の定着利用。(効果あり。なお、中国から導入された天敵(ヤノネキイロコバチ・ヤノネツヤコバチ)の放飼により国の指定有害動植物のリストから外された。(2000年)) | | | | |
| 昆虫類 | ヨコヅナサシガメ | 情報不足 | C | | | | | 朝比奈正二郎ほか(1965), 原色昆虫大図鑑・, 北隆館, 東京, p.94 | 確認文献; 7 | | |
| 昆虫類 | ラミーカミキリ | C | C | | | | | 林匡夫ほか(1984)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.136 | | | |
| 昆虫類 | リンゴスガ | C | C | | | | | 井上寛ほか(1982)日本蛾類大図鑑1, 講談社, 東京, p.215 | 確認文献; 1 矢野幸夫・清野元之(1999)千葉県の蛾類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p.335千葉県動物誌 | | |
| 昆虫類 | ワタヘリクロノメイガ | C | C | | | 薬剤防除(効果の高い薬剤あり) | | 井上寛ほか(1982)日本蛾類大図鑑1, 講談社, 東京, p.346 | | | |
| 昆虫類 | ワタミヒゲナガゾウムシ | C | C | | 乾燥食品は密閉容器に保管し、こぼれた食品は掃除機などで吸い取っておく。 | | | 林匡夫ほか(1984)原色日本甲虫図鑑・, 保育社, 大阪府 p.227 | 確認文献; 1 | | |
| 軟体動物 | ?カワアイ | C | C | 東京湾ではほぼ絶滅した種であり、DNAでも違いがなさそうなので、見守る | バラストタンク水の「殺菌」や移入アサリのチェック | 個体群動態の調査; [産地表示の明確化] | (県内在来種: ただし絶滅に瀕する) | | 飯島・他(2002) | | 国内外来的なもの 外来種であるか未確定 |
| 軟体動物 | ?ナメクジ | B | C | 県内では農作物への被害は少ないようであり、個体数も減少傾向にある | 農作物・苗木等の移動時のチェック | 薬剤散布 | 黒田(1963) | | 稲葉(1975); 黒住・岡本(1996) | | 外来種であるか未確定 |
| 軟体動物 | ?ヒメコハクガイ | C | C | サイズ・食性から被害はほとんど出ないようである | 苗木等の移動時のチェック | 特になし | 黒田(1958) | | 稲葉(1975); 黒住・岡本(1996) | | 外来種であるか未確定 |
| 軟体動物 | ?ミドリイガイ | B | C | 個体数も多く、プランクトン幼生を出すので、駆除等が難しい。足糸で付着するので、他生物等への影響大? | バラストタンク水の「殺菌」や付着生物のチェック; 塗料等による付着面への定着阻害 | 塗料等による付着面への定着阻害と人力による除去 | 杉谷(1968); 横川・鍋島(1998); ; 日本生態学会(2002) | | 朝倉(1992) | | 東南アジア等から能動的に分散してきた可能性もあり、その場合、外来種には当てはまらない |
| 軟体動物 | ?ヤミヨキセワタ | C | C | 個体数は少ないようで、現在のところ影響は多大ではないようである | バラストタンク水の「殺菌」等 | 特になし | 和田・他(1996) | | 和田・他(1996) | | 外来種であるか未確定 |
| 軟体動物 | アサリ | B | A | 外来個体群が増加すると、水産上在来種のプラントが下がる可能性が高い | 移入アサリのチェック; 食用移入の投棄禁止; 養殖・蓄養の制限 | 特になし; [産地表示の明確化] | | | | | 国内外来的なもの |
| 軟体動物 | アズキガイ | C | C | 定着していても範囲が小さそうである | 苗木等の移動時のチェック | 特になし | 木村(2002) | | | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|------|------------------|---|--------------------|-------------|-------------|-------------|---------------------------------------|---------------------|---------------|----------------|----------------|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 軟体動物 | イガイダマシ | <i>Mytilopsis sallei</i> | 二枚貝綱/カワホトトギスガイ科 | カリブ海南部 | ヤマト | 東京湾や内房 | 広範囲ではないが、湾奥部を中心に繁殖している | 船底付着/バラストタンク水 | 船底付着? | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | イスパニアマイマイ | <i>Eobania vermiculata</i> | 腹足綱/リンゴマイマイ科 | 南ヨーロッパ | ヤマト(関東) | 浦安市 | 浦安市内の2ヶ所で繁殖 | 植木? | 植木? | 平成時代 | 浦安市に局地的に発生 |
| 軟体動物 | インドヒラマキガイ | <i>Indoplanorbis exustus</i> | 腹足綱/ヒラマキガイ科 | インド | ヤマト | 千葉市 | 野外逸脱だけで、繁殖していない可能性が高い | 観用水草? | 観用水草 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | ウスカラシオツガイ | <i>Ptericola</i> sp. cf. <i>lithophaga</i> | 二枚貝綱/イワホリガイ科 | ヨーロッパ? | ヤマト | 東京湾 | 個体数を変動させながらも、安定した個体群を維持している | バラストタンク水? | 船底付着/バラストタンク水 | 平成時代 | 平成時代 |
| 軟体動物 | ウスシジミ | <i>Corbicula papyracea</i> | 二枚貝綱/シジミ科 | 朝鮮半島 | ヤマト | 利根川河口 | 河口域でやや低密度で生息している | 食用シジミ | 食用シジミ | 平成時代 | 平成時代 |
| 軟体動物 | ウネナシトマヤ | <i>Trapezium liratum</i> | 二枚貝綱/フナガタガイ科 | (国内在来種) | ヤマト | 江戸川河口・新浜湖 | 局所的に個体数が多い | (国内在来種:現在、主に西日本に生息) | 船底付着/バラストタンク水 | | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | ウメノハナガイモドキ | <i>Felaniella sowerbyi</i> | 二枚貝綱/フタバシラガイ科 | 有明海/黄海 | ヤマト(関東) | 小櫃川河口干潟 | 極めて密度が高い | (国内在来種:主に有明海に生息) | 潮干狩り用アサリ | (国内在来種) | 平成時代 |
| 軟体動物 | オナジマイマイ | <i>Bradybaena similaris</i> | 腹足綱/オナジマイマイ科 | 東南アジア | ヤマト・琉球・小笠原 | 全域 | 各地で繁殖している | サツマイモ | サツマイモ | 江戸時代 | 江戸時代? |
| 軟体動物 | カネツケシジミ | <i>Corbicula fluminea</i> form <i>insularis</i> | 二枚貝綱/シジミ科 | 東アジア | ヤマト・琉球 | 各地 | 1990年代には多かったが、近年はやや減少傾向 | 食用シジミ | 食用シジミ | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 平成時代 |
| 軟体動物 | カワニナ属の一種 | <i>Semisulcospira</i> sp. cf. <i>forticosta</i> | 腹足綱/カワニナ科 | 朝鮮半島 | ヤマト(関東) | 利根川河口堰/茨城県側 | 千葉県側での生息の確認はできていないが、ほぼ確実に定着していると考えられる | 食用シジミ | 能動分散 | 平成時代 | 平成時代 |
| 軟体動物 | キュウシュウナミコギセル | <i>Euphadusa subaculus</i> | 腹足綱/キセルガイ科 | 国内在来種(九州地方) | 国内在来種(九州地方) | 柏市 | 人家の庭1ヶ所のみで、周辺への分散は認められていない | 国内在来種 | 植栽等 | 国内在来種 | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | コウラナメクジ(キイロナメクジ) | <i>Limax flavus</i> | 腹足綱/コウラナメクジ科 | ヨーロッパ | ヤマト | 過去には全域とされる | 1990年代にはほぼ絶滅 | 牧草? | 様々な資材 | 明治時代 | 明治時代? |
| 軟体動物 | コウロエンカワヒバリガイ | <i>Xenostrobus securis</i> | 二枚貝綱/イガイ科 | オーストラリア | ヤマト | 東京湾や各地の河口域 | 比較的高密度 | 船底付着/バラストタンク水 | 船底付着/バラストタンク水 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | コケガラス | <i>Modiolus metcalfei</i> | 二枚貝綱/イガイ科 | 有明海/黄海 | ヤマト(関東) | 東京湾 | 現在までのところ定着は確認できていないが、定着している可能性は高い | (国内在来種:主に有明海に生息) | 潮干狩り用アサリ | (国内在来種) | 平成時代 |
| 軟体動物 | コンダカヒメモノアラガイ | <i>Galba truncatula</i> | 腹足綱/モノアラガイ科 | ヨーロッパ | 北海道・ヤマト・琉球 | 千葉市 | 報告例は少ないが、各地に低密度で生息していると思われる | 牧草? | 様々な資材 | 明治時代 | 明治時代? |
| 軟体動物 | コハクオナジマイマイ | <i>Bradybaena pellucida</i> | 腹足綱/オナジマイマイ科 | 九州 | ヤマト | 中・南部全域 | 南部から着実に北部に分布を広げている | (国内在来種:主に九州に生息) | 植木? | (国内在来種) | 平成時代 |
| 軟体動物 | コハクガイ | <i>Zonitoides arboreus</i> | 腹足綱/コハクガイ科 | 北アメリカ | ヤマト・琉球 | 全域 | 人里に広く生息 | 資材? | 様々な資材 | 明治時代 | 明治時代? |
| 軟体動物 | コビトノボウシザラ | <i>Pettancylus pettardi</i> | 腹足綱/ヒラマキガイ科 | オーストラリア? | ヤマト | 市原市 | これまでのところ、市原市のみで確認されている | 観用水草? | 観用水草 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降)? |
| 軟体動物 | ゴマフダマ | <i>Natica tigrina</i> | 腹足綱/タマガイ科 | 有明海/黄海 | ヤマト(関東) | 小櫃川河口干潟 | 現在までのところ定着は確認できていないが、今後定着の可能性は高い | (国内在来種:主に有明海に生息) | 潮干狩り用アサリ | (国内在来種) | 平成時代 |
| 軟体動物 | サカマキガイ | <i>Physa acuta</i> | 腹足綱/サカマキガイ科 | ヨーロッパ | 日本全国 | 全域 | 各地の止水域に、比較的高密度で生息 | ? | 観用水草等 | 昭和時代(太平洋戦争以前) | 昭和時代(太平洋戦争以前)? |
| 軟体動物 | サキグロタマツメタ | <i>Euspira fortunei</i> | 腹足綱/タマガイ科 | 有明海/黄海 | ヤマト(関東) | 小櫃川河口干潟 | 着実に個体数が増加している | (国内在来種:主に有明海に生息) | 潮干狩り用アサリ | (国内在来種) | 平成時代 |
| 軟体動物 | シジミ類 | <i>Corbicula</i> sp. cf. <i>largillierti</i> | 二枚貝綱/シジミ科 | 東アジア | ヤマト(関東) | 県北西部 | 多少不確実であるが、タイワンシジミとは異なるものが市原市等で確認されている | 食用シジミ | 食用シジミ | 平成時代 | 平成時代 |
| 軟体動物 | シナハマグリ | <i>Meretrix petechialis</i> | 二枚貝綱/マルスダレガイ科 | 朝鮮半島南岸・中国 | ヤマト | 東京湾 | 東京湾で確認されるが、未定着と思われる | 潮干狩り用アサリ/養殖 | 潮干狩り用アサリ/養殖 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 平成時代 |
| 軟体動物 | シマメノウフネガイ | <i>Crepidula onyx</i> | 腹足綱/カリバガサ科 | アメリカ西岸中部 | ヤマト | 各地 | 各地で比較的高密度生息 | バラストタンク水? | 能動分散 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | スクミリンゴガイ | <i>Pomacea canaliculata</i> | 腹足綱/タニシモドキ(リンゴガイ)科 | アルゼンチン | ヤマト・琉球 | 主に九十九里平野 | 東総地方から南に分布を拡大しており、各地で高密度 | 養殖 | 養殖 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | スナガイ | <i>Gastrocopta armigerella</i> | 腹足綱/サナギガイ科 | 国内在来種 | 国内在来種 | 各地 | 在来群は海岸地域に、外来群は造成地等に生息している | 国内在来種 | 植栽等 | 昭和時代(太平洋戦争以降)? | 昭和時代(太平洋戦争以降)? |
| 軟体動物 | スナガイ類 | <i>Gastrocopta</i> sp. | 腹足綱/サナギガイ科 | 北アメリカ? | ヤマト(関東地方) | 浦安市 | 1ヶ所でのみ、比較的高密度で生息 | 様々な資材 | 植栽等 | 昭和時代(太平洋戦争以降)? | 昭和時代(太平洋戦争以降)? |
| 軟体動物 | タイワンシジミ | <i>Corbicula fluminea</i> | 二枚貝綱/シジミ科 | 東アジア | ヤマト・琉球 | 主に県北部 | 着実に増加している | 食用シジミ | 食用シジミ | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 平成時代 |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|------|------------------|------------|-------------------------|------------------------------|-------------------|------------------|---------------------|------------------|-------------------------|--------------------------------|------------------|-----------------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 軟体動物 | イガイダマシ | 殻高2 cm程度 | 海域：主に上部浅海带の基質に足糸で付着 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 産卵は初夏から秋と推定(大阪湾) | 体外受精(放卵放精) | 懸濁物食 | 不明(他動物の餌/生息場所) | 多くはないが、漁業関係資材への付着が認められる | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | イスパニアマイマイ | 殻径3 cm程度 | 陸域：開放地 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明 | 体内受精(卵生/直達発生) | 生きた植物体や落葉等 | 不明 | 農作物の食害の可能性 | 家庭菜園での食害の可能性 | 広東充血戦中の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | インドヒラマキガイ | 殻径1.5 cm程度 | 淡水域：止水域の水草上 | 直達発生で、幼貝から成貝に成長する | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(付着卵囊/直達発生) | 珪藻等 | 不明 | 不明 | 不明 | 吸虫類の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | ウスカラシオツガイ | 殻高2 cm程度 | 海域：潮間帯から上部浅海带の基質上や中 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体外受精(放卵放精) | 懸濁物食 | 不明(他動物の餌/生息場所) | 多くはないが、漁業関係資材への付着が認められる | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | ウスシジミ | 殻長2 cm程度 | 汽水域：河口部の潮間帯砂/砂泥底 | 幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体外受精? | 懸濁物食 | 在来のヤマトシジミとの競合や置き換わりの可能性 | ヤマトシジミ選別の手間増加(ヤマトシジミとの競合等の可能性) | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | ウネナシトマヤ | 殻長2.5 cm程度 | 海域：潮間帯のカキ等の基質に足糸で付着 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体外受精(放卵放精) | 懸濁物食 | 不明(他動物の餌/生息場所) | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | ウメノハナガイモドキ | 殻長0.5 cm程度 | 海域：潮間帯の砂底 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体外受精(放卵放精) | 懸濁物食 | 不明(他動物の餌) | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | オナジマイマイ | 殻径2 cm程度 | 陸域：開放地 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 冬季以外 | 体内受精(卵生/直達発生) | 生きた植物体や落葉等 | 植物の食害(他動物の餌) | 農作物の食害 | 家庭菜園での食害 | 広東充血戦中の中間宿主 |
| 軟体動物 | カネツケシジミ | 殻長2 cm程度 | 淡水域：人里周辺の流れの弱い流水域や止水域 | 体内で稚貝となり、体外へ放出され、幼貝から成貝へ成長する | 受精は体内で、定着場所は成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(放精：雄性発生) | 懸濁物食 | 在来のマシジミとの置き換わり | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | カワノナ属の一種 | 殻高3 cm程度 | 淡水域：止水域の底質上 | 不明だが、幼貝から成貝に成長する | 成体と同じ | 不明 | 体内受精(胎生) | 珪藻等 | 不明(他動物の餌) | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | キュウシュウナミコギセル | 殻高1.2 cm程度 | 陸域：開放地から林縁部 | 受精後、体内で発生し、稚貝を産出し、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(雌雄同体/卵胎生/直達発生) | 主に落葉等 | 不明(他動物の餌) | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | コウラナメクジ(キイロナメクジ) | 体長8 cm程度 | 陸域：開放地 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(卵生/直達発生) | 生きた植物体や落葉等 | 植物の食害 | 農作物の食害 | 家庭菜園での食害 | 広東充血戦中の中間宿主 |
| 軟体動物 | コウロエンカワヒバリガイ | 殻長2.5 cm程度 | 海域：汽水域から内湾の潮間帯の基質に足糸で付着 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 夏に着底直後の幼貝が多い | 体外受精(放卵放精) | 懸濁物食 | 不明(他動物の餌/生息場所) | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | コケガラス | 殻長6 cm程度 | 海域：上部浅海带の砂/砂泥底 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体外受精(放卵放精) | 懸濁物食 | 不明(他動物の餌/生息場所) | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | コシダカヒメモノアラガイ | 殻高0.6 cm程度 | 淡水域：止水域の水面直上の湿性部分 | 直達発生で、幼貝から成貝に成長する | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(付着卵囊/直達発生) | 珪藻等 | 不明(他動物の餌) | 不明 | 不明 | 吸虫類の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | コハクオナジマイマイ | 殻径2 cm程度 | 陸域：開放地 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 主に春? | 体内受精(卵生/直達発生) | 生きた植物体や落葉等 | 植物の食害(他動物の餌) | 農作物(果樹を含む)の食害 | 家庭菜園での食害 | 広東充血戦中の中間宿主 |
| 軟体動物 | コハクガイ | 殻径0.5 cm程度 | 陸域：開放地 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(卵生/直達発生) | 落葉等で、時に生きた植物体 | 植物の食害 | 農作物の根等の食害 | 家庭菜園での食害 | 広東充血戦中の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | コビトノボウシザラ | 殻長0.3 cm程度 | 淡水域：止水域の水草の葉裏等 | 直達発生で、幼貝から成貝に成長する | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(付着卵囊/直達発生) | 珪藻等 | 不明 | 不明 | 不明 | 吸虫類の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | ゴマフダマ | 殻高2.5 cm程度 | 海域：潮間帯から上部浅海带の砂/砂泥底 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(卵囊[砂茶碗]形成) | 二枚貝等の貝類 | 在来種の捕食 | 有用二枚貝類の捕食 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | サカマキガイ | 殻高0.8 cm程度 | 淡水域：止水域の水草等 | 直達発生で、幼貝から成貝に成長する | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(付着卵囊/直達発生) | 珪藻等、時に生葉 | 不明(他動物の餌・?在来種の捕食) | 水田作物等の食害の可能性 | 観葉植物の食害 | 吸虫類の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | サキグロタマツメタ | 殻高5 cm程度 | 海域：潮間帯から上部浅海带の砂/砂泥底 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(卵囊[砂茶碗]形成) | 二枚貝等の貝類 | 在来種の捕食 | 有用二枚貝類の捕食 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | シジミ類 | 殻長2.5 cm程度 | 淡水域：人里周辺の流れの弱い流水域や止水域 | 幼貝から成貝へ成長する | 受精は体内で、定着場所は成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(放精) | 懸濁物食 | 在来のマシジミとの置き換わりの可能性 | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | シナハマグリ | 殻長8 cm程度 | 海域：潮間帯から上部浅海带の砂/砂泥底 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体外受精(放卵放精) | 懸濁物食 | 不明(他動物の餌) | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | シマメノウフネガイ | 殻長3 cm程度 | 海域：潮間帯から上部浅海带の貝類等の基質上 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(卵囊保育?/雄先成熟) | 懸濁物食(貝類等の排泄物を含む) | ?在来種の成長阻害 | 有用巻貝類の成長阻害の可能性 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | スクミリンゴガイ | 殻長6 cm程度 | 淡水域：水田等の止水域や緩やかな流れの流水域 | 卵から幼貝で孵化し、成貝に成長する | 成体と同じ | 冬季以外 | 体内受精(卵生/付着卵産卵/直達発生) | 生植物を含む植物体 | 植物の食害(他動物の餌) | 水田作物の食外 | 不明(大量死亡時の水質悪化等?) | 広東充血戦中の中間宿主 |
| 軟体動物 | スナガイ | 殻高0.3 cm程度 | 陸域：開放地から林縁部 | 受精後、たぶん産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(雌雄同体/直達発生) | 主に落葉等 | 不明(他動物の餌) | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | スナガイ類 | 殻高0.3 cm程度 | 陸域：開放地 | 受精後、たぶん産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(雌雄同体/直達発生) | 主に落葉等 | 不明(他動物の餌) | 不明 | 不明 | なし? |
| 軟体動物 | タイワンシジミ | 殻長2 cm程度 | 淡水域：人里周辺の流れの弱い流水域や止水域 | 体内で稚貝となり、体外へ放出され、幼貝から成貝へ成長する | 受精は体内で、定着場所は成体と同じ | 不明(冬季には行わない?) | 体内受精(放精：雄性発生) | 懸濁物食 | 在来のマシジミとの置き換わり | 不明(国外では用水路等の送水阻害がある) | 不明 | なし? |

千葉県の外来種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 |
|------|------------------|---------------|--------|---|--|------------------------------------|-------------------------------------|------------------------------|---------------|----------------|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | |
| 軟体動物 | イガイダマシ | C | C | 個体数も多く、プランクトン幼生を出すので、駆除等が難しい。足糸で付着するので、他生物等への影響大? | バラストタンク水の「殺菌」や付着生物のチェック; 塗料等による付着面への定着阻害 | 特になし | 波部(1980a); 日本生態学会(2002) | 朝倉(1992) | | |
| 軟体動物 | イスパニアマイマイ | C | A | 被害は出ていないが、生息地が限定されており、定着初期なので、根絶できる可能性がある | 苗木等の移動時のチェック | 薬剤散布や生息環境の改悪 | 上島・他(2004) | 上島・他(2004) | | |
| 軟体動物 | インドヒラマキガイ | C | C | 野外逸脱のみで、野外での繁殖は確認されていない。水槽内では付着藻の除去に利用されている | 水草等の移動時のチェックや水槽内個体の野外投棄禁止 | 特になし | 波部(1973) | 倉西(1996) | | |
| 軟体動物 | ウスカラシオツガイ | C | C | 個体数も多く、プランクトン幼生を出すので、駆除等が難しい | バラストタンク水の「殺菌」や付着生物のチェック | 特になし | | 岡本(1993); 岡本・黒住(1996) | | |
| 軟体動物 | ウスシジミ | B | B | 在来のヤマトシジミとの競合等がもんだいかもしれない | 移入シジミのチェック; 食用移入の投棄禁止; 養殖・蓄養の制限 | ヤマトシジミ混獲時の除去; [産地表示の明確化] | 根本・他(2003) | 根本・他(2003) | | |
| 軟体動物 | ウネナシトマヤ | C | C | 個体数も多く、プランクトン幼生を出すので、駆除等が難しい | バラストタンク水の「殺菌」や付着生物のチェック | 特になし | | (飯島(2004)) | | 在来個体群の可能性も残る |
| 軟体動物 | ウメノハナガイモドキ | C | B | 個体数も多く、プランクトン幼生を出すので、駆除等が難しい。 | バラストタンク水の「殺菌」や移入アサリのチェック | 特になし; [産地表示の明確化] | | 風呂田(2001) | | 国内外来的なもの |
| 軟体動物 | オナジマイマイ | C | C | 県内には広く分布するが、個体数は少なく、農業被害は少ないようである | 苗木等の移動時のチェック | 薬剤散布や耕種の防除 | 黒田(1959) | 稲葉(1975); 黒住・岡本(1996) | | |
| 軟体動物 | カネツケシジミ | B | A | 着実に分布を広げており、在来種のマシジミを駆逐する可能性がある | 移入シジミのチェック; 食用移入の投棄禁止; 養殖・蓄養の制限 | 特になし; [産地表示の明確化] | 諸喜田(1984); 増田・他(1998); 日本生態学会(2002) | 黒住・他(2004) | | |
| 軟体動物 | カワニナ属の一種 | C | C | まだ確実に増加しそうだが、根絶が難しい | 移入シジミのチェック | 特になし; [産地表示の明確化] | 黒住・岡本(2002) | 黒住・岡本(2002) | | |
| 軟体動物 | キュウシュウナミコギセル | C | C | 周辺へ分布拡大していない | 苗木等の移動時のチェック | 特になし | | 岡本(2000) | | |
| 軟体動物 | コウラナメクジ(キイロナメクジ) | C | C | 県内では、ほぼ絶滅したようである | 農作物・苗木等の移動時のチェック | 特になし | 山口・波部(1955) | 稲葉(1975); 成毛(1985) | | 現在は絶滅? |
| 軟体動物 | コウロエンカワヒバリガイ | B | C | 個体数も多く、プランクトン幼生を出すので、駆除等が難しい。足糸で付着するので、他生物等への影響大? | バラストタンク水の「殺菌」や付着生物のチェック; 塗料等による付着面への定着阻害 | 特になし | 品川(1978); 木村(1994a); 日本生態学会(2002) | 朝倉(1992) | | |
| 軟体動物 | コケガラス | B | B | 定着していても初期の可能性があり、個体数増加を軽減できるかもしれない。足糸で付着するので、他生物等への影響大? | 移入アサリのチェック | 特になし; [産地表示の明確化] | | | | 野外逸脱的、国内外来的なもの |
| 軟体動物 | コンダカヒメモノアラガイ | C | C | 個体数・確認地点も少なく、被害等の報告はない | 水草等の移動時のチェック | 特になし | 黒田(1963) | 倉西(1996); 新島・田中(2000) | | |
| 軟体動物 | コハクオナジマイマイ | B | B | 近年、着実に分布域を拡大しており、農作物への被害もある | 苗木等の移動時のチェック | 薬剤散布や耕種の防除 | | 岡本(1992) | | 国内外来 |
| 軟体動物 | コハクガイ | B | C | 広範囲に分布しているが、県内からは農業被害の報告はない | 苗木等の移動時のチェック | 薬剤散布 | 黒田(1958) | 稲葉(1975); 黒住・岡本(1996) | | |
| 軟体動物 | コビトノボウシザラ | C | C | 報告例も少なく、被害等の報告もない | 水草等の移動時のチェックや水槽内個体の野外投棄禁止 | 特になし | Habe & Barch(1965) | | | |
| 軟体動物 | ゴマフダマ | A | A | 未だ野外での繁殖は確認されていないが、個体が増加すると影響がでそうなので、早めの対策が必要 | 移入アサリのチェック | 特になし; [産地表示の明確化] | | 黒住・岡本(1996) | | 野外逸脱的、国内外来的なもの |
| 軟体動物 | サカマキガイ | B | C | 分布域・個体数とも多く、駆除等は難しい。ただ在来種の直接的捕食の可能性も示唆されている | 水草等の移動時のチェックや水槽内個体の野外投棄禁止 | 時に薬剤散布 | 黒田(1963); 日本生態学会(2002) | 稲葉(1975); 黒住・岡本(1996) | | |
| 軟体動物 | サキグロタマツメタ | A | B | 有用貝類への捕食が認められるが、個体数が増加しており、駆除等は困難 | 移入アサリのチェック | 一部、見つけ採り; [産地表示の明確化] | 酒井(2000); 大越(2003) | | | 国内外来的なもの |
| 軟体動物 | シジミ類 | C | A | 着実に分布を広げており、在来種のマシジミを駆逐する可能性がある。まだ定着地は少ないようである。 | 移入シジミのチェック; 食用移入の投棄禁止; 養殖・蓄養の制限 | 特になし; [産地表示の明確化] | 根本・他(2003) | | | |
| 軟体動物 | シナハマグリ | C | A | 定着する可能性は低いですが、逆に定着等が認められれば、初期の根絶等が可能かもしれない。 | 移入ハマグリ・アサリのチェック; 食用移入の投棄禁止; 養殖・蓄養の制限 | 特になし; [産地表示の明確化] | 日本生態学会(2002) | 岡本・黒住(1996) | | |
| 軟体動物 | シマメノウフネガイ | B | C | 広範囲に多数生息しており、駆除等は困難 | バラストタンク水の「殺菌」や付着生物のチェック | 特になし | 間瀬(1969); 江川(1985); 日本生態学会(2002) | 朝倉(1992) | | |
| 軟体動物 | スクミリンゴガイ | A | A | 現実的な農業被害が出ているので、早急な対策が必要。ただ全国でも根絶等はできていない | 植物防衛法の遵守; 国内移動の制限 | 取水口からの侵入防止/捕殺・厳寒期のロータリー耕・登録薬剤による防除 | 宮崎(1985); 日本生態学会(2002) | 入村・細川(1993) | | |
| 軟体動物 | スナガイ | C | C | 個体数が多く、微小なので、駆除等は難しい | 苗木等の移動時のチェック | 特になし | | 黒住・岡本(1996) | | |
| 軟体動物 | スナガイ類 | C | B | 報告例も少なく、面積も狭いので、駆除実験が可能かもしれない | 農作物・苗木等の移動時のチェック | 特になし | | | | |
| 軟体動物 | タイワンシジミ | B | A | 着実に分布を広げており、在来種のマシジミを駆逐する可能性がある | 移入シジミのチェック; 食用移入の投棄禁止; 養殖・蓄養の制限 | 特になし; [産地表示の明確化] | 増田・他(1998); 日本生態学会(2002) | 新島・田中(2000); 千葉県史料研究財団(2002) | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|------|-------------|--|----------------------|---------------------|---------------------|--------------------|--|------------------------|----------------------|----------------|----------------|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 軟体動物 | タスキガケサカマキガイ | <i>Physa</i> sp. cf. <i>gyrina</i> | 腹足綱/サカマキガイ科 | 北アメリカ? | ヤマト | 各地 | 各地の止水域に見られるが、詳細は不明 | 観用水草? | 観用水草等 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | チャコウラナメクジ | <i>Lehmannia valentiana</i> | 腹足綱/コウラナメクジ科 | ヨーロッパ | ヤマト | 各地 | 人里に広く生息 | 資材 | 様々な資材 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | トクサオカチヨウジガイ | <i>Paropeas achatinaceum</i> | 腹足綱/オカチキレガイ科 | 東南アジア | ヤマト・琉球・小笠原 | 各地 | 人里に広く生息 | サトウキビ | 植栽等 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | ニワコウラナメクジ | <i>Milax gagates</i> | 腹足綱/ニワコウラナメクジ科 | ヨーロッパ | ヤマト(東京?) | 県西部 | 記録・密度とも極めて少ない | 資材 | 様々な資材 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降)? |
| 軟体動物 | ノハライシノシタ | <i>Helicodiscus inermis</i> | 腹足綱/イシノシタ科 | 北アメリカ | ヤマト(関東) | 千葉市 | 記録は少なく、状況不確実 | 資材 | 様々な資材 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 平成時代? |
| 軟体動物 | ノハラナメクジ | <i>Deroceas laeve</i> | 腹足綱/ノハラナメクジ科 | ヨーロッパ | 日本全国 | 各地 | 人里に広く生息 | 牧草? | 様々な資材 | 明治時代 | 明治時代? |
| 軟体動物 | パツラマイマイ | <i>Discus pauper</i> | 腹足綱/パツラマイマイ科 | 国内在来種(北日本) | 国内在来種(北日本) | 各地 | 県北部を中心に、広く、時に高密度に生息 | 国内在来種 | 植栽等 | 江戸時代? | 昭和時代(太平洋戦争以降)? |
| 軟体動物 | ハプタエモノアラガイ | <i>Pseudosuccinea columella</i> | 腹足綱/モノアラガイ科 | 北アメリカ | ヤマト | 各地 | 人里に広く生息 | 観用水草? | 様々な資材 | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | ハマグリ | <i>Meretrix lusoria</i> | 二枚貝綱/マルスダレガイ科 | 有明海/黄海 | ヤマト | 東京湾 | 在来個体群は絶滅し、外来群が時々発見される。定着の可能性もある | (国内在来種:現在は主に九州周辺に生息) | 潮干狩り用アサリ/養殖 | (東京湾在来種) | 平成時代 |
| 軟体動物 | ヒタチマイマイ | <i>Euhadra brandtii brandtii</i> | 腹足綱/オナジマイマイ科 | ヤマト(主に茨城県と千葉県利根川流域) | ヤマト(主に茨城県と千葉県利根川流域) | 千葉市中央区 | 分布域を外れた地域で確認され、定着しているが、分布は拡大していない | (国内在来種:主に茨城県と千葉県利根川流域) | 植木? | (県内在来種) | 昭和時代最晩期 |
| 軟体動物 | ヒラマキミズマイマイ類 | <i>Gyraulus</i> sp. cf. <i>illibatus</i> | 腹足綱/ヒラマキガイ科 | 東南アジア? | ?ヤマト | 千葉市 | 千葉市のものは標本の所在が明らかでないので再検討できていない。県内各地に分布している可能性が高い | 観用水草? | 観用水草? | 昭和時代(太平洋戦争以降) | 昭和時代(太平洋戦争以降)? |
| 軟体動物 | ホソウミニナ | <i>Batillaria cumingii</i> | 腹足綱/ウミニナ科 | 県内在来種 | 県内在来種 | 市川市新浜 | 実験的に持ち込み、繁殖している | | 実験用持込 | (国内在来種) | 昭和時代(太平洋戦争以降) |
| 軟体動物 | ホンビノスガイ | <i>Mercenaria mercenaria</i> | 二枚貝綱/マルスダレガイ科 | 北アメリカ東岸 | ヤマト(関東) | 東京湾 | 着実に、生息域・個体数を増加させている | 食用投棄 | 能動分散 | 平成時代 | 平成時代 |
| 軟体動物 | マルタニシ | <i>Cipangopaludina chinensis laeta</i> | 腹足綱/タニシ科 | 中国 | 北海道・ヤマト・琉球 | 各地 | 着実に個体数が減少している | 水稻 | 水稻 | 史前帰化 | 史前帰化 |
| 軟体動物 | ミジンマイマイ | <i>Valonia pulchellula</i> | 腹足綱/ミジンマイマイ科 | 国内在来種 | 国内在来種 | 各地 | 在来群は海岸地域に、外来群は造成地等に生息している | 国内在来種 | 植栽等 | 昭和時代(太平洋戦争以降)? | 昭和時代(太平洋戦争以降)? |
| 軟体動物 | ムラサキガイ | <i>Mytilus galloprovincialis</i> | 二枚貝綱/イガイ科 | 地中海 | 北海道・ヤマト | 各地 | 各地で普通に生息している | 船底付着 | 船底付着 | 昭和時代(太平洋戦争以前) | 昭和時代(太平洋戦争以前) |
| 軟体動物 | モノアラガイ類 | <i>Lymnaea</i> spp. | 腹足綱/モノアラガイ科 | ? (一部は東南アジア?) | ヤマト(関東) | 県北部 | 記録地域は少ないが、広く分布していると考えられる | 観用水草? | 水草 | 平成時代 | 平成時代 |
| 軟体動物 | ヤマトシジミ種群 | <i>Corbicula</i> sp. cf. <i>japonica</i> | 二枚貝綱/シジミ科 | 東アジア | ヤマト(関東) | 東京湾億部/東京都側 | 千葉県側での生息の確認はできていないが、ほぼ確実に定着していると考えられる | 食用シジミ | 食用シジミ | 平成時代 | 平成時代 |
| 節足動物 | アメリカザリガニ | <i>Procambarus clarkii</i> | エビ目アメリカザリガニ科 | アメリカ合衆国東南部 | 本州、四国、九州 | 都川、栗山川、南白亀川調査で記録あり | | | ウシガエルの餌料として移入 | | |
| 節足動物 | イチジクモンサビダニ | | | | | | | 一部 | | | |
| 節足動物 | キタアメリカフジツボ | <i>Balanus glandula</i> | 無柄目フジツボ科 | | | | | | 護岸、岩等 | | |
| 節足動物 | シクラメンホコリダニ | | | | | | | | 松戸市(ハウス内)野外では未確認 | | |
| 節足動物 | トマトサビダニ | | | | | | | | 全域(ハウス内)野外では未確認 | | |
| 節足動物 | モクセイハダニ | | | | | | | | 松戸市 | | |
| 節足動物 | ヨーロッパフジツボ | <i>Balanus improvisus</i> | 無柄目フジツボ科 | | | | | | 護岸、岩等 | | |
| 節足動物 | ランヒメハダニ | | | | | | | | 山田町(ハウス内)野外では未確認 | | |
| 節足動物 | ルイスハダニ | | | | | | | | 大栄町、東庄町(ハウス内)野外では未確認 | | |
| 節足動物 | オカダンゴムシ | <i>Armadillidium vulgare</i> | 等脚目(ワラジムシ目)、オカダンゴムシ科 | ヨーロッパ(地中海地域と考えられる) | 全国的に分布(関東・北陸以南に多い) | | 全国的に入為の及ぶ場所にごく普通 | 不明 | 不明 | 明治以降 | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 2 / 3

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|------|-------------|------------|------------------------|---|-------------------|---------------|-----------------|---------------|--|-----------------------------|----------------------|-----------------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 軟体動物 | タスキガケサカマキガイ | 殻高0.8 cm程度 | 淡水域：止水域の水草等 | 直達発生で、幼貝から成貝に成長する | 成体と同じ | 不明（冬季には行わない？） | 体内受精（付着卵囊/直達発生） | 珪藻等 | 不明（他動物の餌・？在来種の捕食） | 水田作物等の食害の可能性 | 観葉植物の食害 | 吸虫類の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | チャコウラナメクジ | 体長3 cm程度 | 陸域：開放地 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 主に春先 | 体内受精（卵生/直達発生） | 生きた植物体や落葉等 | 植物の食害（他動物の餌） | 農作物の食害 | 家庭菜園での食害 | 広東充血戦中の中間宿主 |
| 軟体動物 | トクサオカチョウジガイ | 殻高0.8 cm程度 | 陸域：開放地 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明（冬季には行わない？） | 体内受精（卵生/直達発生） | 落葉等で、時に生きた植物体 | 不明（他動物の餌） | 農作物の根等の食害 | 家庭菜園での食害 | 吸虫類の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | ニワコウラナメクジ | 体長3 cm程度 | 陸域：開放地 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明 | 体内受精（卵生/直達発生） | 生きた植物体や落葉等 | 植物の食害 | 農作物の食害の可能性 | 家庭菜園での食害の可能性 | 広東充血戦中の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | ノハラシノシタ | 殻径0.2 cm程度 | 陸域：開放地の石の下等 | 受精後、多分産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明 | 体内受精（直達発生） | 不明 | 不明 | 不明 | 不明 | 広東充血戦中の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | ノハラナメクジ | 体長2.5 cm程度 | 陸域：開放地の主に水際等 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明 | 体内受精（卵生/直達発生） | 生きた植物体や落葉等 | 植物の食害（他動物の餌） | 農作物の食害 | 家庭菜園での食害 | 広東充血戦中の中間宿主 |
| 軟体動物 | バツラマイマイ | 殻径0.8 cm程度 | 陸域：開放地から林縁部 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明（冬季には行わない？） | 体内受精（雌雄同体/直達発生） | 主に落葉等 | 不明（他動物の餌） | 不明 | 不明 | なし？ |
| 軟体動物 | ハブタエモノアラガイ | 殻高1 cm程度 | 淡水域：主に止水域の水面直上の湿性部分 | 直達発生で、幼貝から成貝に成長する | 成体と同じ | 不明（冬季には行わない？） | 体内受精（付着卵囊/直達発生） | 珪藻等 | 不明（他動物の餌） | 不明 | 不明 | 吸虫類の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | ハマグリ | 殻長5 cm程度 | 海域：潮間帯から上部浅海帯の砂/砂泥底 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 産卵は6-10月 | 体外受精（放卵受精） | 懸濁物食 | 不明（他動物の餌） | 不明 | 不明 | なし？ |
| 軟体動物 | ヒタチマイマイ | 殻径2.5 cm程度 | 陸域：林縁 | 受精後、産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 主に春？ | 体内受精（卵生/直達発生） | 付着藻類や枯葉等 | 不明（他動物の餌） | 不明 | 不明 | 広東充血戦中の中間宿主 |
| 軟体動物 | ヒラマキミズマイマイ類 | 殻径5 cm程度 | 淡水域：止水域の水草等 | 直達発生で、幼貝から成貝に成長する | 成体と同じ | 不明（冬季には行わない？） | 体内受精（付着卵囊/直達発生） | 珪藻等 | 不明 | 不明 | 不明 | 吸虫類の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | ホソウミナ | 殻高2 cm程度 | 海域：潮間帯の砂・砂泥底 | 直達発生で、幼貝から成貝に成長する | 成体と同じ | 不明（冬季には行わない？） | 体内受精（胎生） | 珪藻等 | 不明 | 不明 | 不明 | なし？ |
| 軟体動物 | ホンビノスガイ | 殻長8 cm程度 | 海域：潮間帯から上部浅海帯の砂/砂泥底 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 不明（冬季には行わない？） | 体外受精（放卵受精） | 懸濁物食 | 不明（他動物の餌） | 不明 | 不明 | なし？ |
| 軟体動物 | マルタニシ | 殻長5 cm程度 | 淡水域：水田等の止水域 | 交尾後、体内受精・発生を経て、幼貝として体外へ放出され、成貝に成長する | 成体と同じ | 主に春 | 体内受精（胎生：雌雄異体） | 珪藻等 | 不明（他動物の餌） | 不明 | 不明 | なし？ |
| 軟体動物 | ミジンマイマイ | 殻径0.3 cm程度 | 陸域：開放地から林縁部 | 受精後、たぶん産卵し、孵化後、幼貝から成貝に成長 | 成体と同じ | 不明（冬季には行わない？） | 体内受精（雌雄同体/直達発生） | 主に落葉等 | 不明（他動物の餌） | 不明 | 不明 | なし？ |
| 軟体動物 | ムラサキイガイ | 殻長6 cm程度 | 海域：潮間帯から上部浅海帯の基質に足糸で付着 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 産卵は春から秋 | 体外受精（放卵受精） | 懸濁物食 | 不明（在来種の定着場所被覆・海水の濾過・他動物の餌/生息場所） | 船底や養殖施設を含めた漁業関係資材への付着が認められる | 発電所の取・排水管への付着による効率悪化 | なし？ |
| 軟体動物 | モノアラガイ類 | 殻高0.8 cm程度 | 淡水域：止水域の水草等 | 直達発生で、幼貝から成貝に成長する | 成体と同じ | 不明（冬季には行わない？） | 体内受精（付着卵囊/直達発生） | 珪藻等 | 不明（他動物の餌） | 不明 | 不明 | 吸虫類の中間宿主の可能性 |
| 軟体動物 | ヤマトシジミ種群 | 殻長2 cm程度 | 汽水域：内湾の潮間帯砂/砂泥底 | プランクトン幼生が着底し、幼貝から成貝へ成長する | 受精は水中で、定着場所は成体と同じ | 産卵期は5-8月 | 体外受精（放卵受精） | 懸濁物食 | 在来のヤマトシジミとの競合や置き換わりの可能性 | 不明 | 不明 | なし？ |
| 節足動物 | アメリカザリガニ | | 淡水域 | 河川、池沼、水田、用水路などの止水や流れの緩やかな泥底に生息する。満1年で体長約40mm、2年で約60mmに成長し、成熟する。 | | | | 雑食性 | 稚エビの間は魚や水生昆虫などの餌になる個体が多いが、成長するに従ってこの関係は逆転する。 | イネ、苗代 | | |
| 節足動物 | イチジクモンサビダニ | | 陸域 | | | | | | | イチジクに被害 | | |
| 節足動物 | キタアメリカフジツボ | | 海域：護岸、岩等 | | | | | 懸濁物食 | | | | |
| 節足動物 | シクラメンホコリダニ | | 陸域 | | | | | | | シクラメンに被害 | | |
| 節足動物 | トマトサビダニ | | 陸域 | | | | | | | トマトに被害 | | |
| 節足動物 | モクセイハダニ | | 陸域 | | | | | | | モクセイに被害 | | |
| 節足動物 | ヨーロッパフジツボ | | 海域：護岸、岩等 | | | | | 懸濁物食 | | | | |
| 節足動物 | ランヒメハダニ | | 陸域 | | | | | | | ファレノブシスに被害 | | |
| 節足動物 | ルイスハダニ | | 陸域 | | | | | | | ポインセチアに被害 | | |
| 節足動物 | オカダンゴムシ | | 陸域 | 人為の及ぶ場所、寿命不詳 | 人為の及ぶ場所 | 春～秋に産卵 | 殆ど同じ形態 | 雑食 | | 園芸作物を食害することがある | 人により不快害虫 | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 3 / 3

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無(保管先) | 備考 |
|------|-------------|---------------|--------|---|---|-------------------------|---|--|---------------|----------------|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | |
| 軟体動物 | タスキガケサカマキガイ | C | C | サカマキガイとの識別が難しく、また被害等の報告も内容である | 水草等の移動時のチェックや水槽内個体の野外投棄禁止 | 特になし | 岡本(1976);増田・内山(2004) | 岡本(1976) | | |
| 軟体動物 | チャコウラナメクジ | B | B | 家庭菜園を中心に小面積の農地での被害が大きい | 農作物・苗木等の移動時のチェック | 薬剤散布 | 山口・波部(1955);日本生態学会(2002) | 稲葉(1975);黒住・岡本(1996) | | |
| 軟体動物 | トクサオカチョウジガイ | B | C | 県内では、農業被害等の報告は似ようである | 農作物・苗木等の移動時のチェック | 特になし | 黒田(1958) | 稲葉(1975) | | |
| 軟体動物 | ニワコウラナメクジ | C | C | 発見例が極めて少ないので影響は現在のところ軽微である | 農作物・苗木等の移動時のチェック | 特になし | 山口・波部(1955) | ?稲葉(1975) | | |
| 軟体動物 | ノハライシノシタ | C | C | 確認地点も少なく、生息場所からも影響は軽微と考えられる | 苗木等の移動時のチェック | 特になし | Kano(1996) | | | |
| 軟体動物 | ノハラナメクジ | C | C | 農作物に被害を与える可能性が高いが、その報告はないようである | 農作物・苗木等の移動時のチェック | 薬剤散布 | 山口・波部(1955) | 稲葉(1975);黒住・岡本(1996) | | |
| 軟体動物 | パツラマイマイ | C | C | 個体数が多いので、駆除等は難しい | 苗木等の移動時のチェック | 特になし | 黒住(2003) | 稲葉(1975);黒住・岡本(1996) | | |
| 軟体動物 | ハブタエモノアラガイ | C | C | 広範囲に分布しているが、被害等は報告されていないようである | 水草等の移動時のチェック | 特になし | 品川(1981);増田・内山(2004) | 黒住・岡本(1996);新島・田中(2004) | | |
| 軟体動物 | ハマグリ | B | B | 外来群のDNAが東京湾在来のもと同じであれば、繁殖も良いと思うので、早急なDNAのチェックが必要 | 移入ハマグリ・アサリのチェック;食用移入の投棄禁止;養殖・蓄養の制限 | 特になし;[産地表示の明確化] | | | | 野外逸脱的、国内外来的なもの |
| 軟体動物 | ヒタチマイマイ | C | C | 小面積での繁殖だが、保護されている場所なので、この種だけの駆除は難しい | 苗木等の移動時のチェック | 特になし | | 黒住(1994) | | |
| 軟体動物 | ヒラマキミズマイマイ類 | C | C | 在来種との識別が難しく、また被害等の報告も内容である | 水草等の移動時のチェックや水槽内個体の野外投棄禁止 | 特になし | 増田・内山(2004) | 村山・倉西(2001) | | |
| 軟体動物 | ホソウミニナ | C | C | 由来がわかっており、絶滅した地域での回復調査としての意義が大きいので見守る | 移入アサリのチェック | 個体群動態の調査 | (県内在来種) | 飯島(2004) | | |
| 軟体動物 | ホンビノスガイ | B | C | 個体数増加が大きく、影響がでるのかもしれない | 食用移入種の投棄禁止 | 特になし | | 黒住・岡本(2002);西村(2005) | | |
| 軟体動物 | マルタニシ | C | C | 史前帰化と考えられ、減少していることによる良くない影響がでている | 食用移入の投棄禁止;養殖・蓄養の制限 | 特になし | 黒住(2000) | 黒住・岡本(1996) | | |
| 軟体動物 | ミジンマイマイ | C | C | 個体数が多く、微小なので、駆除等は難しい | 苗木等の移動時のチェック | 特になし | | 稲葉(1975) | | |
| 軟体動物 | ムラサキガイ | A | C | IUCNワースト100;個体数も多く、プランクトン幼生を出すので、駆除等が難しい。足糸で付着するので、他生物等への影響大? | バラストタンク水の「殺菌」や付着生物のチェック;塗料等による付着面への定着阻害 | 塗料等による付着面への定着阻害と人力による除去 | 金丸(1935);梶原(1985);日本生態学会(2002) | 朝倉(1992) | | |
| 軟体動物 | モノアラガイ類 | C | C | 人工池等に分布を広げているが、被害等は確認されていないようである | 水草等の移動時のチェックや水槽内個体の野外投棄禁止 | 特になし | 上島・他(2000);増田・内山(2004) | | | |
| 軟体動物 | ヤマトシジミ種群 | C | B | 現在のところは、在来のヤマトシジミの絶滅域なので問題は少ないが、今後の動態を把握して置かねばならない | 移入シジミのチェック;食用移入の投棄禁止;養殖・蓄養の制限 | 特になし;[産地表示の明確化] | | | | |
| 節足動物 | アメリカザリガニ | | | | | | 日本生態学会編・村上興正・鷲谷いづみ・監修(2002)外来種ハンドブック. 地人書館. 5) 伴浩治(1980)アメリカザリガニ:侵略成功の鍵。「日本の淡水生物:侵略と攪乱の生態学」(川合禎次・川那部浩哉・水野信彦編), pp.37-43. 東海大学出版会. 6) 奥田重俊・柴田敏隆・島谷幸宏・水野信彦・矢島稔・山岸哲・監修(1996)川の生物 | | | |
| 節足動物 | イチジクモンサビダニ | | | | | なし | | | | |
| 節足動物 | キタアメリカフジツボ | | | | | | | | | |
| 節足動物 | シクラメンホコリダニ | | | | | 薬剤防除(効果あり) | | 上遠野富士夫他(1999)千葉県の植物ダニ類、千葉県生物学会(編)、千葉県動物誌、東京、p197 | | |
| 節足動物 | トマトサビダニ | | | | | 薬剤防除(効果あり) | | | | |
| 節足動物 | モクセイハダニ | | | | | なし | | 上遠野富士夫他(1999)千葉県の植物ダニ類、千葉県生物学会(編)、千葉県動物誌、東京、p194 | | |
| 節足動物 | ヨーロッパフジツボ | | | | | | | | | |
| 節足動物 | ランヒメハダニ | | | | | | | 上遠野富士夫他(1999)千葉県の植物ダニ類、千葉県生物学会(編)千葉県動物誌、東京、p195 | | |
| 節足動物 | ルイスハダニ | | | | | なし | | | | |
| 節足動物 | オカダンゴムシ | | | | | | 布村(2001)等 | | | |

千葉県外来種整理表
(全動物種原案)

表 1 / 3

| 分類 | 和名 | 学名 | 分類群 | 土着生息地(原産地) | 分布・生息情報 | | | 移入経路 | | 移入年代 | |
|------|---------------|---------------------------------|----------------------|----------------------------|--------------------|---------------------------------|-----------|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------|-----|
| | | | | | 日本での分布状況 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 日本 | 千葉県 | 日本 | 千葉県 |
| 節足動物 | オビワラジムシ | <i>Porcellio dilatatus</i> | 等脚目(ワラジムシ目)、ワラジムシ科 | ヨーロッパ(地中海地域と 考えられる) | 関東地方などに希 | 館山市で報告例有り | | 不明 | 不明 | 明治以降 | |
| 節足動物 | ナガワラジムシ | <i>Haplophthalmus danicus</i> | 等脚目(ワラジムシ目)、ナガワラジムシ科 | ヨーロッパ(地中海地域と 考えられる) | 全国的に分布(関東・北陸以南に多い) | 全県的に公園や二次林など | | 不明 | 不明 | 明治以降 | |
| 節足動物 | ホソワラジムシ | <i>Porcellionides pruinosus</i> | 等脚目(ワラジムシ目)、ワラジムシ科 | ヨーロッパ(地中海地域と 考えられる) | 全国的に分布(関東・北陸以南に多い) | 全県的に人為の及ぶ場所 | | 不明 | 不明 | 明治以降 | |
| 節足動物 | ワラジムシ | <i>Porcellio scaber</i> | 等脚目(ワラジムシ目)、ワラジムシ科 | ヨーロッパ | 全国的に分布(中部以北に多い) | 全県的に人為の及ぶ場所にごく普通 | | 不明 | 不明 | 明治以降 | |
| 節足動物 | アメリカフジツボ | <i>Balanus eburneus</i> | 無柄目フジツボ科 | アメリカ合衆国北部東岸～ 南米北岸 | 本州、四国、九州 | 東京湾沿岸 | | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底かバラスト水) | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底かバラスト水) | 明治以降(1950年) | |
| 節足動物 | イッカククモガニ | <i>Pyromaia tuberculata</i> | 十脚目クモガニ科 | 北米太平洋岸のサンフランシスコから南米コロンビアまで | 本州、四国、九州 | 東京湾沿岸 | | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底かバラスト水) | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底かバラスト水) | 明治以降(1970年) | |
| 節足動物 | タテジマフジツボ | <i>Balanus amphitrite</i> | 無柄目フジツボ科 | 不明(?ハワイ、?フィリピン) | 北海道～九州 | 千葉県沿岸全域 | | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底かバラスト水) | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底かバラスト水) | 明治以降(1935年に相模沖の記録がある) | |
| 節足動物 | チチュウカイミドリガニ | <i>Carcinus aestuarii</i> | 十脚目ガザミ科 | 地中海 | 東京湾沿岸域(神奈川県、東京都) | 東京湾沿岸 | | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底かバラスト水) | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底かバラスト水) | 明治以降(1984年) | |
| 節足動物 | ヨーロッパフジツボ | <i>Balanus improvisus</i> | 無柄目フジツボ科 | ヨーロッパ大西洋岸 | 本州、四国、九州 | 東京湾沿岸、銚子 | | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底かバラスト水) | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底かバラスト水) | 明治以降(1952年) | |
| 節足動物 | フロリダマミズヨコエビ | <i>Crangonyx floridanus</i> | ヨコエビ目マミズヨコエビ科 | 北米 | 東北、関東、中部、関西、四国、九州 | 古利根沼(利根川水系)、千葉市(都川、鹿島川)、栗山川、一宮川 | | 観賞魚の水槽にいれる水草に付着して侵入した? | 観賞魚の水槽にいれる水草に付着して侵入した? | 1980年代 | |
| 腔腸動物 | クロガネイソギンチャク | <i>Anthopleura kurogane</i> | イソギンチャク目ウメボシイソギンチャク科 | | | | 砂地 | | | | |
| 線虫類 | レンコンネモグリセンチュウ | | | | | 千葉県長生郡、君津郡、香取郡管内のレンコン栽培圃場 | | | | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

| 分類 | 和名 | 体重等 | 生息環境 | 生活史 | 繁殖 | | | 食性 | 生態系への影響 | 人への被害 | | |
|------|---------------|-----|-------|--------------------------------|-----------------|-----------------|---------------------------------------|---------------------|---|---|----------|----------|
| | | | | | 繁殖場所 | 時期 | 繁殖形態 | | | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 |
| 節足動物 | オビワラジムシ | | 陸域 | 人為の及ぶ場所、寿命不詳 | 人為の及ぶ場所 | 不明 | 殆ど同じ形態 | 主に落葉 | | | | |
| 節足動物 | ナガラジムシ | | 陸域 | 公園や二次林など、寿命不詳 | 公園や二次林など | 不明 | 殆ど同じ形態 | 主に落葉 | | | | |
| 節足動物 | ホソワラジムシ | | 陸域 | 人為の及ぶ場所、寿命不詳 | 人為の及ぶ場所 | 春～秋に産卵 | 殆ど同じ形態 | 主に落葉 | | | 人により不快害虫 | |
| 節足動物 | ワラジムシ | | 陸域 | 人為の及ぶ場所、寿命不詳 | 人為の及ぶ場所 | 春～秋に産卵 | 殆ど同じ形態 | 主に落葉 | | | 人により不快害虫 | |
| 節足動物 | アメリカフジツボ | | 海域 | 内湾潮下帯 | 内湾潮下帯 | ほぼ周年産卵がおこなわれる | | 海中懸濁物食 | ? | 特になし | | 特になし |
| 節足動物 | イッカククモガニ | | 海域 | 内湾潮下帯 | 内湾潮下帯 | ほぼ周年 | 夏期で1ヶ月、冬季で3ヶ月で成熟し、1回の産卵後直ちに次のバッチを産卵する | 海底堆積有機物食 | 在来の小型カニ類の生息に影響を与える可能性がある | 特になし | | 特になし |
| 節足動物 | タテジマフジツボ | | 海域 | 内湾潮間帯～潮下帯 | 内湾潮間帯～潮下帯 | ほぼ周年産卵がおこなわれる | | 海中懸濁物食 | 船底汚損生物 | 特になし | | 特になし |
| 節足動物 | チチュウカイミドリガニ | | 海域 | 内湾潮下帯、寿命は少なくとも3年以上。 | 内湾潮下帯 | 冬期を中心とした11月から5月 | 幼生の着底は3月ごろ、稚ガニは春から夏に成長しその年の秋から繁殖をはじめ。 | おそらく二枚貝やゴカイを主食とする肉食 | 在来のカニ類の生息に影響を与える可能性がある | 在来の水産有用ワタリガニ類の生息に影響を与える可能性がある | | 特になし |
| 節足動物 | ヨーロッパフジツボ | | 海域 | 内湾潮下帯 | 内湾潮下帯 | ほぼ周年産卵がおこなわれる | | 海中懸濁物食 | ? | 特になし | | 特になし |
| 節足動物 | フロリダマミズヨコエビ | | 淡水域 | 詳細不明、やや富栄養化した河川、湖沼で年間を通して採集される | 河川では礫底、湖沼では水草帯、 | | | デトライタス | 汚れた水や夏期の高水温に強く、河川中の有機物を分解するフロリダマミズヨコエビは、同様の生活要求をもつ他の底生動物に大きな脅威を与えることが考えられ、また水生植物を強力で分解し植生を一変させてしまう可能性もある。 | 現状では不明 | | 現状では不明 |
| 腔腸動物 | クロガネイソギンチャク | | 海域：砂地 | | | | | 肉食 | | | | |
| 線虫類 | レンコンネモグリセンチュウ | | 陸域 | | | | | | | レンコンネモグリセンチュウがレンコンの可食部となる肥大茎表皮を加害し、不正形褐色斑点を発生させ商品価値を著しく低下させる。 | | |

千葉県の外來種整理表
(全動物種原案)

表 3 / 3

| 分類 | 和名 | 生態系又は人に対する影響度 | 防除の緊急度 | | 対策 | | 文献 | | 写真・標本の有無 (保管先) | 備考 |
|------|---------------|---------------|--------|--------|----------------------|--|--|--|----------------|----|
| | | | 緊急度ランク | 緊急度の情報 | 予防対策 | すでに定着している場合の対策 | 全般 | 千葉県 | | |
| 節足動物 | オビワラジムシ | | | | | | | | | |
| 節足動物 | ナガワラジムシ | | | | | | | | | |
| 節足動物 | ホソワラジムシ | | | | | | | | | |
| 節足動物 | ワラジムシ | | | | | | 布村(2001)等 | | | |
| 節足動物 | アメリカフジツボ | | | | バラスト水の殺菌 | | 朝倉(1992), 岩崎他(2004) | | | |
| 節足動物 | イッカククモガニ | | | | バラスト水の殺菌 | | 朝倉(1992), 岩崎他(2004), 風呂田・木下(2004) | | | |
| 節足動物 | タテジマフジツボ | | | | 船底についてはすでに対策がとられている。 | | 岩崎他(2004) | | | |
| 節足動物 | チチュウカイミドリガニ | | | | バラスト水の殺菌 | | 朝倉(1992), 岩崎他(2004), 風呂田・木下(2004) | | | |
| 節足動物 | ヨーロッパフジツボ | | | | バラスト水の殺菌 | | 朝倉(1992), 岩崎他(2004) | | | |
| 節足動物 | フロリダマミズヨコエビ | | | | | 現状では不明 | Morino et al.(2004), Toft et al.(2002) | | | |
| 腔腸動物 | クロガネイソギンチャク | | | | | | | | | |
| 線虫類 | レンコンネモグリセンチュウ | | | | | 種はすは線虫の寄生していないものを選ぶ。 線虫汚染圃場からの土の移動を防ぐ。 連作を避け、休耕又は乾田化し、線虫密度を下げる。 (登録農薬がなく汚染圃場は拡大している。) | 本線虫の生理生態及び形態分類については独立行政法人農業・生物系特定産業技術研究機構 中央農業総合研究センター線虫害研究室 水久保隆之室長に照会されたい。 | 藍沢 亨ら(2002):第46回負う同根大会講要:p.32. 三平 東作 イمامラネモグリセンチュウの寄生によるレンコン黒皮線虫病(新称)の発生 千葉農総研セ研報1(2002) | | |